

高校アーチェリー会報

第11号



全国高体連アーチェリー専門部

1997年4月

WIN & WIN'S FOMAX

勝利のためのボウ

ゴルド的中のための、凝縮
メカニズム-FOMAXシリーズ

▶ FOMAXライザー 超高精度、
超高強度のための革新的デザイン

アルミニウム合金“6061”の2倍以上の引っ張り強度をもつ最高級アルミニウム“7001”を採用（7001=69kg、6061=31.5kg）。さらに鍛造工法、CNC（コンピュータ数値制御）加工法によって、まったく新しいハンドルが誕生しました。数々の革新的メカニズムを採用したFOMAXライザー、まさに「勝利のためのライザー」です。

▶ EXCALIBUR リム

運動効率に優れたリカーブ形状プラス、最高精度の接着技術が作り上げたウッドコアとカーボンファイバースグラスラミネートの組み合わせ。スムーズさと加速性能を、同時に実現しました。

▶ SIDEWINDER リム

EXCALIBUR リムとまったく同じリカーブ形状で、ウッドコアとグラスファイバーを組み合わせました。ビギナーからトップアーチャーまで、幅広い範囲でご使用になれます。

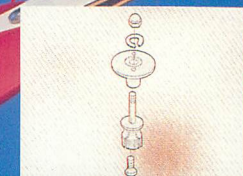
NEW
FORGED

▶ E. V. R システム



FOMAX EXCALIBURは、鍛造アルミハンドルにカーボンファイバーを結合。これにより、振動吸収性が飛躍的に向上しました。

▶ センター調整システム



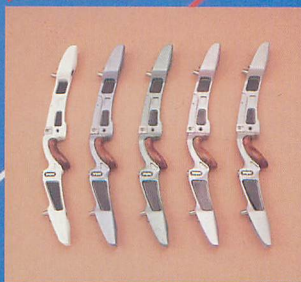
FOMAX EXCALIBURは、センターショット調整用にアンジャスタブル・ポケットシステムを採用。リムとハンドルの完璧なセンター合わせを可能にしました。

▶ FOMAX EXCALIBUR ウッドグリップ



FOMAXのグリップは、木厚22.5mmの細目のグリップ。射つ人のフィーリングを最優先したデザインです。

▶ ハンドルカラー



ホワイト、パールブルー、パールグリーン、パールバイオレット、シルバー



ホワイト、ブルー、レッド、ブラック

SIDEWINDER

標準小売価格：セット ¥68,000 ハンドル ¥33,000 リム ¥35,000

リム引き重量：64インチ 28ポンド、30ポンド、32ポンド 66インチ 28～36ポンド（2ポンド刻み） 68インチ 32ポンド、34ポンド、36ポンド
引き重量基準：26インチ 引き重量上下約2ポンド調整可能 センター調整機能付
マスターストリングハイト：64インチ 8 3/4" 66インチ 9" 68インチ 9 1/4"

EXCALIBUR

標準小売価格：セット ¥108,000 ハンドル ¥50,000 リム ¥58,000

リム引き重量：64インチ 28～34ポンド（2ポンド刻み） 66インチ 30～42ポンド（2ポンド刻み） 68インチ 36～44ポンド（2ポンド刻み）
引き重量基準：26インチ 引き重量上下約2ポンド調整可能 センター調整機能付
マスターストリングハイト：64インチ 8 3/4" 66インチ 9" 68インチ 9 1/4"

目 次

1	巻頭言	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 部長 松崎 洋右	1
2	委員長挨拶	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 委員長 藪内 徹	2
3	沿 革		3
4	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 役員名簿		4
5	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 ブロック役員名簿		6
6	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 部長名簿		7
7	全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 委員名簿		8
8	学校登録一覧		9
9	全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録状況一覧		19
10	1996ジュニアチーム海外派遣 (水上英彦・穂刈美奈子)		20
11	1996全国選手権大会優勝校紹介 (男子 大分東明高校・女子 兎道高校)		31
12	学校紹介 福島県田村高校・岩手県盛岡工業高校		33
13	技術セミナー「アーチェリー競技の運動学 (高柳富士丸)		39
14	技術セミナー「基礎トレーニングの必要性について (戸田敦子)		54
15	インターネット・ホームページ開設について		58
16	全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届けの流れについて		61
17	登録届記入法		62
18	指定都道府県番号表		63
19	全国高体連アーチェリー専門部・全日本アーチェリー連盟登録届用紙		64
20	インターハイ・全国選手権大会栄光のあゆみ 同大会記録		65
21	全国選抜大会栄光のあゆみ 同大会記録		67
22	日本高校記録		69
23	FITA世界記録・日本記録		70
24	記録収集について		74
25	高校公認記録規程		76
26	記録承認申請書様式		78
27	大会開催地・開催順		80
28	平成9年度インターハイについて		81
29	アーチェリー活動安全要領について		83
30	服装規程		86
31	全国高体連アーチェリー専門部規約		87
32	総務委員会規程		90
33	競技委員会規程		91
34	審判委員会規程		92
35	強化委員会規程		93
36	事務局規程		94
37	アーチェリー専門部表彰規程		95
38	アーチェリー専門部慶弔規程		96
39	連絡先および口座番号		97
40	あとがき		102

巻 頭 言

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

部 長 松 崎 洋 右



高体連アーチェリー専門部の諸行事も、当初の計画どおり、多大な成果を収めて、無事終らせることができましたことを、いつもながら、まず初めにお礼申し上げます。

平成8年度の夏は、アトランタ・オリンピック日本女子代表選手に大分県の高校生がアーチェリー競技代表として参加、本専門部より二人めの派遣であり、高校競技力の向上を示すものでした。また、国内では山梨県において「かけぬける夏風をきれ山梨で」のスローガンのもと、本大会より決勝チャンピオンシップ・ラウンド方式

が導入され、アトランタオリンピックと同じ新しい方式による大会が運営され、感動的な大会となりました。

時を同じくして、第一五期中央教育審議会から第一次答申がありました。答申に際して特に生徒に「生きる力」「ゆとり」をと副題を掲げ、内容において学校がその本来の役割をより有効的に果たすとともに、教育のバランスをよりよくしていくとの観点から「学校のスリム化」が提唱されました。そしてこの考え方により二点が指摘され、一つは「しつけ」であり、もう一つは部活動でした。

部活動は、教育活動の一環として、教師が生徒を理解し、生徒一人一人の個性を見いだすうえでも、大変有意義な教育活動であります。

部活動・スポーツは勿論、体格や体力の増進が目的でないわけではなく、しかし、運動部のあり様となればこれだけではもの足りなさを感じる、とくに高校時代という、かけ替えのない青春期にはもっと燃えるものが欲しい、勝利を目指してつどい集まった若者が、激しい鍛練を通じて、切磋琢磨する経験は人生の如何なる時期にも与えられるものではありません。しかし、一方的な勝利至上主義的な考え方に陥り、休日もほとんど無く長時間にわたる活動を子供たちに強制するような一部のあり方に改善が求められているものです。

このような指摘がある中で部活動指導者は、生徒指導に際して画一的な指導ではなく、個別指導や科学的トレーニングをさらに工夫し、創造的な短時間の効果的な練習を考えたいものです。

あと3年後には21世紀が到来します。その近い未来への見通しに関する情報は、発達した社会では一杯ありますがコンピュータ、遺伝子工学、医学、宇宙工学等々の現代科学技術が社会に与えるものが、これからの生活に何をどのようにもたらすかという期待と不安は私達に共通な関心であります。スポーツ、保健体育の分野でも同じことで、現在の状況が近未来にどのように変わっていくのか期待と不安の交錯の中に置かれてしまいます。

私たち専門部もつねに高所に立ち、国際的視野で物事を視る必要があります、今後の高体連アーチェリー専門部の一層の躍進を期待してあいさついたします。

委員長あいさつ

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

委員長 藪内 徹



委員長を引き継いでから瞬く間に時間が経過し、全ての事柄が昨日のこのように思い出されます。インターハイへの参加に向けた競技方法の段階的な年次変更と、それともなう審判員の再研修会等、本専門部の組織力をはるかに越える目まぐるしい変革がありました。それだけに、ここまで大過なくことが推し進められたのも、各都道府県の専門部と加盟校顧問各位の適切な対応があったればこそその思いを強くしています。

あらためて、この秘められた力を新しい方向に結集しなおし、組織力や指導力を発展飛躍させる方策を定めれば、必然的に競技力向上に展望が開けるものと考え、これまで思案してきた事から新しい年に向け推し進めたいと考えています。

その第一は、インターネットのホームページを開設することです。

本専門部関係者が連携し、弓具・射法を始めとするトレーニング法等々の最新情報や知識を、各加盟校に還元できる体制を確立し、提供内容や提案事項を加盟校が取り出しながら、自ら発展させる、時代にマッチした普及策を考えています。

すでに大筋では内外の関係者からも、善意のご支援とご協力の申し出もあり、スタートを切りながら内容の充実を図りたいと、総務委員会を中心に構想を練っている段階です。

第二は、選手育成を科学的な裏付けをもって開始しようということです。

本専門部に関わる指導者で、国際大会等に参加実績をお持ちの先生方をキャップに、医学・生理学・心理学・栄養学・トレーニング理論のアカデミックな先生方のご指導を仰ぎ、科学的な裏付けのもとに本専門部が独自に、選手育成を全国ネットで計画的に推進しようとする策です。

勿論、現存の強化委員会との兼ね合いもありますが、先進的な育成プランニングのもと、提示された指導計画案をもとに選手と顧問が一体で消化し、そのつど必要なチェックと連絡とを絡めながら、発達年齢に合わせた段階的な育成強化を図る目論みです。

この事業の推進には、有望選手を発掘するセレクター、日常的なチェッカー、あるいはデータ入力者、プログラマーといった方々が必要です。顧問の各先生には随所にご協力を願わねばなりません。テスターを引き受けていただきデータの収集協力校の配置を組み合わせ、オープンでフランクな中から強化組織の拡充を図りたいと考えております。

そのために、選抜大会・Jrインドアー大会・強化合宿等々と構成年齢の類型に合わせた、トータルな一連の事業の進捗が必要になると思われます。構想の準備段階から、既に各界の第一人者の先生方のご内諾も得ている部門もあります。その推進の方策が、強化部を中心に練られているところです。

第三として、47都道府県の参加を念頭に、既存の施設で競技会を円滑に消化するため、スピーデーでしかもエキサイティングな競技方法で、個人戦・学校対抗戦を実施するためにいまま少しの運営方法の手直しが必要ではないかと考えます。

これら三点がリンクし、一日もはやく成果が表れ「世界に通用する高校生」が育つことを念願してやみません。

沿 革

昭和13年	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカから帰国した、菅 重義氏により日本にアーチェリーが紹介される。
昭和22年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本洋弓会が設立される。(愛好者が増加傾向)
昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> ・日本アーチェリー協会設立 (学校への活動用具貸与による援助始まる)
昭和37年	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生を対象とした近畿総合体育大会が、全国で初めて開催される。
昭和43年	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回全国高校アーチェリー競技会開催(東大阪市・旧布施市)
昭和44年	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回全国高校アーチェリー競技会開催(静岡県)
昭和45年	<ul style="list-style-type: none"> ・競技会の名称変更「全国高等学校アーチェリー選手権大会」以後より今日に至る。
昭和46年	<ul style="list-style-type: none"> ・選手権参加規定変更・任意参加を各都道府県で2校以内と前年度優勝校に参加を制限。
昭和49年	<ul style="list-style-type: none"> ・組織を「全国アーチェリー連盟高校部」に改称 ・選手権参加規定変更・各都道府県の代表校制に変更、男女1校と前年度優勝校に改正。 ・優勝碑「ダイアナ」(狩猟の女神：ギリシャ神話)が新たに新調される。(川上源一氏と滋賀県協会の格別の好意により、ブロンズ像制定。 【制作者：小谷 謙氏・日展会員・京都在住】)
昭和51年	<ul style="list-style-type: none"> ・運営組織のより一層の明確化が図られる。 ・木村好治氏(青森県アーチェリー協会・元名久井農業高校校長)を初代高校部長に選出。 ・改定組織関係役員決定。
昭和52年	<ul style="list-style-type: none"> ・選手権参加規定変更・団体出場校以外の学校より、個人選手の参加を認める。
昭和53年	<ul style="list-style-type: none"> ・大会開催基準・運営細則に関する全面的な見直し、改正に着手。(協会主導の運営から、高校サイドへの移行に伴い)
昭和54年	<ul style="list-style-type: none"> ・部長、理事長制及び各都道府県ブロックの実情に即した常任理事や代表理事制を取り入れる。初代理事長に中田 昇氏を選出。 ・全国大会記録集創刊 ・全国高体連加盟に向け、高体連旗・表彰等の使用申請の働き掛けが始まる。
昭和55年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高体連へ加盟申請する。 ・中田 昇氏 二代目高校部長に選出。 ・総務・競技・強化・事務局の4部門を設定し、積極的な組織運営策の取組が始まる。
昭和56年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国選手権大会開催方針変更・大会経費内部負担の軽減・大会運営への地元高校への協力要請 ・専門部設置県の増加を目指し、各地で運動広がる。

昭和57年 昭和58年	<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原朋憲氏三代目高校部長に選出。高体連加盟申請継続 ・全国高体連正式加盟への手順決定される。 ・第1回全国高校選抜大会開催（愛知・森林公園） <p>◎準加盟として競技種目を扱う。</p> <p>◎名義共催と全国総体開催期間中の同時開催禁止。</p> <p>◎加盟については、おおむね30都道府県で高体連加盟が審議条件または、40都道府県に於いて 実質的な活動の場合。</p>
昭和59年	<ul style="list-style-type: none"> ・組織拡充と事業実施内容等の統一化に向けて運動強化。 ・ジュニア選手の強化並びに全米選手権大会への派遣事業始まる。
昭和61年	<ul style="list-style-type: none"> ・清本 修氏理事長に選出。 ・学校登録指定番号・ランキング制度開始。 ・会報の発刊始まる。
昭和62年	<ul style="list-style-type: none"> ・アーチェリー専門部設置に向けて、各都道府県高体連事務局への意向調査、協力要請を行う。
昭和63年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国高体連への加盟承認される。（5月） ・新組織による常任委員会開催。（伊豆下田市） ・審判委員会を設置する。 ・全国高体連専門部規約審議、原案決定。 ・里見勝人氏（淑徳高校校長）四代目高校部長に選出。副部長に松崎洋右氏（大宮開成高）猪飼 彰氏（愛工大名電高）の2名を選出。 ・清本 修氏（可部高校）初代専門委員長に選出。 ・中込恵子（山梨・甲府第一高）オリンピック代表へ。
平成元年 平成2年	<ul style="list-style-type: none"> ・五代目高校部長 松崎洋右氏（大宮開成高）を選出 ・副部長に越田 稜氏（学習院高）を選出。清本 修氏退職にともない、4月より藪内徹氏（伊吹高校）が専門委員長を代行する。
平成3年	<ul style="list-style-type: none"> ・4月 藪内徹氏（伊吹高校）2代目専門委員長に選出。 ・7月 第1回ジュニア世界選手権大会（ノルウェー）へ選手派遣。
平成5年	<ul style="list-style-type: none"> ・4月 猪飼彰氏顧問に、鶴飼泰勇氏（愛知高校）を副部長に選出。 ・8月 全国高校総合体育大会（栃木県）
平成6年	<ul style="list-style-type: none"> ・3月 全国高校選抜大会長浜ドーム開催。 越田稜氏（学習院高）顧問に、桑ヶ谷森男氏（国際基督教大学付属高）を副部長に選出。
平成7年	<ul style="list-style-type: none"> ・3月 鶴飼泰勇氏（愛知高校）顧問に、吉田悠記氏（愛知高）を副部長に選出。
平成8年 平成9年	<ul style="list-style-type: none"> ・8月 全国高校総合体育大会（山梨県） ・3月 全国高校選抜大会茨城県波崎開催

全国高体連ア一チェリ一専門部役員名簿

役職名	氏名	勤務先	学校名	電話	F A X
部長	松崎 洋右	☎330 埼玉県大宮市堀之内1-615	大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
副部長	桑ヶ谷森男	☎184 東京都小金井市東1-1-1	国際基督教大学付属高	0422-33-3401	0422-33-3376
	吉田 悠記	☎464 名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高	052-721-1521	052-723-2254
委員長	藪内 徹	近畿 ☎521-02滋賀県坂田郡山東町朝日302	伊吹高	0749-55-2350	0749-55-2778
副委員長	総務強化 田中 康彦	東海 ☎465 名古屋市千種区光が丘2-11-41	愛知高	052-721-1521	052-723-2254
	競審 技判 雨宮建次郎	関東 ☎153 東京都目黒区駒場1-35-32	日工大付属東京工業高	03-3467-2130	03-3467-2245
常任委員	委員 小幡 正徳	北海道 ☎005 札幌市南区石山1条2丁目15-1	札幌啓北商業高	011-591-2021	011-591-2023
	委員 嶋守 英敏	東北 ☎034 青森県十和田市相坂字高清水78	三本木農業高	0176-25-5341	0176-23-5341
	委員 後藤 明男	関東 ☎329-06那須郡烏山町1-4-23	烏山女子高	0287-82-2156	0287-84-6196
	委員 山首 一恵	北信越 ☎920-21金沢市大場町596	金沢向陽高	0762-58-2355	0762-58-3592
	委員 水上 英彦	東海 ☎416 静岡県富士市平垣町1-1	富士見高	0545-61-0250	0724-63-5040
	委員 佐幸 修	近畿 ☎545 大阪市阿倍野区天王寺町南2-8-19	大阪女子高	06-719-2801	06-714-0045
	委員 金川 真二	中国 ☎731-02広島市安佐北区可部3-15-26	可部高	082-814-2032	082-814-2140
	委員 住友 和雄	四国 ☎770 徳島市大和町2-2-15	徳島東工業高	0886-53-3274	0886-53-3296
	委員 長野 浩	九州 ☎861-41熊本市南高江町2718	熊本フェリス女学院高	096-35-7151	096-358-3044
	委員 吉良洋平	香川県 ☎761高松市鬼無町山口257-1	高松西高	0878-82-6411	0878-82-6413
委員 大川敏久	岩手県 ☎020盛岡市羽場18地割11-1	盛岡工業高	019-38-3141	0196-38-8134	
事務局	局長 宮崎 利敏	関東 ☎330 埼玉県大宮市堀ノ内1-615	大宮開成高	048-641-7161	048-647-8881
	局員 松宮 博	関東 ☎344 埼玉県春日部市上大増新田213	春日部共栄高	048-737-7611	048-737-8093
	局員 青木 昭	関東 ☎324-02那須郡黒羽町前田780	黒羽高	0287-54-0179	0287-54-4179
顧問	木村 好治	☎039-15青森県三戸郡五戸町天満後44-6	元専門部長	0178-62-3223	
	小笠原朋憲	☎153 東京都目黒区駒場1-35-32	元専門部長	03-3467-2130	
	里見 達人	☎174 東京都板橋区前野町5-14-1	元専門部長	03-3969-7411	
	清本 修	☎731-03広島県高田郡八千代町上根827-2	元専門委員長	0826-52-3606	
	越田 稜	☎171 東京都豊島区目白1-5-1	元専門副部長	03-3986-0221	
	鵜飼 泰勇	☎464 名古屋市千種区光が丘2-11-41	元専門副部長	052-721-1521	
監事	若林 武正	関東 ☎235 横浜市磯子区岡村2-4-1	横浜学園高	045-751-6941	045-761-7965
	神谷 育孝	近畿 ☎602 京都市上京区今出川通寺町西入	同志社女子高	075-251-43291	075-251-4308

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

地区	役職名	氏名	勤務校	電話番号	FAX番号	住所
北海道	専門委員長	勢司 凱雄	札幌月寒高校	011-851-3111	011-851-3112	札幌市豊平区月寒東1の3
	競技委員長	小幡 正徳	啓北商業高校	011-591-2021	011-591-2023	札幌市南区石山1条2-15-1
	審判委員長	川瀬 光政	帯広三条高校	0155-37-5501	0155-37-5503	帯広市西23条2-12
	強化委員長	原田 浩明	幕別高校	0155-54-2977	0155-54-2159	中川郡幕別町南町81
	総務委員長	原田 浩明	幕別高校	0155-54-2977	0155-54-2159	中川郡幕別町南町81
東北	専門委員長	嶋守 英敏	三本木農業高	0176-23-5341	0176-23-5341	十和田市相坂字清水78
	競技委員長	松尾 聡	白百合学園高	0196-61-6330		盛岡市山岸4丁目29-16
	審判委員長	日野 正晴	鶴岡工業高校	0235-22-5505	0235-25-1877	鶴岡市家中新町8-1
	強化委員長	渡辺 正仁	田村高校	0247-62-2185	0247-62-3385	田村郡三春町字持合畑135番地
	総務委員長	阿部 武	広瀬高校	022-392-5512	022-392-5513	青葉区上愛子字森下7
関東	専門委員長	後藤 明男	鳥山女子高校	0287-84-2156	0287-84-0196	那須郡鳥山町金井1-4-23
	競技委員長	西尾 顕	京葉高校	0436-22-2196		市原市島野222
	審判委員長	吉成 謙	甲府第一高校	0552-53-3525	0552-53-3527	甲府市美咲2-13-44
	強化委員長	葉山 直	三浦高校	0468-52-0284		横須賀市衣笠栄町3-80
		池田 幸一	横浜高校	045-781-3396	045-785-1541	横浜市金沢区能見台通46-1
	総務委員長	松宮 博	春日部共栄	048-737-7611	048-737-8093	春日部市上増新田213
北信越	専門委員長	浦田 照行	泊高校	0765-82-1191	0765-82-1192	下新川郡朝日町道下603
	競技委員長	坂井 公史	新潟産業大学付属高校	0257-24-6644	0257-24-0386	柏崎市大字安田2510-2
	審判委員長	山上 達夫	長野南高校	0262-84-8850	0262-83-3143	長野市稲里町牧字北236-2
	強化委員長	横山 幹夫	丹南高校	0778-62-2112	0778-62-2102	鯖江市熊田町10-7
	総務委員長	山首 一恵	金沢向陽高校	0762-58-2355	0762-58-3592	金沢市大場町東590
東海	専門委員長	水上 英彦	富士見高校	0545-61-0250	0545-63-5040	富士市平垣町1-1
	競技委員長	津田 博司	高山西高校	0577-32-2590	0577-33-9911	高山市下林町353番地
	審判委員長	新海 輝夫	三河高校	0564-48-5211	0564-48-5300	岡崎市岡町字原山12-10
	強化委員長	水上 英彦	富士見高校	《上に同じ》		
	総務委員長	加藤 多	三重高校	0598-29-2959	0598-29-6807	松坂市久保町梅村3番地
近畿	専門委員長	佐幸 修	大阪女子高校	06-719-2801	06-714-0045	大阪市阿倍野区天王寺南2-8-19
	競技委員長	神谷 育孝	同社女子高校	075-251-4305	075-251-4308	京都市上京区今川通寺町西入
	審判委員長	澤野 元男	大阪高校	06-952-3131	06-953-9497	大阪市東淀川区相川2-18-51
	強化委員長	五百蔵政雄	甲南女子高校	078-411-2531	078-411-2535	神戸市東灘区森北5-6-1
	総務委員長	富永 雅博	虎姫高校	0749-73-3055	0749-73-2967	東浅井郡虎姫町宮部2410
中国	専門委員長	金川 真二	河部高校	082-814-2032	082-815-4781	広島市安佐北区可部3丁目15-26
	競技委員長	山根 俊一	倉吉農業高校	0858-28-1341	0858-28-1342	倉吉市大谷166
	審判委員長	中村 真帆	下松高校	0833-41-0157	0833-41-3147	山口県下松市若宮町12-1
	強化委員長	竹田 勝重	広島工業高校	082-254-1421	082-253-3407	広島市南区出汐2-4-75
	総務委員長	豊福 浩	岡山理科大付属高校	0862-52-3161	086-255-9859	岡山市理大町1-1
四国	専門委員長	住友 和雄	徳島東工業高	0886-53-3274	0886-53-3296	徳島市大和町2丁目2-15
	競技委員長	住友 和雄	〃	《上に同じ》		
	審判委員長	吉良 洋平	高松西高校	0878-82-6411	0878-82-6413	高松市鬼無町山口257-1
	強化委員長	小野 秀典	観音寺第一高	0875-25-4155	0875-25-4145	観音寺市観音寺町甲648-1
	総務委員長	島上 光	徳島工業高校	0886-31-4185	0886-31-1110	徳島市北矢三町2丁目1-1
九州	専門委員長	長谷川紘之	高志館高校	0952-62-1331	0952-51-2008	佐賀郡大和町尼寺1698
	競技委員長	長野 浩	フェイス女学院	096-357-7151	096-358-3044	熊本市南高江2718
	審判委員長	堤 幸佑	別府女子短大付属高校	0977-67-6908	0977-67-8255	別府市大字野田78
	強化委員長	藤川 毅	柏陵高校	092-566-3232	092-565-2109	福岡県南区柏原4-47-1
	総務委員長	島袋 盛範	中部商業高校	098-898-4888	098-898-4808	沖縄県宜野湾市我如古133

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 部長名簿

都道府県名	氏名	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
1 北海道	藤枝正道	道立札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東1条3丁目	011-851-3111	011-851-3112
2 青森	佐々木敏雄	県立三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3 岩手	和田誠二郎	県立住田高	029-23	気仙郡住田町世田米字川口12の1	0192-46-3141	0196-46-3654
4 宮城	勅使瓦令造	市立仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
5 秋田						
6 山形	佐藤晃	県立鶴岡南高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
7 福島	古市孝雄	県立田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-7785
8 茨城	茨城アーチェリー	茨城アーチェリー協会	319-11	東海村船場829-5柳沼沼隆方	0292-82-8487	
9 栃木	直井敬	県立烏山女子高	321-06	那須郡烏山町金井1-4-23	0287-82-2156	0287-84-0196
10 群馬	小林克茂	県立館林女子高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-1186	0276-72-7112
11 埼玉	柿崎史生	県立上尾橘高	367	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-780-1010
12 千葉	浪越末夫	県立流山高	270-01	流山市東初石2-98	0471-53-3161	
13 東京	桑ヶ谷森男	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3405	0422-33-3376
14 神奈川	田沼智明	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
15 山梨	関口稔夫	県立甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16 新潟	新潟アーチェリー	新潟アーチェリー協会	950-21	新潟市松海ヶ丘1-10-23新潟内	025-231-0807	
17 長野	上原孝	県立長野南		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	026-291-1552
18 富山	原勢二	県立魚津工業高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
19 石川	松岡元雄	県立柳田農業高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ部3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
20 福井	橘弥代治	県立丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
21 静岡	亀井道夫	富士見高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
22 愛知	吉田悠記	愛知高	464	名古屋千種区光ヶ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254
23 三重	佐脇功	三重高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6944
24 岐阜	水野博隆	県立大垣西高	503	大垣市中曾根町字大畔147番地1	0584-91-5611	0584-91-9967
25 滋賀	石田克	県立北大津高	520-02	大津市仰木の里1丁目23-1	0775-73-5881	0775-73-7076
26 京都	松本健二	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4329	075-251-4308
27 大阪	島田侃治	大阪女子高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28 兵庫	熊見一郎	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-741-1860	078-741-6304
29 奈良	中野博	県立奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30 和歌山	和歌山アーチェリー	和歌山アーチェリー協会	641	和歌山市今福1-2-35西孝取方	0734-23-3513	
31 鳥取	鎌谷茂樹	県立倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
32 島根	島根アーチェリー	島根アーチェリー協会	690	松江市天神町35松田電気店内 山本	0852-24-9562	
33 岡山	渡辺己巳生	岡山理科大学附属高	700	岡山市理大町1-1	086-252-3161	086-255-9859
34 広島	佐東哲	県立可部高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
35 山口	松村旭	県立下松高	744	下松市若宮町12-1	0833-41-0157	0833-41-3147
36 香川	森喬規	県立観音寺第一高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	0875-25-4145
37 徳島	勢川實	県立阿北高	771-15	板野郡土成町大字成当字尾類515	0886-95-3031	0886-95-2925
38 愛媛	愛媛県アーチェリー	愛媛県アーチェリー協会	791-02	松山市北梅本町940 森貞浩方	089-975-1447	
39 高知	高知アーチェリー	山崎和郎方	780	高知県西久万351-1	0888-24-0562	
40 福岡	林誠一郎	県立柏崎高	815	福岡市南区柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
41 佐賀	江口博善	県立高志館高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2008
42 長崎	南実夫	県立長崎南商業高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	0958-36-2719
43 熊本	米光聖	私立熊本フェリス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
44 大分	谷川一郎	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-67-6908	0977-67-8255
45 宮崎	野村光秋	宮崎アーチェリー協会	880	宮崎市池内町陀羅尼913-3	0985-26-3215	
46 鹿児島	茶園正敏	県立鹿児島工業高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	099-228-6909	099-222-9206
47 沖縄	新川善一郎	県立ゴザ高	904	沖縄市照屋5-5-1	098-939-1236	098-937-0677

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 委員名簿

	都道府県名	氏名	学校名	〒	所在地	電話番号	FAX番号
1	北海道	勢司 凱雄	道立 札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東1条3丁目	011-851-3111	011-851-3112
2	青森	嶋守 英敏	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
3	岩手	大川 敏久	県立 盛岡工業高	020	盛岡市羽場18-11-1	0196-38-3141	0196-38-8134
4	宮城	北野 利雄	市立 仙台工業高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
5	秋田	秋田県アーチェリー協会	秋田県アーチェリー協会幹事	010	秋田市新藤田大所44-4	0188-31-3126	
6	山形	日野 正晴	県立 鶴岡工業高	997	鶴岡市家中新町8-1	0235-22-5505	0235-25-1877
7	福島	渡邊 正仁	県立 田村高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185	0247-62-7785
8	茨城	奥倉 裕	私立 水城	310	水戸市白梅2丁目1番地45号	0292-47-6509	029-248-7252
9	栃木	後藤 明男	県立 烏山女子高	321-06	那須郡烏山町金井1-4-23	0287-82-2156	0287-84-0196
10	群馬	武 倫夫	県立 館林女子高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-1186	0276-72-7112
11	埼玉	稲田 忍	県立 上尾橘高	367	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-780-1010
12	千葉	西尾 顕	県立 京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
13	東京	上原 喜八	淑徳高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
14	神奈川	若林 武正	横浜学園高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
15	山梨	吉成 謙	県立 甲府第一高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
16	新潟	坂井 公史	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386
17	長野	山上 達夫	県立 長野南		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	026-291-1552
18	富山	浦田 照行	県立 泊高	939-07	下新川郡朝日町道下603	0765-82-1191	0765-82-1192
19	石川	山首 一恵	県立 金沢向陽高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
20	福井	横山 幹夫	県立 丹南高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
21	静岡	水上 英彦	富士見高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
22	愛知	萩原 茂樹	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉2丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-4492
23	三重	加藤 多	三重高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6944
24	岐阜	津田 博司	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
25	滋賀	賀井 良明	県立 栗東高	520-30	栗太郡栗東町小野618	0775-53-3550	0775-54-1537
26	京都	神谷 育孝	同志社女子高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4329	075-251-4308
27	大阪	佐幸 修	大阪女子高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
28	兵庫	荒木 亨典	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-741-1860	078-741-6304
29	奈良	高見 喬宏	県立 奈良高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
30	和歌山	清水 秀美	田辺商業高	646	田辺市文里二丁目33-12	0739-22-2550	0739-22-2558
31	鳥取	山根 俊一	県立 倉吉農業高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
32	島根	足立 廣義	県立 松江東高	690	松江市西川津町宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
33	岡山	後藤 浩	岡山県共生高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
34	広島	金川 真二	県立 可部高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
35	山口	坂本 憲昭	県立 下松高	744	下松市若宮町12-1	0833-41-0157	0833-41-3147
36	香川	吉良 洋平	県立 高松西高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
37	徳島	住友 和雄	県立 徳島東工業高	770	徳島市大和町2丁目2-15	0886-53-3274	0886-53-3296
38	愛媛	愛媛県アーチェリー協会	森貞 浩 方	791-02	松山市北梅本町940	089-975-1447	
39	高知	高知県アーチェリー協会	山崎 和郎 方	780	高知市西久万351-1	0888-24-0562	
40	福岡	藤川 毅	県立 柏陵高	815	福岡市南区柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109
41	佐賀	長谷川 紘之	県立 高志館高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2008
42	長崎	谷野 博之	県立 長崎南商業高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	0958-36-2719
43	熊本	長野 浩	私立 熊本フェリス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
44	大分	堤 幸祐	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-67-6908	0977-67-8255
45	宮崎	野村 光秋	宮崎アーチェリー協会	880	宮崎市池内町陀羅迫913-3	0985-26-3215	
46	鹿児島	重久 修二	県立 鹿児島工業高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	099-228-6909	099-222-9206
47	沖縄	島袋 盛範	県立 中部商業高	901-22	宜野湾市我如古2-2-1	098-898-4888	098-898-4808

学校登録一覧表

(太字都道県名は、高体連加盟)

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
北海道 33校	01H01	道立 札幌月寒高	062	札幌市豊平区月寒東1条3丁目	011-851-3111	011-851-3112
	01H02	市立 札幌啓北商業高	005	札幌市南区石山1条2丁目15番1号	011-591-2021	011-591-2023
	01H03	道立 小樽潮陵高	047	小樽市潮見台2丁目1番1号	0134-22-0754	0134-22-5954
	01H04	函館ラサル高	041	函館市日吉町1丁目12番1号	0138-52-0365	0138-54-0365
	01H05	道立 室蘭清水丘高	051	室蘭市増市町2丁目	0143-23-1221	0143-23-1221
	01H06	道立 登別南高	059	登別市青葉町42番地1	0143-85-8586	0143-85-8586
	01H07	道立 旭川南高	071-01	旭川市西神楽4線6号	0166-65-8770	0166-65-8772
	01H08	道立 清水高	089-01	上川郡清水町北2条西2丁目2番地	01566-2-2156	01566-2-2156
	01H09	道立 帯広三条高	080-24	帯広市西23条2丁目12番地	0155-37-5501	0155-37-5503
	01H10	道立 帯広工業高	080	帯広市南町南8線西24-1	0155-48-5650	0155-48-2680
	01H11	道立 幕別高	089-06	中川郡幕別町南町81番地	0155-54-2977	0155-54-2159
	01H12	道立 札幌西高	064	札幌市中央区宮ノ森4条8丁目1番地	011-611-4401	011-611-4403
	01H13	道立 札幌啓成高	004	札幌市厚別区厚別東4条8丁目6-1	011-898-2311	011-898-2313
	01H14	道立 札幌開成高	065	札幌市東区北22条東21丁目	011-781-8171	011-781-5629
	01H15	道立 旭川北高	070	旭川市花咲町3丁目	0166-51-4620	0166-51-2818
	01H16	道立 旭川工業高	078	旭川市西神楽3線5号	0166-65-4115	0166-65-4127
	01H17	旭川実業高	071	旭川市末広8条1丁目	0166-51-1246	0166-51-9515
	01H18	鹿追高	081-02	阿東郡鹿追町西町1-8	01566-6-3011	01566-6-3012
	01H19	紋別北高	094	紋別市落石町1丁目3番18号	01582-4-5285	01582-4-5285
	01H20	道立 紋別南高	094	紋別市南が丘町6丁目3番47号	0152-3-3068	01582-3-3974
	01H21	北海道室蘭東高	050	室蘭市高砂町4丁目35-1	0143-44-3312	0143-44-4783
	01H22	東海大学第四高	005	札幌市南区南沢517-1-1	011-571-5175	
	01H23	道立 帯広柏高	080	帯広市東5条南2丁目	0115-23-5897	0155-23-8796
	01H24	道立 丘珠高	065	札幌市東区北丘珠1条2-589-1	011-782-2911	011-782-8370
	01H25	私立 札幌第一高	062	札幌市豊平区月寒西1条9丁目	011-851-9361	011-856-5151
	01H26	芽室高	082	河西郡芽室町東芽室南2線33	0155-62-2625	0155-62-2624
	01H27	私立 札幌光星高	065	札幌市東区北13条東9丁目16番	011-711-7161	011-711-7330
	01H28	道立 追分高	059-19	勇払郡分町本町7-8	01452-5-3657	01452-5-2555
	01H29	道立 音更高	080-05	皮東郡音更町駒場西1	0155-44-2201	0155-44-2010
	01H30	道立 音更高定	080-05	皮東郡音更町駒場西1	0155-44-2201	0155-44-2010
	01H31	道立 帯広柏葉高	082	帯広市東5条南2丁目1	0155-23-5897	0155-23-8796
	01H32	道立 札幌光星高	065	札幌市東区13条9丁目	011-711-7161	011-711-7330
	01H33	道立 札幌新陽高	005	札幌市南区澄川5条7丁目1番1号	011-821-6161	011-813-4009
青森県 14校	02H01	県立 三本木農業高	034	十和田市相坂字高清水78	0176-23-5341	0176-23-5341
	02H02	県立 藤崎園芸高	038-38	藤崎町藤崎字下袋7の10	0172-75-3302	0172-75-6470
	02H03	八戸工業大学第二高	031	八戸市大字妙字中居林	0178-25-4311	0178-25-0568
	02H04	県立 むつ工業高	039-51	むつ市文京町22の7	0175-24-2164	0175-29-2893
	02H05	八戸工業大学第一高	031	八戸市白銀町右岩淵通7の10	0178-33-5121	0178-34-3942
	02H06	県立 名久井農業高	039-05	三戸郡名川町下名久井字下諏訪平1番地	0178-76-2215	0178-76-2260
	02H07	県立 青森西高	038	青森市新城字平岡226の20	0177-88-0372	0177-88-4411
	02H08	県立 青森東高	039-35	青森市大字原別字遠山13番地	0177-43-2884	0177-36-3091

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	02H09	青 森 山 田 高	030	青森市浜田字板橋23	0177-39-2001	0177-39-1597
	02H10	県立 青 森 中 央 高	030	青森市大字浦町字奥野428番地	0177-39-5135	0177-29-3488
	02H11	県立 五所川原農林高	037	五所川原市大字一野坪字朝日田2-37	0173-37-2121	
	02H12	県立 八 戸 南 高	031	八戸市大字鮫町小舟渡平2-291	0178-34-6001	
	02H13	県立 五 戸 高	039-15	三戸郡五戸町字根岸6番地	0178-62-2828	0178-62-4435
	02H16	県立 柏 木 農 業	036		0172-44-3015	
岩手県 3校	03H01	県立 盛 岡 工 業 高	020	盛岡市羽場18-11-1	0196-38-3141	0196-38-8134
	03H02	盛岡白百合学園高	020	盛岡市山岸4丁目29番16号	0196-61-6330	0196-61-9923
	03H03	県立 住 田 高	029-23	気仙郡住田町世田米字川口12の1	0192-46-3141	0196-46-3654
宮城県 4校	04H01	市立 仙 台 工 業 高	983	仙台市宮城野区東宮城野3-1	022-237-5341	022-283-6478
	04H02	東 陵 高	988	気仙沼市字大峠山1番1号	0226-23-3100	0226-23-3107
	04H03	宮城工業高専	981-12	名取市愛島塩手字野田48	022-384-2171	022-384-6728
	04H04	米谷工業高	980-09	登米郡東和町米谷古館88	0220-42-2170	0220-42-2170
秋田県	05H01	県立 大 館 東 高	017	大館市釈迦内字獅子ヶ森1番地	0186-48-6607	
山形県 6校	06H02	天 真 学 園 高	998	酒田市浜田1丁目3-47	0234-22-4733	0234-22-4737
	06H03	県立 鶴 岡 南 高	997	鶴岡市若葉町26-31	0235-22-0061	0235-24-5941
	06H04	県立 鶴 岡 北 高	997	鶴岡市若葉町16-5	0235-22-2262	0235-24-6101
	06H05	県立 鶴 岡 家 政 高	997	鶴岡市新形町16-20	0235-22-1200	0235-22-5904
	06H06	県立 鶴 岡 工 業 高	997	鶴岡市家中新町8-1	0235-22-5505	0235-25-1877
	06H07	県立 山 添 高	997-03	東田川郡柳引町大字上山添字文栄38番地	0235-57-2100	0235-57-2101
	06H08					
	06H09					
	福島県 5校	07H01	県立 田 村 高	977	田村郡三春町字持合畑135番地	0247-62-2185
07H02		県立 福 島 高	960	福島市森合町5番72号	0245-35-2391	0245-35-2392
07H03		県立 福 島 南	960	福島市渡利字七社宮17	0245-23-4740	0245-21-6400
07H04		県立 須 賀 川 桐 陽 高	962	須賀川市陣場町128	0248-75-2151	0248-72-7979
07H05		県立 岩 瀬 農 業 高	969-04	岩瀬郡鏡石町大字鏡田字桜町207	0248-62-3145	
茨木県 1校	08H01	私立 水 城	310	水戸市白梅2丁目1番地45号	0292-47-6509	0292-48-7252
	08H02					
栃木県 3校	09H01	県立 馬 頭 高	324-06	那須郡馬頭町馬頭1299-2	0287-92-2009	0287-92-5749
	09H02	県立 黒 羽 高	324	那須郡黒羽町前田780	0287-54-0179	0287-54-4179
	09H03	県立 鳥 山 高	321	那須郡鳥山町中央3丁目9番8号	0287-83-2075	0287-83-0145
群馬県 11校	10H01	県立 沼 田 女 子 高	378	沼田市東倉内町753-3	0278-22-4495	0278-22-3249
	11H02	県立 藤 岡 北 高	375	藤岡市篠塚90	0274-22-2308	
	10H03	県立 沼 田 高	378	沼田市西原新町1510番地	0278-23-1313	0278-22-4799
	10H04	県立 太 田 高	373	太田市西本町12の1	0276-31-7181	0276-31-9161
	10H05	県立 安 中 実 業 高	379-01	安中市安中1-2-8	0273-81-0227	0273-82-7207
	10H06	県立 館 林 女 子 高	374	館林市尾曳町6番1号	0276-72-0139	0276-72-7112
	10H07	県立 桐 生 西 高	376	桐生市相生町3丁目551-1	0277-52-2455	0277-54-9763
	10H08	高崎商科短期大学附属高	370	高崎市大橋町237番地の1	0273-22-2827	0273-22-7591
	10H09	私立 新 島 高	379	安中市安中3702	0273-81-0240	0273-81-0630

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
埼玉県	10H10	県立高崎東高	370	高崎市元島名町1510	0273-52-1251	0273-53-0994
	10H11	私立前橋育英高	371	前橋市朝日ヶ丘町13	0272-51-7087	0272-52-9419
	11H01	大宮開成高	330	大宮市堀之内1-615	048-641-7161	048-647-8881
	11H02	県立豊岡高	358	入間市豊岡1丁目15番1号	0429-62-5216	0429-65-6635
	11H03	県立行田高	361	行田市大字長野1320番地	0485-56-6291	0485-50-1058
	11H04	県立所沢中央高	359	所沢市並木8丁目2番	0429-95-6088	0429-91-1006
	11H05	春日部共栄高	344	春日部市上大増新田213	048-737-7611	048-737-8093
	11H06	花咲徳栄高	347	加須市花崎江橋519	0480-65-7181	0480-65-4893
	11H07	県立上尾橘高	367	上尾市大字平方2187番地	048-725-3725	048-780-1010
	11H08	県立新座高	352	新座市池田1-1-2	0484-79-5110	
	11H09	県立日高高	350-12	入間郡日高町旭ヶ丘806	0429-89-7920	0429-85-4412
11H10	県立北本高	364	北本市古市場1丁目152番	0485-92-2200	0485-90-1009	
11H11						
千葉県	12H01	県立京葉高	290	市原市島野222	0436-22-2196	0436-25-1368
	12H02	千葉英和高	276	八千代市村上709-1	0474-84-5141	0474-87-5466
	12H03	県立津田沼高	275	習志野市秋津5-9-1	0474-51-1177	0474-54-3242
	12H04	県立磯辺高	260	千葉市美浜区磯辺2丁目7番1号	043-277-2211	043-278-2071
	12H05	県立松戸矢切高	271	松戸市中矢切54番地	0473-68-4741	0473-68-4396
	12H06	県立姉崎高	299-01	市原市姉崎2632番地	0436-62-0601	0436-61-7679
	12H07	県立流山中央高	270-01	流山市大畔275-5	0471-54-3551	0471-55-6991
	12H08	県立生浜高	260	千葉市塩田町372	0472-66-4591	0472-68-2680
	12H09	県立船橋高	273	船橋市東船橋6丁目1番1号	0474-22-2188	0474-26-0422
	12H10	黎明高	289-11	印旛郡八街町八街ほ625	0434-43-3221	0434-43-3443
	12H11	拓殖大学紅陵高	292	木更津市桜井1403番地	0438-37-2511	0438-36-7286
	12H12	県立泉高	280-01	千葉市若葉区高根町875-1	043-228-2551	043-228-0240
	12H13	志学館高	292	木更津市真舟3丁目29番1号	0438-37-3131	
	12H14					
東京都	13H01	東京学園高	153	目黒区下目黒6-12-25	03-3711-6641	
	13H02	都立四谷商業高	165	中野区上鷲宮5-11-1	03-3990-4226	03-3926-7523
	13H03	明治大学付属中野高	164	中野区東中野3丁目3番4号	03-3362-8704	03-3368-3113
	13H04	駒場東邦高	154	世田谷区池尻4-5-1	03-3466-8221	03-3466-8225
	13H05	日工大付属東京工業高	153	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2245
	13H06	玉川学園高	194	町田市玉川学園6丁目1番1号	0427-39-8533	0427-39-8559
	13H07	都立山崎高	194-01	町田市山崎町字9号1453-1	0427-92-2891	0427-94-0440
	13H08	学習院高等科	171	豊島区目白1丁目5番1号	03-3986-0221	03-5992-1016
	13H09	麻布高	106	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337
	13H10	獨協高	112	文京区関口3-8-1	03-3943-3651	03-3943-9119
	13H11	慶応義塾女子高	108	港区三田2丁目17番23号	03-3451-3618	03-3451-3642
	13H12	武蔵野高	114	北区西ヶ原4-56-20	03-3910-0151	03-5567-0487
	13H13	東海大学付属高輪台高	108	港区高輪2-2-16	03-3441-8234	03-3441-8238
	13H14	早稲田大学高等学院	177	練馬区上石神井3丁目31番1号	03-5991-4151	03-3928-4110

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	13H15	城 北 高	174	豊島区目白5-23-5	03-3956-3157	03-3956-9779
	13H16	足立学園高	120	足立区千住旭町40-24	03-3888-5331	03-3888-6720
	13H17	淑 徳 高	174	板橋区前野町5-14-1	03-3969-7411	03-3558-7992
	13H18	都立 大 山 高	173	板橋区小茂根5-18-1	03-3958-2121	03-3959-8591
	13H19	昭和第一学園高	190	立川市栄町2-45-8	0425-36-1611	0425-37-6880
	13H20	国際基督教大学高	184	小金井市東町1-1-1	0422-33-3401	0422-33-3376
	13H21	都立 第 四 商 業 高	176	練馬区貫井3-45-19	03-3990-4221	03-3926-7040
	13H22	日体桜華女子高	189	東村山市富士見町2-5-1	0423-91-4133	0423-92-6424
	13H23	明治学院東村山高	189	東村山市富士見町1丁目12番3号	0423-91-2142	0423-91-5926
	13H24	都立 館 高	193	八王子市館町1097番136	0426-63-3315	0426-62-9831
	13H25	大東文化学園高				
	13H26	藤 村 女 子 高				
	13H27	都立 野 津 田 高	194-01	町田市野津田町2000番	0427-34-2311	0427-34-9388
	13H28	都立 小 平 西 高	187	小平市小川町1-502-95	0423-45-1411	
	13H29	文 京 女 子 高	113	文京区本駒込6-18-3	03-3964-5301	03-3964-7294
	13H30	私立 国 土 館	154	世田谷区世田谷4-28-1	03-5481-3131	03-5481-3149
	13H31	千 歳 高	157	世田谷区粕谷3丁目8-1	03-3300-5235	03-3300-2306
神奈川県 19校	14H01	横 浜 高	236	横浜市金沢区能見台通46-1	045-781-3396	045-785-1541
	14H02	相模女子大学高	228	相模原市文京2-1-1	0427-42-1442	
	14H03	県立 横 浜 緑ヶ丘高	231	横浜市中区本牧緑ヶ丘37番地	045-621-8641	045-624-0765
	14H04	浅 野 高	221	横浜市神奈川区区子安台1-3-1	045-421-3281	045-421-4080
	14H05	三 浦 高	238	横須賀市衣笠栄町3丁目80番地	0468-52-0284	0468-52-6980
	14H06	市立 横 須 賀 高	238	横須賀市森崎5丁目1番1号	0468-36-0413	0468-36-0481
	14H07	県立 東 金 沢 高	236	横浜市金沢区富岡東2丁目6番1号	045-774-1188	045-776-2357
	14H08	県立 小 田 原 城 内 高	250	小田原市南町1-6-34	0465-23-3251	0465-23-6142
	14H09	県立 湘南高通信制少年工科学校	238-03	横須賀市幸浜2-1	0468-56-1291	
	14H10	平 和 学 園 高	253	茅ヶ崎市富士見町5番2号	0467-87-0132	0467-87-7350
	14H11	東海大学附属相模高	228	相模原市相南3-33-1	0427-42-1251	0427-42-1159
	14H12	慶 応 義 塾 高	223	横浜市港北区日吉4丁目1番2号	044-563-1111	
	14H13	横 浜 学 園 高	235	横浜市磯子区岡村2丁目4番1号	045-751-6941	045-761-7956
	14H14	県立 永 谷 高	233	横浜市港南区下永谷町1-28-1	045-824-2126	045-825-3605
	14H15	市立 南 高	233	横浜市港南区東永谷町2丁目1番1号	045-822-1910	
	14H16	県立 上 矢 部 高	245	横浜市戸塚区上矢部町3230	045-861-3500	045-862-6347
	14H17	鎌倉女学院高	248	鎌倉市由比ヶ浜2-10-4	0467-25-2100	0467-25-1358
	14H18	県立 三 崎 水 産 高	240	横須賀市長坂1-2-1	0468-56-3128	0468-57-6457
	14H19	県立 湯 河 原 高	259-03	足柄下郡湯河原町吉浜1576-31	0465-63-1281	0465-62-0675
山梨県 9校	15H01	県立 甲 府 第 一 高	400	甲府市美咲2-13-44	0552-53-3525	0552-53-3527
	15H02	山 梨 英 和 高	400	甲府市愛宕町112	0552-52-6184	0522-51-7468
	15H03	甲 府 湯 田 高	400	甲府市青沼3丁目10-1	0552-33-0127	0552-33-0129
	15H04	県立 農 林 高	400-01	中巨摩郡竜王町西八幡4533	0552-76-2611	
	15H05	県立 機 山 工 業 高	400	甲府市下飯田1丁目9番1号	0552-28-7281	

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	15H06	私立 山梨学院付属高	400	甲府市酒折3丁目3-1	0552-37-1047	0552-35-7091
	15H07	県立 甲 府 西 高	400	甲府市下飯田4-1-1	0552-28-5161	0552-28-5164
	15H08	県立 韮 崎 高	407	韮崎市若宮3丁目2-1	0551-22-2415	0551-22-2415
	15H09	県立 第 一 商 業 高	400	甲府市東光寺2丁目25-1	0552-35-2581	0552-35-2581
新潟県	16H01	県立 長 岡 工 業 高	940	長岡市幸町2丁目7番70号	0258-36-4510	0258-39-2054
6校	16H02	敬 和 学 園 高	950-31	新潟市太夫浜325	025-259-2391	025-259-7281
	16H03	新潟産業大学附属高	945-13	柏崎市大字安田2510番地2	0257-24-6644	0257-24-0386
	16H04	県立 新 潟 中 央 高	951	新潟市学校町通り2番地5317-1	025-229-2191	
	16H05	新潟県個人登録協会				
	16H06	県立 燕 工 業 高	959-12	燕市大字東太田1066	0256-63-5444	0256-66-1295
長野県	17H01	県立 篠 ノ 井 校	388	長野市篠ノ井布施高田1161番地2	0262-92-0066	0262-92-9136
4校	17H02	県立 長 野 南 高		長野市稲里町田牧字大北236-2	0262-84-8850	0262-91-1552
	17H03	県立 駒 ケ 根 工 業 高	399-41	駒ヶ根市赤穂14-2	0265-82-5251	0262-81-1253
	17H04	私立 上 田 西 高	939	上田市下塩尻868	0268-22-0412	0268-26-2883
富山県	18H01	高 岡 竜 谷 高	933	高岡市古定塚4-1	0766-22-5141	0766-25-8149
7校	18H02	県立 魚 津 工 業 高	937	魚津市浜経田3338	0765-22-2577	0765-22-2578
	18H03	新 川 高	937	魚津市吉島1350	0765-24-2015	0765-24-2015
	18H04	県立 富 山 中 部 高	930	富山市芝園町3丁目1-26	0764-41-3541	0764-41-3543
	18H05	県立 大 門 高	939-02	射水郡大門町二口1番地2	0766-52-5571	0766-52-5571
	18H06	県立 泊 高	939-07	下新川郡朝日町道下603	0765-82-1191	0765-82-1192
	18H07	県立 富 山 南 高	939	富山市布市98	0764-29-1822	0764-29-1799
石川県	19H01	県立 柳 田 農 業 高	928-03	鳳至郡柳田村字柳田イ倍3番地	0768-76-1211	0768-76-0079
4校	19H02	県立 金 沢 向 陽 高	920-01	金沢市大場町東590番地	0762-58-2355	0762-58-3592
	19H03	県立 工 業 高	920	金沢市本多町2丁目3番6号	0762-61-7156	0762-65-5346
	19H04	県立 金 沢 桜 丘 高	920	金沢市大樋町16番1号	0762-52-1225	0762-52-1643
	19H05					
福井県	20H01	県立 丹 南 高	916	鯖江市熊田町10-7	0778-62-2112	0778-62-2102
4校	20H02	県立 金 津 高	919-06	坂井郡金津町南金津33-1	0776-73-1255	0776-73-1255
	20H03	敦 賀 気 比 高	914	敦賀市沓見164-1	0770-24-2150	0770-24-2620
	20H04	県立 高 志 高	910	福井市御幸2丁目25-8	0776-24-5175	0776-24-5177
	20H05					
	20H06					
静岡県	21H01	県立 修 善 寺 工 業 高	410-24	田方郡修善寺町牧之郷892番地	0558-72-3322	0558-72-1955
15校	21H02	富 士 見 高	416	富士市平垣町1番1号	0545-61-0250	0545-63-5040
	21H03	県立 静 岡 商 業 高	420	静岡市田町7丁目90番地	054-255-6241	054-255-9241
	21H04	県立 袋 井 高	437	袋井市愛野2446-1	0538-42-0191	0538-43-0710
	21H05	県立 浜 松 工 業 高	433	浜松市初生町1150	053-436-1101	053-437-9988
	21H06	県立 浜 松 商 業 高	432	浜松市文丘町4番11号	053-471-3351	053-475-2109
	21H07	浜 松 学 芸 高	430	浜松市下池川町34番3号	053-471-5336	053-475-2395
	21H08	興 誠 高	430	浜松市高林1丁目17番2号	053-471-4136	053-471-4137
	21H09	県立 浜 松 北 高	432	浜松市広沢1丁目30番1号	053-454-5548	053-456-3316

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	21H10	県立浜松湖東高	431-11	浜松市大人見町3600	053-485-0215	053-485-3947
	21H11	県立三ヶ日高	431-14	引佐郡三ヶ日町釣78-1	0535-25-0103	0535-25-0426
	21H12	県立天竜林業高	431-33	天竜市二俣町二俣601番地	0539-25-3139	0539-25-7422
	21H13	静岡北高	420	静岡市瀬名3240	0542-61-5801	0542-62-5573
	21H14	県立静岡東高	420	静岡市川合757番地	0542-61-6636	0542-63-5970
	21H15	県立清水工業高	424	清水市八坂東1丁目16-1	0543-66-5471	0543-66-5473
	21H16					
愛知県 22校	22H01	愛知高	464	名古屋市中千種区光ヶ丘2丁目11番41号	052-721-1521	052-723-2254
	22H02	愛知工業大学名電高	464	名古屋市千種区若水3丁目2番12号	052-721-0311	052-722-8302
	22H03	弥富高	498	海部郡弥富町稲吉2丁目52番地	0567-68-2233	0567-68-4492
	22H04	愛知女子高	451	名古屋市西区新道1丁目23番15号	052-571-8422	052-561-0713
	22H05	東海女子高	468	名古屋市天白区中平2丁目901番地	052-801-6222	052-804-0647
	22H06	東海高	461	名古屋市東区筒井1-2-35	052-936-5112	052-936-9744
	22H07	東邦高	465	名古屋市名東区平和が丘3丁目11番地	052-782-1171	052-782-7151
	22H08	金城学院高	461	名古屋市東区白壁4-64	052-931-6236	
	22H09	県立安城東高	446	安城市北山崎町大土塚10	0566-74-1231	
	22H10	三河高	444	岡崎市岡町字原山12-10	0564-48-5211	0564-48-5300
	22H11	桜丘高	440	豊橋市南牛川2丁目1番の11	0532-61-6421	0532-63-9278
	22H12	県立衣台高	471	豊田市太平町平山5番地	0565-33-1080	
	22H13	県立西尾東高	445	西尾市小島町大郷1-4	0563-56-1911	0563-54-6961
	22H14	県立岡崎東高	444-35	岡崎市竜泉寺町字後山27番地	0564-52-8911	0564-55-9410
	22H15	名古屋工業高	466	名古屋市昭和区円上町22-38	052-871-2681	052-881-0761
	22H16	中京女子大学附属高	461	名古屋市東区大幸南2丁目1番10号	052-723-0851	052-723-1744
	22H17	市立向陽高	466	名古屋市昭和区広池町47番地	052-841-7138	052-853-2453
	22H18	県立豊橋南高	441	豊橋市南清水町元町450番地	0532-25-1476	0532-25-4887
	22H19	県立岡崎西高	444	岡崎市日名南町7番	0564-25-0751	0564-25-9201
	22H20	県立岡崎高	444	岡崎市明大寺町伝場1	0564-51-0202	0564-55-9422
	22H21	県立岡崎北高	444	岡崎市石神17-1	0564-22-2536	0564-25-9231
	22H22	私立名古屋学院高	461	名古屋市東区砂田橋2-1-58	052-721-5271	052-711-6480
三重県 3校	23H01	三重高	515	松阪市久保町1232番地	0598-29-2959	0598-29-6944
	23H02	県立四日市南高	510	四日市市日永字岡山4917	0593-45-3177	0593-45-9549
	23H03	松阪女子高	515	松阪市久保町梅村1番地	0598-29-4151	0598-29-6944
	23H04					
	23H05					
岐阜県 3校	24H01	聖マリア女学院高	501-25	岐阜市福富201	0582-29-1102	0582-29-3029
	24H02	高山西高	506	高山市下林町353番地	0577-32-2590	0577-33-9911
	24H03	県立大垣西高	503	大垣市中曾根町字大畔147番地1	0584-91-5611	0584-91-9967
滋賀県 12校	25H01	県立大津商業高	520	大津市御陵町2-1	0775-24-4284	0775-26-1802
	25H02	県立大津高	520	大津市馬場1丁目1番1号	0775-23-0386	0775-26-1772
	25H03	県立栗東高	520-30	栗太郡栗東町小野618	0775-53-3350	0775-54-1537
	25H04	市立守山女子高	524	守山市勝部町962番地	0775-82-2019	0775-83-2829

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	25H05	県立 甲 南 高	520-33	甲賀郡甲南町寺庄427	0748-86-4145	0748-86-4983
	25H06	県立 八 幡 商 業 高	523	近江八幡市宇津呂町10	0748-32-2072	0748-32-4052
	25H07	県立 愛 知 高	529-13	愛知郡愛知川町102	0749-42-2150	0749-42-6172
	25H08	県立 伊 吹 高	521-02	坂田郡山東町朝日302番地	0749-55-2350	0749-55-2778
	25H09	県立 長 浜 商 工 高	526	長浜市地福寺町3-72	0749-62-3370	0749-65-1344
	25H10	県立 虎 姫 高	529-01	東浅井郡虎姫町宮部2410	0749-73-3055	0749-73-2967
	25H11	県立 北 大 津 高	520-02	大津市仰木の里1丁目23-1	0755-73-5881	0775-73-7076
	25H12	県立 草 津 東 高	525	草津市西波川2-8-65	0755-64-4681	0775-62-1601
	25H13					
京都府	26H01	同 志 社 高	606	京都市左京区岩倉大鷲町89	075-781-7121	075-781-7124
9校	26H02	同 志 社 女 子 高	602	京都市上京区今出川通寺町西入ル	075-251-4305	075-251-4329
	26H03	福 知 山 商 業 高	620	福知山市宇堀水内	0773-22-6224	
	26H04	市立 洛 陽 工 業 高	601	京都市南区唐橋大宮尻町22	075-691-3161	075-682-5668
	26H05	市立 紫 野 高	603	京都市北区紫野大徳寺町22	075-491-0221	075-492-0968
	26H06	府立 木 津 高	619-02	相楽郡木津町字木津内田山34	07747-2-0031	07747-2-0031
	26H07	府立 兔 道 高	611	宇治市五ヶ庄雲峰4-1	0774-33-1691	0749-33-1696
	26H08	府立 府 立 工 業 高	620	福知山市大字石原小字上野45	0773-27-5161	0773-27-5162
	26H09	府立 朱 雀 高	604	京都市中京区西ノ京武部町1	075-841-0127	075-841-0646
大阪府	27H01	府立 和 泉 工 業 高	594	和泉市富秋町33	0725-41-1250	0725-45-8985
17校	27H02	大 阪 高	533	大阪市東淀川区相川2-18-51	06-340-3031	06-349-3719
	27H03	大阪工業大学高	535	大阪市旭区大宮5丁目16番1号	06-954-4487	06-953-9497
	27H04	大 阪 女 子 高	545	大阪市阿倍野区天王寺町南2丁目8-19	06-719-2801	06-714-0045
	27H05	関 西 大 倉 高	567	茨木市室山2丁目14番1号	0726-43-6321	0726-43-8375
	27H06	市立 岸 和 田 産 業 高	596	岸和田市別所町541	0724-22-4861	0724-22-4862
	27H07	府立 久 米 田 高	596	岸和田市額原町	0724-43-6651	0724-43-0307
	27H08	此 花 学 院 高	544	大阪市生野区勝山南2丁目6番38号	06-716-0003	06-716-0009
	27H09	帝 塚 山 学 院 高	558	大阪市住吉区帝塚山中3丁目10番51号	06-672-1151	06-671-3479
	27H10	星 翔 高	566	摂津市三島3丁目5番36号	06-381-0220	06-383-4822
	27H11	府立 西 野 田 工 業 高	553	大阪市福島区大開2丁目17番62号	06-461-0023	06-461-3483
	27H12	初 芝 高	591	堺市日置荘西町51	0722-85-0128	0722-86-8405
	27H13	桃 山 学 院 高	545	大阪市阿倍野区昭和町3丁目1番64号	06-621-1181	06-629-6111
	27H14	府立 山 本 高	581	八尾市山本町北1-1-44	0729-99-0552	0729-99-4374
	27H15	府立 工業高等専門学校	572	寝屋川市幸町26番12号	0720-21-6401	0720-21-0134
	27H16	府立 岸 和 田 高	596	岸和田市岸城町10-1	0724-22-3691	0724-32-5266
	27H17	府立 池 島 高	579	東大阪市池島町6-3-9	0729-87-3302	0729-82-3134
兵庫県	28H01	滝 川 高	654	神戸市須磨区宝田町2丁目1-1	078-732-1625	078-732-7391
17校	28H02	須磨ノ浦女子高	675-01	加古川市平岡町新在家2301	0794-27-0015	0794-27-0080
	28H03	甲 南 高	659	芦屋市山手町31-3	0797-31-0551	0797-31-7458
	28H04	市立 琴 丘 高	670	姫路市今宿668	0792-92-4925	0792-92-4927
	28H05	県立 星 陵 高	655	神戸市垂水区星陵台4丁目3-2	078-707-6565	078-707-6589
	28H06	夙 川 学 院 高	662	西宮市神園町2-20	0798-74-5061	0798-74-1596

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	28H07	松 蔭 高	657	神戸市灘区青谷3丁目4番47号	078-861-1105	078-861-1887
	28H08	甲 南 女 子 高	658	神戸市東灘区森北5丁目6-1	078-411-2531	078-411-2535
	28H09	神戸山手女子高	650	神戸市中央区諏訪山町6番1号	078-341-2133	078-341-1882
	28H10	県立 舞 子 高	655	神戸市垂水区学が丘3丁目2番	078-783-5151	078-783-5152
	28H11	県立 姫 路 東 高	670	姫路市本町68	0792-85-1166	0792-85-1167
	28H12	県立 夢 野 台 高	653	神戸市長田区房王寺町2丁目1	078-691-1546	078-691-1548
	28H13	須 磨 女 子 高	654	神戸市須磨区板宿町3-15-14	078-732-1968	078-732-6129
	28H14	滝 川 第 二 高	651-22	神戸市西区平野町下村字平瀬436-1	078-961-2381	078-961-4591
	28H15	県立 西 宮 甲 山 高	662	西宮鷲林寺字剣谷10番地	0798-74-2460	0798-74-2461
	28H16	神戸女子商業高	653	神戸市長田区腕塚町6丁目1-22	078-741-1860	078-741-6304
	28H17	三 田 西 陵 高	669-13	三田市ゆりのき台3-4	0795-65-5287	0795-65-5289
	28H18					
奈良県 3校	29H01	県立 奈 良 高	630	奈良市法蓮町836	0742-23-2855	0742-23-4395
	29H02	天 理 高	632	天理市袖之内町1260	07436-3-1515	07436-3-1368
	29H03	奈 良 学 園 高	639	大和郡山市山田町430	07435-4-0351	07435-4-0335
	29H04					
和歌山県 2校	30H01	県立 貴 志 川 高	640-04	那賀郡貴志川町長原400	0736-64-2500	0736-64-2501
	30H02	田 辺 商 業 高	646	田辺市文里2丁目33-12	0739-22-2550	0739-22-2558
	30H03					
鳥取県 5校	31H01	米 子 北 高	683	米子市米原523番地	0859-22-9371	0859-32-6838
	31H02	県立 倉 吉 農 業 高	682	倉吉市大谷166	0858-28-1341	0858-28-1342
	31H03	県立 倉 吉 東 高	682	倉吉市下田中町801番地	0858-22-5205	0858-22-5206
	31H04	県立 鳥 取 商 業 高	680	鳥取市湖山町北2丁目401番地	0857-28-0156	0857-28-0157
	31H05	県立 鳥 取 東 高	680	鳥取市立川町5丁目210	0857-22-8495	0857-22-8497
	31H06					
	31H07					
島根県 2校	32H01	県立 松 江 東 高	690	松江市西川津町字宮尾510番地	0852-27-3700	0852-27-3703
	32H02	県立 安 来 高	692	安来市佐久保町115	0854-22-2840	0854-22-3612
	32H03				086-252-3161	086-255-9859
岡山県 3校	33H01	岡山理大学附属高	700	岡山市理大町1-1	086-252-3161	086-255-9859
	33H02	岡山県共生高	718	新見市新見2032-4	0867-72-0526	0867-72-8032
	33H03	高 梁 日 新 高	716	高梁市内山下150番地	0866-22-3466	
	33H04					
	33H05					
広島県 25校	34H01	尾 道 高	722	尾道市栗原町1268-1	0848-23-2312	0848-24-2091
	34H02	国立 広島大学附属福山高	721	福山市春日町吉田	0849-41-8350	0849-41-8356
	34H03	市立 呉 豊 栄 高	737	呉市阿賀中央5丁目13番56号	0823-72-5577	0823-74-3501
	34H05	市立 呉 宮 原 高	737	呉市宮原3丁目1番1号	0823-21-9306	0823-31-9308
	34H06	県立 海 田 高	736	安芸郡海田町つくも町1番60号	082-822-3030	082-822-3800
	34H07	県立 加 計 高	731-35	山県郡加計町加計3780-1	08262-2-0488	
	34H08	広島山陽学園山陽高	733	広島市西区観音新町4丁目12-5	082-232-9156	082-232-2497

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号
	34H09	修 道 高	730	広島市中区南千田西町8-1	082-241-8291	082-249-0870
	34H11	県立 広島 工業 高	734	広島市南区出汐2丁目4-75	082-254-1421	082-253-3407
	34H12	国立 広島大学附属高	734	広島市南区翠1丁目1-1	082-251-9867	082-252-0725
	34H13	県立 広島 皆 実 高	734	広島市南区出汐2丁目4-76	082-251-6441	082-251-644 1
	34H14	県立 可 部 高	731-02	広島市安佐北区可部3丁目15-26	082-814-2032	082-814-2140
	34H15	山 陽 女 子 高	738	廿日市市佐方本町1-1	0829-32-2221	0829-32-7681
	34H16	県立 因 島 北 高	722-21	因島市重井町長浜5574	08452-4-1281	
	34H20	広島第一女子商業高	732	広島市東区山根町天神谷108-8	082-262-0128	082-263-9228
	34H22	県立 賀 茂 高	724	東広島市西条町西条東770	0824-23-2559	0824-22-2792
	34H23	県立 福 山 葦 陽 高	720	福山市久松台3丁目1-1	0849-23-0400	
	34H24	私立 広島工業大学付属高	731-51	広島市佐伯区三宅1丁目6-25	0829-21-2137	0829-24-3020
	34H25	県立 佐 伯 高	738-02	佐伯郡佐伯町津田850	0829-72-1185	0829-72-0424
	34H26	県立 自 彊 高	720-24	福山市加茂市大字下加茂6	0849-72-3232	0849-74-3317
	34H95	県立 廿 日 市 西 高	738	廿日市市阿品台西6-1	0829-39-1571	
	34H96	近畿大学附属福山高	720	福山市佐波町389	0849-51-2695	0849-52-3581
	34H97	私立 福山暁の星女子高	721	福山市西深津町3丁目4番1号	0849-22-1682	0849-25-1533
	34H98	英 数 学 館 高	721	福山市引野町980-1	0849-41-4115	0849-41-4118
	34H99	広島女子商業高	732	広島市南区段原町11-5	082-261-8161	
	山口県 9校	35H01	県立 久 賀 高	742-23	大島郡久賀町第4851番地の2	08207-2-0024
35H02		県立 下 関 西 高	751	下関市後田町4丁目10番1号	0832-22-0892	0832-22-0892
35H03		聖 光 高	743	光市光井9丁目22-1	0833-72-1187	0833-72-1308
35H04		県立 田 布 施 工 業 高	742-15	熊毛郡田布施町麻郷奥	0820-48-2306	0820-52-2269
35H05		県立 田 布 施 農 業 高	742-15	熊毛郡田布施町大字波野195番地	0820-52-2157	0820-52-2157
35H06		県立 西 京 高	753	山口市大字黒川2580番地の1	0839-23-8508	0839-32-0721
35H07		県立 華 陵 高	744	下松市朱武上屋称下217-2	0833-44-1285	0833-41-5494
35H08		県立 下 松 高	744	下松市若宮町12-1	0833-41-0157	0833-41-3147
35H09		岩 国 工 業 高	741	岩国市錦見2丁目4-85	0827-41-1105	0827-41-1105
香川県 5校	36H01	県立 高 松 西 高	761	高松市鬼無町山口257-1	0878-82-6411	0878-82-6413
	36H02	県立 観 音 寺 第 一 高	768	観音寺市観音寺町甲648-1	0875-25-4155	0875-25-4145
	36H03	尽 誠 学 園 高	765	善通寺市生野町855番地	0877-62-1515	0877-63-3860
	36H04	県立 高 松 南 高	761	高松市一宮町531	0878-85-1131	0878-85-1133
	36H05	県立 高 松 東 高	761-03	高松市前田東町690-1	0878-47-6221	0878-47-6223
徳島県 5校	37H01	県立 徳 島 工 業 高	770	徳島市北矢三町2丁目1番1号	0886-31-4185	0886-31-1110
	37H02	県立 鳴 門 高	772	鳴門市撫養町斎田字岩崎135-1	0886-85-3217	0886-85-0074
	37H03	県立 徳 島 東 工 業 高	770	徳島市大和町2丁目2-15	0886-53-3274	0886-53-3296
	37H04	私立 生 光 学 園	771	徳島市応神町中原38	0886-41-1032	0886-41-4075
	37H05	辻 高	779-48	三好郡井川町御領田61番地1	0883-78-2331	0883-78-2269
愛媛県	38H01					
	38H02					
高知県 2校	39H01	県立 高 知 小 津 高	780	高知市城北町1-14	0888-22-5270	
	39H02	私立 高 知 高	780	高知市北端町100	0888-40-1111	0888-44-7578

都道府県名	指定学校番号	学 校 名	〒	所 在 地	電話番号	F A X 番号	
福岡県	40H01	県立 柏 陵 高	815	福岡市南区大字柏原4丁目47番1号	092-566-3232	092-565-2109	
	5 校	40H02	県立 折 尾 高	807	北九州市西区大膳2丁目23番1号	093-691-3561	093-691-9529
		40H03	県立 門 司 北 高	800-01	北九州市門司区猿喰1462-2	093-481-4673	093-481-5768
		40H04	慶 成 高	803	北九州市小倉北区皿山町15番1	093-561-1331	093-561-4844
	5 校	40H05	私立 大 牟 田 高	837	大牟田市大字草木852	0944-53-5011	0944-53-8251
佐賀県	41H01	県立 佐賀高志館高	840-02	佐賀郡大和町尼寺1698	0952-62-1331	0952-51-2008	
	2 校	41H02	県立 巖 木 高	849-31	東松浦郡巖木町下巖木727	0955-63-2535	0955-51-5021
長崎県	42H01	県立 大 村 工 業 高	856	大村市森園町1079-3	0957-52-3772	0957-52-3773	
	6 校	42H02	県立 諫 早 東 高	854-02	北高来郡森山町杉谷名317	0957-36-1010	0957-36-2719
		42H03	県立 長 崎 南 商 業 高	851-02	長崎市北浦町2885-1	0958-36-0120	
		42H04	私立 鎮 西 学 院	854	諫早市栄田町1057	0957-25-1234	0957-25-1237
		42H05	県立 佐世保工業高	857-01	佐世保市瀬戸越3丁目3-30	0956-49-5684	0956-49-8072
熊本県	43H01	県立 第 二 高	862	熊本市東町3-13-1	096-368-4125	096-365-5636	
	5 校	43H02	有 明 高	864	荒尾市増永2200番地	0968-63-0958	0968-64-1366
		43H03	東海大学第二高	862	熊本市大江町渡鹿223	096-382-1146	096-385-2161
		43H04	私立 熊本フェイスイス女	861	熊本市南高江町2718	096-357-7151	096-358-3044
		43H05	県立 氷 川 高	869-42	八代郡鏡町大字鏡村937	0965-52-3611	0965-52-5161
大分県	44H01	別府女子短期大学付属高	874-01	別府市大字野田78	0977-67-6098	0977-67-8255	
	12校	44H02	明 星 高	874	別府市野口原3088番地	0977-21-2090	0977-24-3141
		44H03	大 分 櫻 丘 高				
		44H04	県立 鶴 見 丘 高	874	別府市鶴見字横打4433-2	0977-21-0118	
		44H05	大 分 電 波 高	870	大分市新貝11-40	0975-58-3734	
		44H06	県立 別府羽室台高				
		44H07	県立 佐 伯 豊 南 高				
		44H08	大 分 東 明 高	870	大分市千代町2丁目4-4	0975-35-0201	0975-35-0966
		44H09	県立 大 分 豊 府 高	870	大分市大字羽屋600番1	0975-46-2222	
		44H10	大 分 高	870-01	大分市横尾字大丸尾	0975-51-1101	
		44H11	県立 大分上野台高	870	大分市上野丘2丁目10番1号	0975-43-6249	
		44H12	県立 中 津 工 業 高	871	中津市上如水145-3	0979-32-2222	0979-32-2224
宮崎県	45H01	県立 都城泉ヶ丘高					
	2 校	45H02	県立 都 城 西 高				
鹿児島県	46H01	鹿児島純心女子高	890	鹿児島市鴨池町1847	0992-54-4121	0992-52-7688	
	2 校	46H02	県立 鹿 児 島 工 業 高	890	鹿児島市草牟田2丁目57番1号	099-228-6909	099-222-9206
沖縄県	47H01	県立 豊 見 城 南 高	901-02	豊見城村字翁長520	098-850-1951	098-850-9239	
	5 校	47H02	県立 宜 野 湾 高	901-22	宜野湾市字真志喜2丁目25番1号	098-897-1020	098-897-4031
		47H03	県立 中 部 商 業 高	901-22	宜野湾市字我如古2丁目2番1号	098-898-4888	098-898-4808
		47H04	県立 前 原 高	904-22	具志川市字田湯1827番地	098-973-3249	098-974-4951
		47H05	県立 鏡 が 丘 養 護 学 校	901-21	浦添市当山750	098-877-4940	098-877-9958

○ 都道府県数 46県（内35都道府県 高体連に加盟 平成8年12月現在）

○ 学 校 数 380校

○ 新規加盟校の指定学校番号は、各都道府県で指定学校番号を付記し本専門部へ通知すること。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 登録状況一覧表

平成8年12月28日現在

番号	都道府県名	単 独 校		複数校	女 子				男 子				合 計			総合計
		女子	男子		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	
1	北海道	2	12	11	30	25	21	76	43	39	37	119	73	64	58	195
2	青森	2	2	6	13	19	23	55	22	45	26	93	35	64	49	148
3	岩手	1		2	16	14	14	44	23	8	8	39	39	22	22	83
4	宮城			4	7	6	4	17	24	6	5	35	31	12	9	52
5	秋田															
6	山形	1	1	3	16	16	9	41	22	18	4	44	38	34	13	85
7	福島		1	2	6	2	12	20	12	12	9	33	18	14	21	53
8	茨城			1		2	1	3	2	2	4	8	2	4	5	11
9	栃木			2	6	1	7	14	7	6	9	22	13	7	16	36
10	群馬	4	2	2	15	16	25	56	26	25	12	63	41	41	37	119
11	埼玉	2	1	6	38	37	23	98	27	29	14	70	65	66	37	168
12	千葉		1	11	29	35	35	99	49	45	40	134	78	80	75	233
13	東京	3	12	7	50	26	16	92	110	87	57	254	160	113	73	346
14	神奈川	3	4	9	46	27	31	104	77	65	60	202	123	92	91	306
15	山梨	2	1	1	17	10	4	31	3	10	6	19	20	20	10	50
16	新潟	2	1	2	2	4	1	7	1	13	5	19	3	17	6	26
17	長野		1	3		6	10	16	2	9	14	25	2	15	24	41
18	富山	1		5	17	7	9	33	38	18	19	75	55	25	28	108
19	石川		1	2		2	4	6		7	4	11		9	8	17
20	福井	1		2	8	14	14	36	10	7	9	26	18	21	23	62
21	静岡	1	4	8	40	25	23	88	69	57	42	168	109	82	65	256
22	愛知	3	5	6	27	18	18	63	58	73	33	164	85	91	51	227
23	三重			1			3	3		7	6	13		7	9	16
24	岐阜	1		2	1	9	21	31		3	10	13	1	12	31	44
25	滋賀	1	1	10	29	17	18	64	43	25	11	79	72	42	29	143
26	京都	1	1	5	32	21	32	85	34	33	18	85	66	54	50	170
27	大阪	2	6	9	27	39	26	92	59	64	50	173	86	103	76	265
28	兵庫	7	3	6	48	57	45	150	12	32	27	71	60	89	72	221
29	奈良		1	2	13	10	8	31	13	14	9	36	26	24	17	67
30	和歌山			2	5		5	10	12	2	3	17	17	2	8	27
31	鳥取			5	19	14	10	43	15	16	15	46	34	30	25	89
32	島根			1		7	3	10		4		4		11	3	14
33	岡山			2	2	3	3	8	8	1	2	11	10	4	5	19
34	広島	3	7	8	50	14	22	86	64	48	25	137	114	62	47	223
35	山口	1	3	5	10	17	18	45	12	22	16	50	22	39	34	95
36	香川			3	24	7	17	48	20	7	16	43	44	14	33	91
37	徳島	2		2	4	3	1	8	7	6		13	11	9	1	21
38	愛媛															
39	高知															
40	福岡			3	17	18	8	43	14	15	11	40	31	33	19	83
41	佐賀			2	8	5	12	25	5	6	3	14	13	11	15	39
42	長崎	1	2	2	11	7	8	26	15	11	5	31	26	18	13	57
43	熊本	1		4	16	16	13	45	23	16	11	50	39	32	24	95
44	大分	1	1	2	6	5	9	20	9	3	6	18	15	8	15	38
45	宮崎															
46	鹿児島	1		1		5	2	7	2	6	9	17	2	11	11	24
47	沖縄			5	23	6	15	44	12	8	6	26	35	14	21	70
合 計		50	74	177	728	592	603	1923	1004	930	676	2610	1732	1522	1279	4533

○高体連加盟 35都道府県

340校+α

第4回世界Jr選手権大会総括

チームリーダー

静岡県富士見高等学校 水上英彦

2年に一度行なわれている若人の祭典、第4回世界Jr選手権大会が、アメリカ カリフォルニア州、サンディエゴ郊外のチュラ・ヴィスタ市にある、アルコーオリンピック、トレーニングセンターで開催された。

サンディエゴは、軍港の町として知られており、宿舎に充てられたタウン&カントリーホテルは、空港からフリーウェイを車で15分ぐらいの所にあり、コテージの建ち並ぶとても落ち着いたホテルで、我々は、何の気がねなく10日間お世話になった。



気候は、地中海型気候で、朝9時頃まではどんよりとした空だが、10時ぐらいから急に明るく晴れわたり、日差しの強さには驚くほどであった。紫外線が強く、日陰にいればさほど感じないが、日中外に2、3時間ただけで、みるみる日焼けしてしまい、日焼け対策の必要性をつくづく感じた。たとえば、帽子をかぶる、暑いけど長袖を着る等競技以前の問題として、体調をベストに整えるという点からいうと、今回は選手自身あまり自覚がなかったように思う。こちらから、「こうした方がいいよ」、「こうしなければいけないよ」と言われないと自分の健康管理が出来ないのでは、一流選手にはなれない。ともあれ、競技開始日までの2日間は、選手に任せ自由に練習をさせる。広々とした練習会場では、選手も楽しく伸び伸びと射っており、各自自分なりの調整で各距離を射っていたが、やはり、気になるのが韓国選手の動行、知らず知らずのうちに、意識がそちらに向いている選手もいたが、全体としては、リラックスして練習していた。

今回宿舎から会場までバスを利用、約40分～50分かかるうえ、決められた時間にしかバスが動かないのでおのずと計画もその範囲の中でしか出来ず、かなり不便さを感じた。競技も予選は、午前中が女子、午後が男子と別けられ、女子は朝早くからの行動を余儀なくされた。競技方法は、FITA競技規則に従い、長距離6射4分、短距離3射2分で各的3名1立で行なわれた。短距離の30Mでは、アウトドアの国際大会では初めて3ツ目が登場、事前に聞いていたため合宿で3ツ目の練習をしてきたので戸惑いはなかったが、慣れないと意外に集中させるのが難かしそうだった。

2日間の予選の結果、女子は川内、上原、男子は高松、土井がそれぞれ通過、団体戦は女子が通過、男子は17位で惜しくも予選敗退という戦績に終わる。

私は、雑誌アーチェリーの取材の中で、「日本は完敗だった」と表現した。その理由は記録ではなく内容においてほとんどの選手が、自分の力を十分に出しきる前に試合が終わってしまったからであり、実力があながら予選通過出来なかったことに問題があるように思う。

射型(フォーム)に関していえば、出場してきた他国の選手と比べても、決して見劣り

していない。フォームだけを取ってみれば、かなり日本選手のフォームは、しっかりしているように見える。また、体力面でも、韓国チームの体格と比較しても見た目ではそんなに変わらない。女子個人二連覇を達成したカン・ヒュンジなどは、155cmにも満たない。それでも日本が勝てないのはなぜか。色々な理由が挙げられるが、根本的な違いは、『精神面の弱さ』ではないだろうか。この点については、以前から指摘されていたことだが、今大会でも同じ事が言えた。

次に『目標の設定』が挙げられる。上位にきた選手のほとんどが、最終目標はこの世界ジュニアではなく、オリンピックや世界選手権に出場することを考えている。女子のモスカレリ (USA) にいたっては、真の世界一を目指している。また、男子個人優勝のジャクソン・フェア (AUS) は、2週間後のアトランタオリンピックに照準を合わせていた。その点、日本選手のほとんどが、この大会を目標にしていたようだ。だから、精神的な余裕がなく、プレッシャーを感じてしまい本来の自分の実力を出しきれないまま終わってしまった。合宿期間中に目標を聞いて驚いたことは、そのレベルの低さと、弓に対する取り組みの姿勢の消極的な点であった。

次に『自立心』のなさが挙げられる。日本選手に欠けているのは、自立心。自分達することに責任と自信を持っている海外の選手に比べ、日本の選手は、どこかに人に頼っているところがある。それがもどかしいし、ひ弱さに映るのかもしれない。これは、選手自身の問題でもあり、その選手をとりまく環境にも問題があるように思える。

しかし、全てが全てそうではない。折尾高校の川内紗代子選手は、今回の目標の中にこう自分の気持ちを表現している。

「今までの練習を信じ、楽しく頑張ろうと思います。最終目標はオリンピックなので、今回の試合は通過点だと思っています」と今回の試合を位置付けています。目標の具体的設定、毎日弓を射ったことの楽しさ、信念を持ち練習している等彼女を見ているととても頼もしく思える。これは一朝一夕にはできる訳ではなく、クラブ顧問の先生の卓越した指導方法があったからだと思います。また、滝川高校の土井隆嗣選手の、男子個人優勝のジャクソンに射型のアドバイスを受け、良いものを吸収しようと積極的に接している姿を見る時、今回遠征の第1の目的である「世界を経験させる」点からいくと、各自にとって素晴らしい成果が得られたと感じる。また、選手自身世界に向け、より具体的な目標、課題を肌で感じとることができたことが、今後の活動の中できっと生かされるものと思います。日本を代表して活躍できる選手になれるよう、今回の遠征がその刺激になれば意義のある



大会だったと思うし、世界に向けての「通過点」でもあるということ……。

試合経過、感想、反省等詳しい内容については、今回のチームコーチの穂苅先生にお任せしました。選手の細部にわたる報告がされています。

最後に、今後の問題として私自身思うことは、日本独自のシューティング理論を早期に確立することが必要に思います。他国から学

ぶことは大切だが、学ぶだけでは進歩がありません。日本には日本に合った理論があるはずですが、今の日本はそれが混乱していると思います。

それともう一つ、小・中・高・大と一貫した指導を組織的に行なうこと。少なからず、各年代においてそれなりの成果を上げてはいるが、単一でやっている以上おのずと限界が見えてきます。縦、横の組織の力は絶対必要であります。

何かまとまりのない文章になりましたが、高校生を指導しておられる先生方の力を結集することができれば、少なからず今よりはレベルアップすることはまちがいない事実です。

今回の世界Jr遠征に関し、全面的にご尽力下さりました全日本アーチェリー連盟、とりわけ、強化スタッフの皆様、全国高体連アーチェリー専門部に対し、心よりお礼申し上げます。

第4回世界Jr.選手権大会参加報告

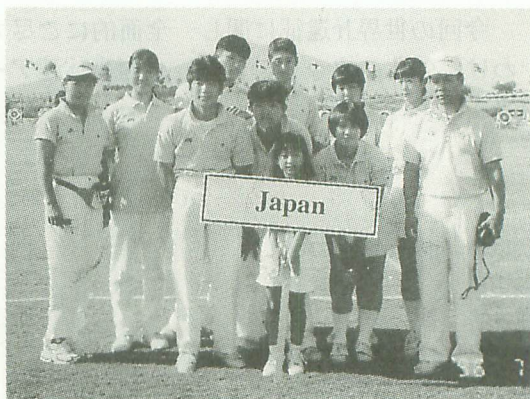
アメリカ サンディエゴ アルコ・オリンピック・トレーニングセンター
1996.7.2～7.14

チームコーチ

国際基督教大学高等学校 穂 莉 美奈子

〈日本代表選手〉

《女子》	佐藤 知香	近畿大学
	田原 雅代	岡崎東高等学校
	川内紗代子	折尾高等学校
	上原絵里奈	菟道高等学校
《男子》	堀端 真	専修大学
	土井 隆嗣	滝川高等学校
	高松 大輔	三重高等学校
	山縣朝太郎	富士見高等学校



〈日 程〉

7月2日 日本出発 サンディエゴ着
3日～4日 練 習
5日 公式練習 弓具検査 開会式
6日 クオリフィケーションラウンド 長距離
7日 クオリフィケーションラウンド 短距離
9日 イリミネーションラウンド ファイナルラウンド
10日 チームラウンド 開会式 バンケット
11日 サンディエゴ出発 ロサンゼルス到着
12日 ロサンゼルス観光
13日 ロサンゼルス出発
14日 帰 国

〈今大会の各選手の目標〉

佐藤：1200点以上は射ちたい。順位はまず予選を。

川内：世界でどこまで通用するかわからないけど、今までの練習を信じて楽しく頑張ろうと思います。最終目標はオリンピックなので、今回の試合は通過点だと思っています。

田原：世界大会だから頑張るというのではなく、いつも通りの自分で雰囲気を楽しめるようにやるだけだと思っています。

上原：団体戦の決勝のメンバーの1人になれるようにやっついでいこうと思います。いろいろな国の子どもとも交流をしたい。目標は1280点です。

堀端：点数としては自己新以上。順位としてはベストを尽くせば何位でもよいと思った。

土井：1240点ぐらいを射ち、最低限イリミネーションラウンドに進出、初戦は突破した

い。今大会をきっかけに意識改革（世界を意識）を行いたい。
山縣：まず予選を通過することです。達成できたら目標を立て直し、1回戦を勝つ、2回戦を勝というふうにしていった方が自分に合っていると思います。
高松：出場するからには自分のベストを射ちたい。

〈大会までの調整と経過〉

5月に代表選手が決定してから、出発までの間に1度合宿を行った。神戸市の“幸せの村”において、6月18日から3泊4日の日程だったが、予選ラウンドの練習はもちろんのこと、マッチ戦やチームラウンドについても本番を想定した形での練習を行った。さらに出発までの準備や調整などのこまかい指示や助言を行った。

現地に到着してから競技までは2日間の練習時間があったが、距離や本数はあまり決めずに自分のペースで自由に練習させた。1日目は疲れと時差ぼけから、3名が体調不良を訴えたが、2日目には回復していたようだ。練習日の行射本数や時間については、満足だったものと不足を感じたものとしたが、宿舍と会場を移動するためのバスの時間によって、こちらの行動時間が決まるという状況だったので、自由がきかなかった。

公式練習時点での各選手の調子は、男子では堀端はまずまず、高松と土井は本来の調子が出ない様子、山縣は自分の射ができずに苦しんでいるという感じであった。女子では川内がリズムカルな射で調子を上げており、上原と田原はまずまず、佐藤は自分のリズムで射つことができず、調子が出ない感じであった。公式練習の日は風が強く思い通り射つことが難しかったようだ。

〈試合経過〉

クオリフィケーションラウンドは2日間とも女子が午前、男子が午後の競技日程であった。2日間とも午前は良いコンディションだったが、午後はかなり強い風が吹くというパターンであった。

1日目女子においては、川内が調子良く、とくに60mでは自己ベストの323点をマークし、1日目終了時には4位という成績であった。上原は585点、田原は577点で練習通りだが今ひとつ調子が出せないというところ。佐藤は548点と苦しんでいたが、これもほぼ練習点であった。



男子においては、風の影響からか思うように点が出ず、高松が554点、土井が551点、山縣が490点でほぼ練習の調子であったが、堀端は512点と自分のリズムで射つことができなかったようだった。

2日目女子の短距離については、川内は多少リズムを崩しながらも、644点でトータル1273点をマークした。上原は1日目よりもリズムが良く、636点で1221点であった。田原は50mは流れにのって射てたが、30mではクリッカーがきれずに苦しみ626点、トータル1203点であった。佐藤は苦しみながらも自分の射を心掛けて、607点の1155点という結果だった。男子は1日目と同様で風に悩まされた。高松はエイミングが長く621点トータル1175点であった。土井は感じは悪くないようだったが、矢の集中が一定せず、

603点の1154点だった。堀端は伸びやかさを欠き射が固く、623点でトータル1135点であった。山縣は1日目の感じを引きずってしまい指に力が入り、レストアップが数本出てしまった。548点トータル1045点という結果であった。

クオリフィケーションラウンドの結果、女子は川内と上原、男子は高松と土井がマッチ戦への進出を決めた。チームラウンドへの進出は女子のみとなった。

3日目は当初知らされていた日程が変更になり、コンパウンドのみの競技日であった。この日は全員で練習を行い、合間に競技を見学した。

4日目は男女のマッチ戦（イルミネーションラウンド・ファイナルラウンド）で、男女の競技が交互、あるいは同時進行で行われた。女子においては、川内と上原が1回戦で対戦し、148点と141点で川内が2回戦進出となった。川内の2回戦はポーランドのPodkopiak選手との対戦であったが、143点と141点で川内は2回戦で敗退した。男子では、1回戦高松がトルコのSatir選手と対戦し、148点と156点で高松が敗退した。土井は韓国のKoo選手と対戦し133点と164点の大差がつき、やはり敗退した。

5日目のチームラウンドは女子8チームが残り、日本女子が6位通過で1回戦は中国との対戦であった。1回目は緊張のためか、かなり矢が散らばってしまったが、2回目と3回目は盛り返した。しかし、1回目が響き214点と225点で日本チームが敗退し、残念ながら順位は8位となった。

〈大会記録〉

《女子個人》

1位	Kan,Hyun-Ji	KOR	1291	155	157	100	101	103
2	Sin,Hea-Jin	KOR	1313	154	156	105	196	102
3	Podkopiak,Marta	POL	1252	145	150	96	91	101
11	川内紗代子		1273	148	143			
21	上原絵里奈		1221	141				
40	田原雅代		1203					
49	佐藤知香		1155					



男子個人優勝 フェアー・ジャクソン（オーストラリア）



女子個人優勝 カン・ヒュンジ（韓国）

《男子個人》

1位	Fear, Jackson	AUS	1311	166	161	165	112	109	111	(T-10)
2	Koo, Chung-Sung	KOR	1277	164	169	162	106	113	111	(T-9)
3	Jang, Se-Hei	KOR	1307	169	164	161	110	110	111	
47	高松大輔		1175	148						
64	土井隆嗣		1154	133						
70	堀端 真		1135							
78	山縣朝太郎		1045							

《女子団体》

1位	韓 国	240	232	242
2	ポーランド	223	235	218
3	ウクライナ	236	218	223
4	日 本	214		

《団体男子》

1位	韓 国	245	246	238	233
2	ポーランド	229	237	225	216
3	イタリア	236	242	235	237

《選手の感想・反省など》

佐藤：今回の大会は、前から出たかっただけに出れて本当に嬉しかった。それだけに悔いが残る結果になってとても残念だった。予選を通過したかったし、マッチ戦で戦って見たかったし、団体戦も出たかった。でもこれで学ぶこともできた。来る前とはだいぶ考えやこれからの練習に対する意識が変わってきている。また世界レベルの試合に出たい。自分も表彰台にのぼってみたい。

川内：今回の大会では、今までにない緊張感を感じることができたし、いろいろな人の射形を見たりして勉強することができたので、すごくいい経験になったと思います。予選では練習で出しているぐらいの点数が出て5位だったので、私も世界に通用するんだなと自信ができました。

田原：今回の大会は後悔とくやしさがいっぱいでした。試合前から調子が悪いままのじぶんに腹が立っていました。練習ではちゃんといろいろ探しながら射っていたのに、結局試合になって守りに入ってしまったので、思うように射つことができませんでした。試合に出て勉強になったことや、自分の弱さなどがはっきりわかりました。アーチェリーに対する思いが、この大会を通していっそう深くなった気がします。

上原：この大会に出て、今までのアーチェリーに対する考えが変わりました。自分よりうまい人ばかりいる中で試合をして、まだまだ自分は練習が足りないと思いました。成功した点は、自分の目標がもっと高くなったことや、アーチェリーに対する情熱



が前より強くなったことです。

堀端：世界のレベル、試合の進行、海外遠征というものを肌で感じる事ができたというのは、非常に大きな収穫だったと思う。是非いつかまた国際大会に出場したいと思った。良くも悪くも充分一生に残る経験をしたと思う。

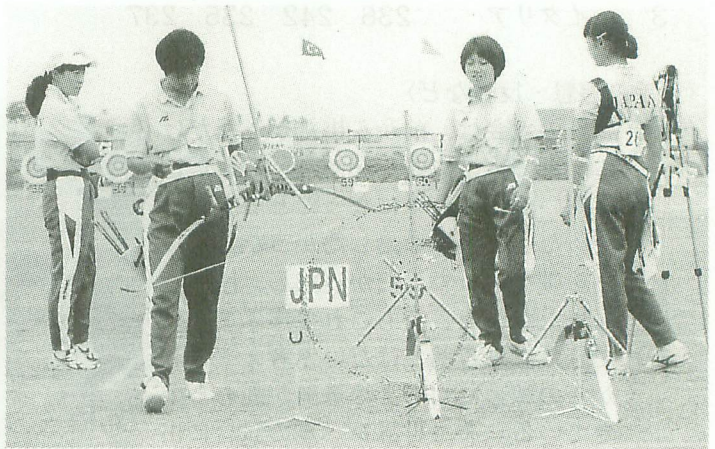
土井：まったく成績は良くなく、順位も下の方だったが、自分のアーチェリーにおける考え方や、方向性を成長させるには大変良い経験だったと思う。特にAUSのジャクソンと多く話をして、アーチェリーから多方面にかけて勉強させてもらった。おかげで今後の目標を明確なものにするためにとても役立った。

山縣：あの風の中、緊張の中で黄色の中にポンポン入れられるテクニック、精神力の強さは相当なものだと思う。自分もあのような選手になりたいと思う。またこのような世界選手権やオリンピックなどの国際大会に、是非出たいと思います。

高松：この年齢で外国に来れたこと、目の前で同年代の男が1300点アップして、すごい戦いをして優勝したこと、自分が今まで経験したことがない体の震えを感じたこと何もかもが良い経験になったと思う。シドニーは俺がもらった!!

〈成果・感想・その他〉

全日本選手権に出場したことのない選手が、いきなり全日本優勝を目標に設定することは、イメージがないだけになかなか難しいことである。ましてや、国際大会を経験したことのない生徒達が、Jr.とは言え世界大会で優勝を目標とすることは、さらに難しいと推測する。しかしながら経験とはすばらしいもので、選手達は次の世界への挑戦に向け、具体的な感触を抱いたようである。そういう意味で、今回の派遣は高い成果が得られたと考えていいだろう。



点数の面では、1300点を射つ実力がないと、マッチ戦で勝ち進んで上位に入ることができないということが実感でき、国内の試合で上位に入り、ある程度の満足感を得ていたことが、世界ではまったく通用しないというある種のショックを経験した。また逆に、未知の世界に対し自分でもやれるという感触を持つ機会にもなり得たようである。

生活面についても、国内の慣れきった生活習慣や言語、人間関係を離れ、国際試合のプレッシャーに加え様々な緊張がある中で、自分のペースを守って競技することの難しさを十分に認識したことだろう。

今後はこの経験を十分に生かし、日本を代表して世界で活躍できる選手に成長することを強く期待したい。“国際競技力”の向上を目的としたJr.派遣の成果が、本当の意味で評価されるのは、派遣された選手たちの今後の活躍如何によるのである。

今回私はコーチという立場で同行したが、派遣された選手達が今後世界に出て競技することを考えたときに、改善を期待したい部分があったので、記述してみたい。これは今回

のみ言えることではなく、今まで何度か遠征に同行していて毎回感じていたことである。

1. 受け身の姿勢ではなく主体性を持つ

練習中や宿舎にいるとき、いちいち指示しないと行動できないことがたびたびあった。自分の意志でここに来ているという姿勢が、まったく見受けられず、やらされている感じがある。

2. 弓具など基本的なチューニングは自分でできるように

極端なところでは、サイト調整までも日頃は指導者任せ？と感じさせられる場面があった。射線にたったら独りのはずである。

3. “目標”に対する考え方の整理をしておく

目標は高ければいいというわけではないが、最低限でも今頑張れば出せるかも知れない点のことを言うのではないだろうか。“今ならこのぐらいは出るだろう”という“予想点”とは違うはずである。極端な場合は、直前に出している点数よりも低い点を次の目標にあげるということがあった。

4. 自己管理を真剣にしっかりと行う

日射の対処や、持病の管理などもっと意識をもつべきである。余裕を持てる時間ではなかったが、睡眠時間の確保などもう少し工夫が必要であろう。スポーツ選手としての自覚に欠けていると思わされることがあった。

全体を通して感じることは、世界を目標にするならば“自立（自律）した選手”を目指してもらいたいということである。しかしながら、今回の遠征では今まで感じたことのない良い点もあった。それは食事の面である。食べることができなくなるという選手が1人もいなかったことである。食事に関しては、現地で作されたものを食べて頑張ることを事前に指導してはいたが、そのことに関係なく、ほとんどの選手が、出された食事を好んで口にしていった。もったこのごろの高校生や大学生は、アメリカ的な味や食材に十分慣れているのだろう。

今回役員として初めて経験したことに“ドーピング”の問題があった。監督会議の席上で、上位選手とさらに抜き打ちで数名の選手に行う、という連絡があった。試合日程の途中で日本チームの1人の選手が、病院で処方してもらった鎮痛剤を服用しなければならぬ状況になり相談に来た。市販の薬であれば、説明書に成分表示があるのだが、病院処方の薬は何が入っているのかまったくわからない。その病院と国際電話で何度かやり取りして処方された薬の成分が、FITAのルールブックに記載されている“使用禁止薬物”に当てはまらないことを確認した上で、選手に服用させた。今後については、役員側も選手側も、ともに事前に対処しておくべき問題であろう。

以上、同行して感じた率直な感想である。

最後になりましたが、今回の派遣に際し、ご支援、ご助力くださいました全日本アーチェリー連盟強化部スタッフの皆様や、全国高体連の諸先生方に感謝し、心よりお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

〔インターハイ男子優勝校〕

再びの感動をありがとう

～男子アーチェリー部の頂点までの歩み～

大分東明高等学校アーチェリー部

顧問 藤岡 晋三

「大丈夫だと思います」決勝戦・最終エンドの行射直後、横で戦況を見守っていたマネージャーの声が耳に入ってきたながらも、まずはそれ以上に僅差勝負の中で堂々とシューティングした生徒たちに対して「よく頑張った」「力を出し尽くし満足のいくゲームができた」という充実感で一杯でした。スコアボードに両チームのスコアが出され「本当に優勝したのだろうか」と一瞬我を疑いましたが、徐々に優勝という実感がこみ上げ、自分の力を信じることで5%だった可能性が100%になるという素晴らしい感動を味わうことができました。平成8年8月5日、山梨県で行われた全国高等学校総合体育大会アーチェリー競技で本校男子アーチェリー部が3年前の女子部に続き全国制覇した瞬間でした。



本校男子アーチェリー部は平成2年の4月にスタートいたしました。これは昭和63年の女子部発足から2年遅れのスタートになります。その男子部の発足当時から、この感動までの歩みを回想し紹介させていただきます。

女子部として発足した本校のアーチェリー部は、当然女子リーダーのもと、女子中心の練習をしていました。全国大会入賞を目標に掲げ、厳しい練習を積み重ね各種大会や遠征・合宿等に積極的に参加し、徐々に好成績をおさめていく女子チームとは対照的に、日の目を浴び無い男子の一期生(1年生3人)は、練習場の隅で地道に基礎練習を繰り返していました。なかなか結果が伴わない男子チームではありましたが、2年目の年に大きなチャンスに挑戦してみることにしました。3名で団体を組み、全国大会予選(大分県体育大会)に出場することにしました。この年の県大会には他校の男子団体チームの出場が無く、参加と同時に出場権を得られるというもので、このチャンスを生かして全国のレベルを感じとり、これからの練習に役立ててもらえればという願いからでした。トップレベルの選手と一緒にプレーをし、その緊張感を肌で感じとって帰ったつもりでしたが、逆に県内にはライバル校がないので来年も全国大会に出場できるといった安易な考えの方が先行し、やはり女子チームに比べ今一つピリッとしめない目的意識に欠ける練習でありました。その雰囲気をも何とかして排除しようと「男子団体は目標点数をクリアしないと全国大会への出場は認めない」「これからはスコアが全てだ」と宣言し目標を持たせた練習を試みました。翌年、1・2年の後輩もたくさん増え、意気込んで全国大会予選に臨みましたが、目標点をクリアできず全国大会を断念させました。悔しさで途方にくれる生徒に「厳しいトレーニングを消化すれば、記録への再チャレンジを認める」と言ったところ本気でぶつかってきました。そして記録会を繰り返すこと5回目にしてやっと目標点に達し全国大会への参加を認めました。(本当は大会終了後、出場の手続きをとっていましたが)今思えば、本人たちが初めて真剣にアーチェリーに取り組み、自分たちで目標に向かって歩き始めた第一歩でありました。

その年の全国大会ではまずまずの結果を出し、帰校後は大きく進歩して練習意欲が向上していました。今まで以上に自主性が芽生え、「女子とは違ったトレーニング内容をしていきたい」という申し出があり、男子部と女子部を独立させて練習することにしました。その当時女子とは約100点(団体合計点)位の差があり、県内にライバル校の無い男子チームにとっては、女子チームが唯一のライバルチームで、追いつき、そして追い越すことを目標に練習していました。このように女子チームにリードされながらのスタートでしたが「女子チームには負けたくない、女子を上回りたい」の一心が年々目標点を引き上げ着実に力をつけていった要因であったと思います。特に平成5年度の女子の全国制覇には、強い刺激を受け、全国大会を意識したチームと変わっていきました。しかし、そう簡単に全国トップレベルに近づけるものではないと私自身思っていました。

それから3年、平成8年の4月、現チームに「優勝できる確立は5%位しかないと思う。でも全く無いわけではない。これからの練習次第でこのパーセンテージはどのようにでも変わっていくものだ」と言ってスタートいたしました。

例年以上に自主性を重視してきたチームには、何度となく部内で意見のくい違いが起きました。その都度キャプテンを中心に話し合い、自分たちで解決させていきました。その話し合いがむしろ以前のチームより結束力のあるチームをつくったような気がします。

練習は自分の持っている力を最大限に発揮することを目標とし、日々自己の能力をアップさせていくことを心がけて練習してきました。

県内に対戦相手がいらないからといって、井の中の蛙になってはいけません。全国レベルを眼中に置いての練習は思ったより大変なものでありました。70Mの決勝ラウンドを想定した練習では集中力が持続せず「このままでは1回戦も突破できないぞ!」と檄をとばし、何回も、何回もゲーム形式でチャレンジいたしました。ミーティングでは、「向かうところ敵無し」と言う言葉がありますが、私はあえて本校チームに「向かうところ2位無し、順位ではなくスコアだ。自分の力を最大限に発揮することだ」と生徒達に言い続けてきました。

そして迎えたインターハイ、選手も私も「可能性へのチャレンジ」という気持ちが強く「絶対優勝するんだ」という気持ちはありませんでした。前日のミーティングでは、女子個人で、初日最悪のスタートを切りながら見事奮起し、優勝した大津留の影響もあって「成せば成る」の雰囲気が出ていました。予選ラウンドの反省をすませ「今、自分がやらねばならないことは何か」を自分に問いかけさせ、いつも練習で言い続けてきた「自分の持っている力を最大限に発揮すること」を確認し「早く試合がしたい」「早く射ちたい」という積極的な気持ちで翌日の決勝ラウンドを迎えました。決勝ラウンドでは、はじめにも書きましたように、素晴らしい集中力で試合を進めていきました。決勝戦終了後キャプテンが「今日の試合は最高です。言葉ではうまく表現できませんが本当に楽しかったです」「試合中、何の不安もなかったし、点数も気になりませんでした」と話してくれました。スコアを目標にしましたが、こうしてアーチェリーの真の楽しさを知ると同時に、数%の可能性でも自分を信じて努力を重ねていけば大きくなっていくことを身を持って体験することができ生涯の財産を得ることができました。

今回から新ラウンド方式の導入で実力No1で頂点に立ったとは言えませんが、大きなミスをせずに最高の集中力で勝ち続けていった彼らと、それを支えていった部員達は私は誇りに思います。そして、彼らに心から「再びの感動をありがとう」という気持ちで一杯です。最後に今回もこのような成績が残せたのは、いつも陰ながら支えていただいている志柿コーチをはじめ、アーチェリー関係の皆様、学校、そして保護者の方々のご支援のお陰であると心より感謝しております。これからも、この優勝をステップに頑張っていきたいと思います。今後とも宜しくご指導願います。本当に有り難うございました。

[インターハイ女子優勝校]

インターハイ初優勝の経過

菟道高校アーチェリー部

顧問 塩田 浩一

菟道高校アーチェリー部創部12年目にしての初優勝は、今、思い出してみても大変ドラマチックなものでした。前回の広島大会では、予選で9位となり、最初はシード権すら獲得することが出来ませんでした。決勝ラウンドでは、とんとん拍子に勝ち続け、決勝戦まで進みました。しかし、結果としては惜敗でした。この時、銀メダルを取ったメンバーに入っていたのが現3年生の上原と、1年生マネージャーとして参加し、現2年生で女子リーダーを務める原田でした。“準優勝”というのも立派なことではありますが、選手にしてみれば最後の最後で敗れた…という思いの方が悔しさとなって心に刻まれたようです。

そして昨年の府予選では、新メンバーに2年生の香村・木南を加えて全力でぶつかりました。この時、香村が予想以上の実力を発揮して個人では上原に次いで2位につけ、団体でも2位以下に大差をつけて優勝しました。また男子も、個人・団体共に優勝し、2年連続7度目のアベック出場を果たせました。米国で開催される、上原の世界Jr.選手権大会出場も決定し、山梨大会へ向けて大きな追い風になるはずでした。

ところが期待の上原は、世界大会で体調を崩し、マイコプラズマという微生物に感染して帰国後肺炎を発症。急拠2週間の入院となりました。退院予定日は、山梨へ出発する日で、これで上原のインターハイ出場は絶望との連絡が入り、私には「今年のチームは最強だ。」との思いがあっただけに非常な衝撃でした。

幸い、上原は見る見る回復し、山梨出発の5日前に退院出来る運びとなりました。マイコプラズマは毒素を出さない為、病原体が無くなりさえすれば、後は本人の体力勝負だと主治医から聞いていたので、運までも味方に出来たように思います。

夏休みの強化練習は、連日の猛暑の中続けました。午前中は個人戦練習で午後3時頃からは団体戦練習を行いました。団体戦練習は、男女各チームと男女の補欠+顧問チームに分かれて行いました。チーム間で色々メンバーを入れ替えて練習をしたので、選手達には良い刺激になったようです。

7月31日早朝、復調した上原を含め11人、元気に山梨へと出発しました。8月1日は総合開会式と弓具検査、公式練習が行われました。かなりの猛暑で、救護所は倒れる生徒達で一杯でした。上原も点滴を受けつつも、何とか公式練習だけはこなすことが出来ました。翌2日は開会式と予選長距離の試合です。昨日同様、猛暑でプラカード持ちの生徒が大勢倒れて、とうとう上原までもが倒れてしまいました。もしこのまま上原が打てないとなると団体予選そのものにも参加出来なくなってしまう…目の前が真っ暗になる思いでした。しかし、有難いことに試合開始は午後からであったので休養をとった後、試合に臨みました。こんな大変なスタートをした初日にもかかわらず、団体1位、個人では上原1位・木南20位・原田32位という成績をおさめました。次日は、連日の猛暑に加えてトリッキーな風が選手を苦しめました。女子団体は逆転を許してしまい、2位で通過しました。それでも初日から、何か大きなことを遂げられそうな心躍る予感が私の胸を占めていました。

8月4日、いよいよ運命の日がやって来ました。朝はいつものように起き、いつものよ

うに体操をし、いつものように朝食を取り、そして試合会場に向かいました。選手達には変な緊張や堅さは感じられず、私としてはまず一安心でした。が、私の心中は、まだ何が起こるかわからない、という少しの不安と妙に高揚した気分とが複雑に入り混じっていました。

この日の天候は晴、気温は非常に高く直射日光で頭痛がするくらいでした。その上、強さも一定でなく、方向も右から左から、と時々刻々と変化するトリッキーな風が吹いていて、選手達にとっては大変な悪コンディションでした。

しかし、団体戦では監督が選手の傍で指示を与える事が出来るので、風による狙いのずらし方等は私が判断指示し、選手は打ち方にのみ集中させることが出来ました。その時は私自身、選手との一体感があり、まるで自分が的に向かって打っているかのような錯覚さえ起こしたくらいです。但し、実際自分が打っていたとしても、あれだけの得点があの時出せたかどうか疑問ですが、監督業がこれ程楽しいと思ったことは今だかつてありません。選手3人は、大会中、最高の状態であり、とても頼もしく映りました。そして私には、「この子達は強い。」という100パーセントの信頼があったのです。

そして開校と同時の創部以来、12年目にして初の全国制覇を成し遂げました。優勝決定の瞬間は、まず嬉しさがこみ上げるより、「長い旅路がやっと終わった。」という思いの方が強くありました。

表彰式で、一番高い台上の彼女達は嬉しそうでした。それでいて何となく照れ臭く、足元がふわふわして落ち着かず、自分達より上には勿論誰も立ってはいないのです。それが優勝の表彰を受けている彼女達でした。この気持ちを今年の京都総体でも再び味わって欲しいものです。

今、本校には、この時の優勝カップが飾られています。本年は、これが2つ並んでいるようにこれから男女共、目標を一つに頑張ってゆきたいと思います。

〔学 校 紹 介〕

「田村高校アーチェリー部 創立から現在」

福島県立田村高等学校 アーチェリー部

顧問 渡 辺 正 仁

本校は福島県の中央部に位置し、生徒数1153名の普通科24クラス体育科3クラスの創立74年の歴史と伝統を持つ学校です。所在地は田村郡三春町、多くの山々と緑多き自然の豊かな中にあります。

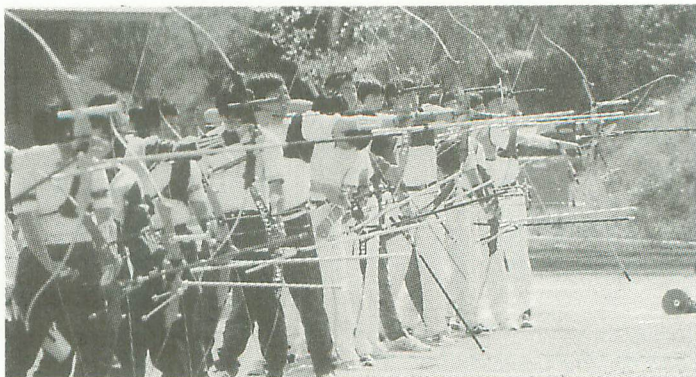
田村高校にアーチェリー部の前進となるアーチェリー愛好会ができたのは、平成2年4月でした。これは、平成7年に開催の福島国体において、三春町がアーチェリー競技の会場になることが決定していたため、地元にある田村高校に、県・三春町・県アーチェリー協会の要請により急遽つくられたものでした。

福島県には当時、福島市の福島高校にアーチェリー部が存在しているのみでした。本校の創立時の部員は、三春町アーチェリー協会に所属し前年より活動していた3年生男子3名 女子1名、それから新しく入部した2年生男子1名 女子4名 1年生男子4名の計13名であったと記憶しています。顧問の教員もアーチェリーは全く初心者でありました。しかも、愛好会のため生徒会からは部費・旅費は下りず生徒負担が非常に多いという状況での発足でした。

当時、学校内には練習場はなく、練習場所には三春町の、使用されなくなっていた施設(旧合同庁舎跡)の駐車場等で、三春町のアーチェリー協会の会員の方々と一緒に練習をさせていただきました。この町協会の方々との練習が生徒たちには大きな力となったように思います。また、生徒たちも熱心に練習に取り組み、しだいに得点も上がっていききました。特に入部したての1年生男子の技術の吸収力には驚嘆すべきものがありました。

平成2年7月に石川県柳田村で開催された全国高等学校アーチェリー選手権大会に本県としては初めて本校男子チームが出場し、順位は別として選手たちはこの名誉ある大会に出場できたことに大変な満足を感じていました。年が明けて3月に行われた全国選抜大会では1年生男子が8位に食い込む健闘を見せ、これは、世界ジュニア選手権出場につながるようになりました。

創部2年目愛好会はようやく部に昇格。しかし、使用していた練習場が取り壊しになり、学校のはじめの雑草が生い茂り蛇が多数出没する所(グラウンドの土止めのガケ下)を練習場所とすることが許可となった。ここは、矢が的をはずれると矢さがしに時間がかかり、紛失や破損も多かったのです。そこで、ここでは近射の練習をやり、距離は多少時間がかかりましたが、町のグラウンド(平成7年ふくしま



97年春合宿

国体会場の駐車場)で練習することとなりました。ここも、学校から徒歩30分のの上
にあり、当時のひ弱な部員には大変きつかったようです。環境的にはまだまだ難問が山積
していたが、国体を前にして県協会主催の強化合宿が数多く行われるようになり、生徒の
実力もそれに伴いアップしていきました。そして、10月の石川国体では少年男子が4位
に入賞するという快挙を成し遂げることができました。この年の12月待ち望んだアーチ
ェリー専用射場(50m7的分・倉庫付き)が完成し、3月の全国選抜では2年男子が初
優勝をしてくれたことも非常に大きな励みとなりました。本県に高体連アーチェリー専門
部が発足したのもこの年です。

創部3年目(平成4年)、この年は今まで指導をしてきた私にとって忘れられない年と
なりました。前年国体4位からもっと上へを目指してきたところ、ブロック大会での敗退、
部員不足等々、この年から2年間勝てない成績の上がらない日々が続きます。この2年間
は全国の諸先輩や強豪校の先生方からご指導をいただいた貴重な2年間でありました。

創部5年目(平成6年)、試行錯誤を重ね、「基本は体力である」との自分なりの結論を
得ランニングやウエイトトレーニングを続けた選手がやっと点を出してくれるが、ここ
でもすんなりとはいかない。暑さ・緊張・欲に負けた富山インターハイ、風・雨・プレッ
シャーに負けた東北総体、まったくなかなかうまく行かないものである。幸いこの年の国体
は少年男子がフルエントリーの年で、国体の強化とあいまって岡崎のリハーサル大会にも
参加することができ未公認ながら1959点の日本高校記録(1955点)を超える点数を出
すことができた。また、本番のわかしゃち国体では1933点の国体記録で優勝することが
できた。そのほか、全日本選手権に2名の参加(8位入賞)ヤマハカップ6位入賞もする
ことができ今までの成績を考えると信じられない1年であった。

創部6年目(平成7年)ふくしま国体の年、創部の成り行きを考えると国体のための今
までの強化であったので、指導者には選手以上に大きなプレッシャーがあった。結果から
先に記すると少年男子は5位、少年女子は入賞できなかった。しかし、それまでの練習で
得たものは結果以上に大きいものがあつたと確信している。選手にも自信・誇りとなつて
残り、指導者にも得るものは大きかったと思っています。

創部7年目(平成8年)東北高校選手権男子団体3連覇 インターハイ男子団体4位
女子個人6位(女子は初めての入賞)しかし、広島国体には出場できず。

今後の課題

年によって波はあるものの新入部員が減少の傾向にある。中学校での経験者はもちろん
初心者の勧誘に努めなければならない事、シングルを練習できる練習場の確保など悩みは
いづこも同じかもしれません。

最後に

田村高校アーチェリー部は、創部から現在まで多くの方の援助ご指導のもとに現在まで
活動を続けることができました。全国大会では多くの強豪校と肩を並べて射たせていただ
くことができ多くのことを学ばせていただきました。各地への遠征の際には地元の学校顧
問の先生に大変よくしていただきました。

まだまだ発展途上の田村高校ですが、今後ともよろしく願いいたします。

〔学校紹介〕

盛岡工アーチェリー部「活動の軌跡」

岩手県盛岡工業高等学校 アーチェリー部

顧問 大川 敏久

本校は岩手県の中央部に位置し、産業教育の一翼を担う人材育成を目的として、明治31年開校以来、全国屈指の歴史ある工業高校として数多くの人材を輩出し、平成10年には創立100周年を迎えようとしております。開校以来幾多の変遷がありましたが、現在は9科9学級（定時制課程も併設）の工業高校で、ラグビー部の全国制覇2回、陸上部個人優勝3回、登山部の準優勝2回と文化部の活動も含め部活動の活発な学校です。

必修クラブ発足から同好会まで

昭和47年（1972）に新教育課程の1単位として必修クラブ科目が設定され、それに伴って必修クラブアーチェリーも発足し活動することになりました。当時はアーチェリー用具は無く、岩手県アーチェリー協会や盛岡市アーチェリー協会の指導や、援助により弓具などを借用して細々と活動をしている状況でした。その後、県の費用により弓具の購入や更新が出来るようになりました。

クラブ活動を活性化させるためには、必修クラブと課外クラブを両立した活動が必要であり、そのためには放課後も活動する愛好者を3名程集め細々と活動を始めました。この年（昭和61年）よりクラブを担当することになり、各種大会に出場をさせました。

昭和62年には、2年生の3名が愛好者となり、4月より放課後の練習を開始し県民体では481点、第14回東北総体では個人で530点、団体では1128点をマーク出来るようになり、後期生徒総会において同好会として認められました。

昭和63年には、同好会員が34名となり、東北大会出場を目標に活動を始めました。その結果、第6回東北高等学校選手権大会（山形県鶴岡市）では個人の部に出場し『第7位』、県民体育大会でも個人で612点を取得出来るようになりました。

第15回東北総合体育大会（国体東北予選会）が福島県で開催され少年男子個人では味噌作宏昭（電気科3年）が『第3位』男子団体も『第3位』と健闘し初入賞を果たしました。

10月には第30回全日本アーチェリー選手権大会が滝沢村産業文化センター芝生広場を会場に開催され、岩手県の第1代表として味噌作宏昭（3年）が出場しました。ダブルラウンドで2342点を記録し『第39位』でしたが、岩手県新記録を更新し健闘をしました。

アーチェリー専門部の発足と東北大会優勝まで

平成元年には全国高体連アーチェリー専門部等の指導により岩手県高体連に35番目の専門部としてアーチェリー専門部が発足し、高校の大会は高体連主催となりました。

第7回東北高校選手権大会は宮城県秋保スポーツセンターで開催され、男子団体に初出場しました。

平成2年の第8回東北高等学校選手権大会は岩手県滝沢村で総合運動公園陸上競技場を会場に開催され、男子団体で『第3位』、男子個人では熊谷俊博（3年）が『第6位』と初入賞し健闘いたしました。

第17回東北総合体育大会は山形県鶴岡市で開催され、男子団体戦『第2位』、男子個人で熊谷俊博（3年）が『第3位』・築田睦（3年）が『第6位』に入賞し、第45回国民体育大会秋季大会（とびうめ国体）アーチェリー競技に初出場しました。会場は福岡県北九州市北門司高等学校校庭の特設会場で開催され、猛暑と横風の悪条件ながら初出場で第24位と健闘致しました。

平成3年の第9回東北高等学校選手権大会は、青森県十和田市陸上競技場において開催され、「東北の雄」の青森県勢が追いつがる戦いを引き離し、岩手県高校新記録で男子団体『初優勝』個人では井場俊樹（2年）が『第3位』古館薫（3年）も『第4位』と善戦し、今まで青森県内の高校を廻っていた優勝旗が、県境の奥中山峠を越え優勝旗を手にすることができました。

第24回全国高等学校選手権大会は山形県鶴岡市で開催され、男子個人の部に高橋利也（3年）が初出場いたしました。

8月には岩手県体育協会よりスポーツ強化指定校に指定を受け、後期生徒総会においては同好会より部に昇格し、合わせて女子チームの育成も行いました。

第10回全国高等学校選抜大会には井場俊樹（3年）が初出場いたしました。

女子チームの大会参加とアーチェリー場竣工まで

平成4年にはアーチェリー場建設についての機運が高まりPTA・教育振興会・同窓会の席上において、具体的な提案がなされ建設の基礎ができあがりました。

第5回県高校春季大会に女子団体が初出場し『第2位』、第44回岩手県高等学校総合体育大会にも、女子団体が初出場し『第2位』と健闘致しました。

第10回東北高等学校選手権大会は福島県三春町で開催され、男女そろって団体戦に出場致しました。

第25回全国高等学校選手権大会は香川県において開催され、岩手県の男子団体として初出場いたしました。

第19回東北総合体育大会は岩手県滝沢村産業文化センターで開催され、少年男子団体と少年女子団体（混成）に出場いたしました。

第11回全国高等学校選抜大会は静岡県で開催され、岩手県代表選手として男子は味噌作昭彦（2年）、女子は小笠原ひろ美（2年）がそろって出場いたしました。

平成5年3月念願のアーチェリー場（幅10m長さ90m）が完成し県高体連、工事関係者、学校関係者が参列し盛大に竣工式をとりおこなわれました。

平成5年度の活動は5月の盛岡市民体育大会をかわきりに、第11回東北高校選手権大会は山形県鶴岡市で開催され、男子団体・女子個人に出場しました。

8月に開催された全国高校総体のアーチェリー競技は今年度より正式種目競技となり、栃木県馬頭町的那珂川河川敷特設会場で開催され、男子団体に出場いたしましたが、初期の目的を達することができず、予選通過なりませんでした。

第20回東北総合体育大会の最終県予選を兼ねた県民体育大会は盛岡市日本たばこ盛岡工場特設会場で開催され少年男子4名・少年女子1名が県代表となり、福島県三春町で開催された大会に出場いたしました。

東北地区のアーチェリー競技のレベルは年々向上しており、50・30mラウンド競技においては男子は630点以上、女子は615点以上で常に安定した得点を記録できる選手の育成が望まれた大会でした。

平成6年度の高校総体には2年ぶりに女子団体が出場しました。第12回東北高校選手権大会は福島国体アーチェリー競技のリハーサル大会となり、三春町で開催され男女そろって出場しました。

8月に開催された全国高校総体のアーチェリー競技は平成12年国民体育大会開催予定地、富山県宇奈月町河川敷特設会場で開催され、男子団体が出場いたしましたが、初期の目的を達することができず予選通過なりませんでした。

第21回東北総合体育大会の最終県予選を兼ねた県民体育大会は盛岡市太田スポーツセンターで開催され、少年男子4名が県代表となり、宮城県七ヶ浜町で開催された大会に出場いたしました。

岩手インターハイにむけて

平成7年度は岩手県高等学校体育連盟より強化指定校（男子）となり、春季合宿において外部コーチに引き指導を受けました。

春季大会は盛岡市で開催され、レベルの高い大会となりました。県高校総体は今年度からシングルラウンドに移行しての初めての大会となり、女子の部は3校入り交じっての混戦となり、『第3位』で男女優勝の夢を果たすことが出来ませんでした。

全国高校総体は広島市で開催され、男子は岩手県を代表し出場しましたが、全国の壁は厚く予選突破はなりませんでした。

県民体育大会は宮古市で開催され男女ともに団体に出場し、男子『優勝』、女子は『第2位』の成績となり又しても夢はかないませんでした。女子個人で佐々木いずみ（2年）熊谷薫（2年）が健闘し第50回国民体育大会（福島国体）の出場権得ました。本校の永い歴史のなかで女子生徒が国民体育大会秋季大会に出場したことは、今後のクラブ活動の活発化につながって行くことを感じた大会でした。



岩手県高体連 韓国遠征より

岩手県高体連の選手強化事業としてアーチェリー専門部海外遠征が実施され、本校からは男子3名女子2名の選手と顧問2名が選抜され、一週間韓国京畿道龍仁郡京畿体育高校に遠征し競技力の強化を計りました。

第14回全国高等学校選抜大会の出場権を競う第8回県高校新人大会が太田スポーツセ

ンターで開催され男子団体『優勝』、女子団体『第3位』となりました。個人の部では男女そろって優勝し、3年ぶり2回目の男女出場権の切符を手にししました。選抜大会は滋賀県長浜市の県営長浜ドームで開催され、共に健闘しましたが、全国の壁は厚く今後の課題としてのこりました。

平成8年度も引き続き県高体連の強化指定校になり、一層の活躍が期待され、インターハイには男子団体と女子個人で佐々木いずみ（3年）が出場しました。男子団体は惜しくも決勝ラウンドに進出は出来ませんでした。男子個人で廣田道博（2年）が予選を通過し健闘した。

第23回東北総合体育大会は山形県鶴岡市で開催され女子個人で佐々木いずみ（3年）が『第6位』に入賞、男子団体も『第3位』と健闘した。

これまで色々な大会に参加させていただきましたが、その度毎に各学校の監督の先生方には大変参考になるご指導を戴いた事に感謝しております。

平成11年には岩手インターハイが開催されます。全国の強豪チームを迎え今まで以上の力を発揮すべく毎日練習しておりますが、まだまだ全国に通用するまでには、課題が山積しております。多くのチームの胸を借り研鑽して行きたいと思えます。

岩手インターハイのアーチェリー競技会場は詩人宮澤賢治や歌人石川啄木が、こよなく愛した岩手の秀峰「岩手山」の麓、国立公園十和田八幡平の入り口「松尾村」を会場に開催されることが決定しております。2年後の全国大会でお会い出来る事を約束し学校を紹介させて頂きました。

アーチェリー競技の運動学

高柳 富士丸

生年月日：昭和28年11月30日
昭和53年：愛知医科大学医学部医学科卒業
平成1年：医学博士学位取得
愛知医科大学整形外科学講座講師
平成7年：愛知医科大学運動療育センター講師
専門領域：スポーツ整形外科
運動能力の開発、体力強化
資格：日本整形外科学会認定医
日本整形外科学会認定スポーツ医
日本体育協会スポーツドクター
弓歴：昭和47年（1972）～現在まで25年

1.はじめに

アーチェリーを知ってから、これまで自分がシューティングラインに立ち、的を見つめる度に感じてきたものは“意図した標的への的の中は自分の射技を歴史的事実、自然科学的な事実の積み重ねから評価しない限り、偶然の的中の繰り返しではないのか？”という何かしら自分のしていることに対する後悔の念というか、後味の悪さでした。教えられたままに、弓を引き矢を射ることについての法と理に従い、それを遵守してきたつもりでした。『何故、自分がそのようにしなければならないのか？』未熟な自分には理解できないままに、実行して、それなりの成果に歩みを止めてしまっていました。

あるものに近づきすぎると、その大局を捉えることができなくなります。今、それが運動学の学徒の端くれに身を置いたことで、“矢を的中させる”ということについて何かが見えだしてきました。弓と矢についての法と理を科学的に解きあかしたいというのが今の自分の胸の内です。

弓と矢と的を使う競技では的中が勝敗を決定します。定められたルールの中で如何に高得点を得るかということが至上の目的になります。そもそも一つの武器として考え出された弓と矢は、使い勝手が良く、命中率が高く、標的に最大限のダメージを与えるために工夫されてきたものです。またそれを使う側の人間についてもその標的に向かい、最大限の能力を発揮するために技術を磨き、射程距離をのばすためにより強い弓を引くことができるように筋骨を鍛え、それと同時によりよい弓と矢に適した素材を探索し続けてきました。一射たりとも無駄にしない、言い換えれば一矢外せば自分の生命さえ保証されかねない環境のなかで弓と矢は変遷されてきました。そして、生活の手段、精神のよりどころとしての弓と矢は姿を変えてきましたが現代も多くの志あるものによって引き継がれているのです。

この機会に、本稿ではアーチェリー競技の技術的な法と理について、自然科学的なヒントをまじえて自分なりに述べてみたいと思います。諸氏のご批判をいただければ幸甚に存じます。

2.意思と行動

人が目的をもった行動を起こそうとする場合には先ず大脳で大まかな行動の体系が組み立てられ、運動の開始、継続、調整、終了などに必要な情報が脳の多くの部位から過去の経験をもとにして集められます。そして、それらから新たな合理的な行動体系が組み立てられ、最終的に脳から目的に応じた筋へ収縮、弛緩の指令が電氣的インパルスとして脊髄、末梢神経を経て伝わり、運動に必要な筋を作動させます。これらの神経内を伝わる信号は運動中に筋、靭帯、関節包などから脳へ向かう信号によっても調節されています。複雑で微調整が必要とされる運動の場合にはこれらの信号のやりとりが短時間に繰り返し行われます。このことによって運動学習が生じ、やがて運動の制御が自動的に行われるようになってきます。練習 (practice) という同じ動作を繰り返し行うこと、つまり運動学習を何度も行うことによって得られた習熟効果は、何かの事情により練習を暫く中止するようなことが起きてても行動の巧みさが失われない状況を脳内につくりだします。このような場合に大脳で使用される重要な役割を持つ情報の一つに運動感覚というものがあります。これは動作する時に“使用される筋とその筋の収縮のさせかたの情報”と言ったほうが分かりやすいかもしれません。この運動感覚を正確に学習し、記憶しておくことがアーチェリー競技には特に大切です。弓を射ることを繰り返すことで弓を射ることは上手になってゆきます。経験の回数や量が行動の質を変えて、より合理的な、円滑な行動をつくり出します。それではこれらのことについて運動学的な考察をしてみましょう。

3.運動による人体機能変化

運動を行う上で、私たちの身体には色々なことが起きてきます。これは人間が生命の維持のために持つことになった“母なる自然の原理”といわれる生物学的特性です。運動を行い、その運動能力を高めるためにはこの原理に従うことが必要になります。この原理に誰も逆らうことはできないのです。その原理にはそれぞれが関連をもつ8つの原理があります。

3-1-1.個別性の原理

これは人によって遺伝的素質が異なることをあらわす原理です。私達の身体は運動することにより皆同じ種類の反応、適応をしめしますが、その“反応の割合と程度”はそれぞれ人により異なっています。これは、反応、適応するための遺伝的情報が人により異なっているためなのです。地球上で生きるためには私たちは同じ種類の反応をもたなければならぬわけですがその反応の割合と、程度にはある範囲が存在することになります。運動学習の効果発現に速い人と遅い人がいても当然のことなのです。また、ある人に効果のある方法が他の人にも同じ効果を示すこととは限らないのです。若い人、初心者には先を急ぐあまりの無理、無駄な練習をしないように特にこのことを理解していただきたいと思います。

3-1-2.代償の原理

手のひらのマメは皮膚に加えられた摩擦刺激に対してそれを身体にとって有害なものとしないように適応してつくられます。また、筋肉は加わる外力に対応して身体の機能を適応させるため太くなります。人の身体は精神も含めて全て“ストレスに対応して代償を行う”からなのです。種の遺伝子には生物が生き残るための情報がふくまれているのです。運動や毎日の生活もストレスの一つとさせていただくと解りやすいと思います。

3-1-3.過負荷の原理

代償の原理と関連しますが、現在加わっている以上の外界からの刺激に対する身体・精神の機能を得るためには現在受けているストレスに比べてほんの少し強いストレス(過負荷)に暴露される必要であるということです。いつまでも同じストレスを受けていたのでは適応が生じ、反応が鈍くなりそれ以上のストレスに対する適応はできなくなってしまいます。この時の過負荷の程度が重要です。小さくは身体に反応してくれませんが、あまりにも大きければ後で述べるようにストレスに適応できずに憔悴してしまうこととなります。

3-1-4.特異的適応の原理

これは加えられるストレスの種類によりそれに適した適応反応が特別な割合、程度で生じるということです。例えば、陸上競技選手の身体を観察してみましょう。長距離走選手と短距離走選手では身体つきが全くことなっています。長距離走と短距離走では必要とされる体力の要素が異なるため筋・骨格・心肺機能にそれぞれ特徴ある適応反応が生じてくるのです。この適応反応はストレスに暴露される時間が経つにつれて弱まります。過負荷の原理に従い適度にストレスを増してゆくことが必要になります。

3-1-5.使用・廃用の原理

これは英語で“Use It Or Lose It.”と語呂あわせで言われる原理です。これまでの原理に従い適度なストレスが負荷されていれば身体や精神はこれらに適応しより強いストレスに対しても犠牲を払うことなく適応する能力を獲得してゆきます。しかし、ストレスを負荷する事を中止してしまう(使用をやめてしまう)と適応する能力は低下し、ストレス適応以前の状況に戻ってしまうこととなります。そして、それに要する時間は適応するために必要とした時間よりかなり短いものなのです。これはトレーニング効果の“可逆性の原理”としてもいわれています。特にこの傾向は筋力で著しいのですが幸いなことに前述した運動感覚は失われるのが遅く、また回復にもそれほど時間をかけずに行えます。よい例を自転車走行にみることができます。これは子供の頃身につけた運動感覚の残存によるものです。高得点を得たことのある射手は長いブランクの後でもやっぱりよく当たるものです。

3-1-6.機能的特異性の原理

これは運動の内容、機能にたいする神経・筋の適応の特殊性をあらわします。“特定の運動を長期間実行することでその運動に適応した合理的な筋の使い方、技術の獲得が行われる”と言った方が分かり易いかもしれません。短距離走でより速く走ることを習熟するためにジョギングや縄跳びで身体を刺激しても最大限の効果を得ることはできないでしょう。水泳の選手がより速く泳ぐために陸上でトレーニングを行うのは泳ぐための筋力、心肺能力を高めるためであって泳ぐことそのものの技術、能力を高めているわけではないのです。

3-1-7.汎適応症候群

人体にストレスが加わった場合に適応反応にともない発生する変化は3段階に分けられます。第一段階は警報期で、新たなストレスが加わった時点で生じ始める反応の時期です。これはこれまでの原理では過負荷の時期に一致します。第二段階は抵抗期で、ストレスに対して適応反応が起きつつある時期にあたります。ちょうど代償の原理、特異的適応の原理、使用・廃用の原理が生じている時期になります。この時期はトレーニングに最適の時期にあたります。第三期は消耗期で、ストレスに対しての適応の限界点に

まで到達した時期で身体・精神ともに虚脱した状態に陥り、憔悴しきって時には生命に危険がおよぶこともあります。過労死もこれに当てはまります。強度の低いストレスによるダメージならば毎日の食事と休養で回復できますが、強度の高いストレスには何日にもおよぶ休養が必要になります。

3-1-8.調和の原理

ストレスに適応して我々の身体には様々な変化が生じてきます。そしてそれは筋や靭帯などといった組織の変化とともにそれらをコントロールする神経系にも生じてきます。神経系の機能変化を筋肥大などのように形の変化として直接観察することはできませんが技術的な巧みさやタイミングの良さなどとして見ることができます。ある動作の筋力が増していくことはその動作の技術的な巧みさ（スキル）が筋力の増加に比例して上達していることをあらわします。特異的適応の原理をうまく働かせることで（調和させることで）筋力に適応した技術が培われて行くこととなります。

〈閑話休題〉 身体の機能を高めるために重要なことはこれらの原理を理解し、必要に応じた原理に従いトレーニング（体力を高めるのはエクササイズ、技術を高めるのはプラクティス）を行うことです。

4-1-1.動作と骨格、筋、神経

骨格は骨の連結により形作られ、姿勢を保持し運動を円滑に行うためのフレームとしての役割を果たしています。そしてそれぞれの骨は運動の軸となり、その骨の両端にある関節は運動の方向を変換する回転の軸となります。また、筋肉（正しくは筋）の両端を付着させて直線的な筋収縮力を回転運動に変換して伝達しています。

筋肉は脳から末梢へ伝達される指令により収縮力を発揮しますが、その収縮には中途半端な収縮はなく100%の収縮か全く収縮しないかのどちらかしかありません。筋は筋細胞の集団でいくつかごとに一つの神経細胞から収縮するための指令を受けています。筋肉が大きくなるほどこの神経細胞の数は多くなり、一個の神経細胞が支配する筋細胞の数も多くなります。その結果、同時に多くの筋細胞を収縮させることが可能になり発揮される筋力は大きくなります。細やかな収縮を行う筋肉では一個の神経細胞が支配する筋細胞の数が少なくなるので微妙な動きができますが、筋細胞の収縮時期にばらつきが発生するために発生する筋力は小さくなります。例を握力についてあげれば、卵をつぶさないように握った時と握力計を思いっきり握ったときの筋収縮では収縮の指令を出している神経細胞の数にちがいがあり、その結果発揮される筋力が大きく変わってきます。使用される筋を構成する筋細胞の数%の参加による筋力と、100%に近い筋細胞数の参加による筋力のちがいがいいということになります。そしてこの筋力発揮の調節をしているのが脳、脊髄などを含む中枢神経系です。運動の巧さ（スキル）はこの神経・筋からなるシステムを目的にあわせて調和させ、運動を円滑に遂行し、そのパターンを記憶することで培われます。

アーチェリーで使われる筋力の発揮の形式には、関節を固定するために筋の長さを変えずに収縮する形式と関節を動かすために筋の長さを変化させながら収縮する二つの形式がみられます。主に前者は押し手側で使われ、引き手側では後者が使われます。運動における動きの円滑さという点からこの二つの運動を比較すれば、筋の長さを変化させながら収縮することの方が拮抗する筋の関係から筋細胞の活動を中枢神経がコントロールし易いため、遥かになめらかな運動ができます。エイミングのフェーズに入ってから弓を押し続け、引き続けてクリッカーを落としリリースするコンティニューアスドロー

がクリッカーの落ちる直前で一旦動作を止め、サイトピンが的に落ち着くのを待つて再び動作を開始しクリッカーを落とす方法よりも安定した射が行えるのはこのためです。その情報源として運動感覚、特に筋の活動をコントロールする筋感覚は非常に重要なものになってきます。

4-1-2.筋感覚

筋感覚は四つの感覚の機能に分けられます。その情報源はサイトピンなど視覚によるものではなく筋、腱、靭帯などから発生するそれらに張力が加わった場合の情報です。

1) 外部からの動きを感じる知覚

これは外部から力を身体に加えられた場合に生じた身体の動きを感じる機能です。アーチェリーで言えばエイミング中に横風で弓を持つ腕が押されることを感じることにあてはまります。

2) 自発的な動きを感じる知覚

自らの意思により筋を収縮させた場合に生じる位置変化を感じる機能です。“肘をあげて”とか、“返して”といった指示に従った動作を行った時の位置変化を感じることに当てはまります。

3) 立体的な位置を感じる知覚

立体空間における手足の位置を認識する機能です。シューティング・ライン上でスタンスを決め、的に向かって弓を持つ腕を何処に位置させているかという時に使われる知覚です。初めて弓を射る場合には情報が全くありませんから最適な位置を決定できませんが経験を積むことで的中を得るための理想的な位置を認識できるようになります。

4) 張力を感じる知覚

自らの意思で筋を収縮させた場合に筋の発生している力（張力）の大きさを感じる知覚です。これはフルドロー中にどの筋に力が入っているかということを感じたり、目で見たりせずに感じている場合などがあてはまります。

これらの筋、腱、靭帯、関節などからの情報をもとに中枢神経では運動行動に最も適した筋へ収縮、弛緩の指令を発することになります。そしてその指令は時間、空間の変化とともに筋、腱、靭帯、関節などから逐次変化する情報を受け、微調整をおこない、余分な時間とエネルギーを消費しない運動行動を遂行させるのです。弓を引くときに何処の筋を、何キロぐらいの力で収縮させてなどと考えることはまずありません。最初に弓を手にして矢をつがえ放つという行動をした時から運動感覚の学習が始まり、その運動の実行に必要な情報が次回からの運動を円滑に行うための情報として記憶されていきます。しかし、結果が意図したものではないような場合にはその情報は放棄され記憶されにくくなります。これは我々にアーチェリー競技を始める時の重要なことを教えてくれます。的中率を高め、高得点を記録するためには弓を手にした第1日目からの内容が最も重要であるということです。指導者の導入の技術の優劣で教えられる側の競技者の将来が大きく変化してくるということになります。科学的な理論と情報もなく自己で技術を習得することは的中に対する思考錯誤の時間が超大となるばかりか、的中に必要としない不合理な、言い換えれば、的に外す要因ばかりが運動感覚として強く記憶され易くなり、偶然により射が行われたとしてもそれを有利な情報として記憶しにくい状況を作りだしてしまいます。あれこれ失中の原因を追求していることは“的中させる技

術”を忘れる環境を作り出していることになりかねません。イメージトレーニングでよく言われる、“外れた矢のことは忘れろ、いい射だけイメージしろ”“ネガティブに考えるな、常にポジティブに考えろ”というのはこれを端的ににあらわしています。“的中させるために今何をすべきか”と意図し行動を組み立てることが運動感覚を高める重要なポイントになってきます。

運動感覚を習得するためには実際に弓を引き、矢を射る時に身体から得られる情報を記憶し学習しなければなりません。このように記述として伝達するためには著者と読者の間で用語や空間的認識の方法についての統一がどうしても必要になってきます。難しくなりますが、ここで弓を引き、放つ動作に関係する人体の構造や動きについて学習していただきたいと思います。

4-1-3.スタンスと骨格、筋力

これをお読みになってみえる方々はこれまでの多くの出版物によって人体の構造についての情報を得ておられるのではないのでしょうか。しかし、その機能については一般的な運動についてのものが大半で、弓を引き矢を射る動作については僅かしかありません。ここでは、弓を引き矢を射る動作にかかわる下肢、脊柱と上肢の機能について、射技を中心にして説明します。

人は、下肢のみで躯幹を支えることで上肢を体重支持以外の目的で、広い可動範囲に使用することができるようになりました。上肢と下肢を連結するのは骨盤を含めた脊柱で、上肢と下肢はお互いが脊柱をリンクとして動作を円滑におこなうために作用しあっています。このことは歩いたり走ったりする場合の歩みと腕振りなど日常生活のなかで多く見ることができます。このことはシューティングライン上でのスタンスに重要な意味をもたらします。左右の下肢を結ぶ線と矢すじ（弓からの的を結ぶ矢の理想的飛翔軌跡）とのつくる位置関係が躯幹の捻れ、左右の上肢の位置を決定するからです。骨格の位置関係が決定されるとその状況における運動に参加する関節の運動方向、使用される筋、その筋力の強さなどは絶対的に決定されてしまいます。姿勢によってし易い動作、し難い動作があるのはそのためです。しばしばスタンスについてスクエア、オープン、オブリーク、クローズどれが最も良いスタンスかということが議論されますが、弓を引き矢を射る場合には上肢が円滑に機能する、人体の構築上の制限範囲であればスタンスはどのようなスタンスであっても前述の理由から構わないこととなります。ですから、スタンスを決定するためには先に円滑に弓を引き矢を射ることができる上肢の位置関係を決定する事が必要です。

では、円滑に弓を引き矢を射ることができる上肢の骨格の位置とはどのようなものでしょうか。

4-1-4.弓手のグリップ、前腕の回旋

ニュートン力学において物体にある方向からある一つの力が作用した場合、物体が移動しようとする方向は最も力の損失の少ない方向であり、これは同時に発生する摩擦など他の力（第二、第三の力）の影響を受けたものになります。合力の方向に動くということです。このことから弓を握る腕について考えてみます。弓を引き分ける時の力の方向を示す線は弓の長軸の中心と弦を結ぶ線になります。しかし、人間は弓と弦の間に入って弓を引くことはできないので、その線の右か左かどちらか側から引くこととなります。これにより矢の飛翔する方向と弓を引き分ける力の方向に差が発生し、これが矢の命中率を下げる原因の一つとなります。ではどのように弓を支えればよいのでしょうか。

手のひらから弓のグリップに伝わる力の作用点を一つだけ、方向を一定にしてやる必要があります。面で支えるのではなく点で支える必要があります。その点は前腕から手関節を結ぶ線上にある、橈骨の関節面内にあります。この関節面は一円玉一個半ぐらいの面をもっています。前腕の返し方により橈骨は前腕の内側または外側へ回旋して位置を変えますから、弓のグリップを支えるラインはこの点を中心に回転したものとなります。実際には弓を支えた時に前腕から手を頭側と真横から眺めた場合にこの中心とグリップのピボットポイントが一致していることが重要です。上押し、下押しなどグリップの形がいろいろありますが、支えている力のポイントはピボットポイントで、橈骨の関節面から肩関節を結んだ線上にあることにはちがいはありません（図1）。このポイントで支えれば弓に加わる力は一つとなり、弓を引き支えているときに手関節がぐらついたり、リリースの前後で支える力の方向が変化したりすることはなくなります。弓を垂直における範囲で、前腕から手関節、手をおる程度回旋させて最も安定した角度を見つけることが大切です。実際にはその前に弓手の肩の位置、角度を決定しておく必要がありますが、

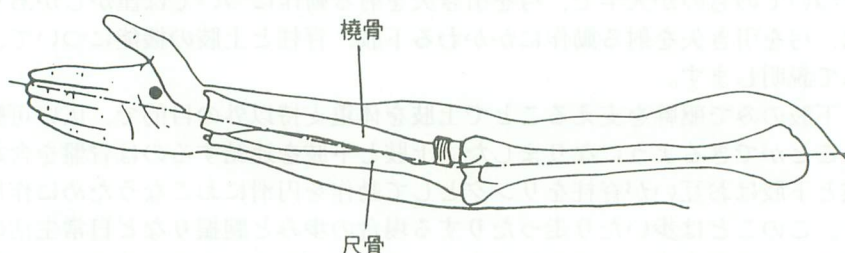


図 1
弓手の機能軸とピボットポイントを支える点

肘の返しでピボットポイントを支える点は移動する。そのため上下移動は矢の上下移動に、左右の移動は矢の左右移動につながる。一射毎に変化させないことが重要であり、一定した軸の配置に注意する。

4-1-5.弓手

肩甲骨、上腕骨からできる肩関節は始めの頃でも説明しましたが、人体の関節の中で最も動く範囲が広い関節です。そのために他の関節と比べてかなり安定性（ある位置で固定すること）の悪い関節となってしまいました。これは、動く範囲を拡大するために骨の形態の変化が起きてしまったためです。四足歩行から二足歩行への変化により胸郭は前後に長い形から左右に長い扁平な形に変わりました。それに続いて肩甲骨は体の側面から背面へ位置を変えました。しかし、腕を使用する方向は前後のままだったために、肩関節と上腕骨に捻れが生じてしまいました。ですから、安定性を確保するために骨以外の靭帯や筋を働かせなくてはならなくなってしまったのです。関節包には特殊な走行をする靭帯があり関節の脱臼を予防しています。また、任意の位置で関節を固定するためには必ず筋の力を借りなければなりません。このことが弓手側の肘の返し、肩の位置に重要な意味を持ってきます。

肘の返しについてこれまでの多くの書物にはその理由として“固定力が増す”ためと記載されてはいましたが、その明確な解剖学的、運動学的機序について説明したものは

ありませんでした。関節の安定性は骨の形態による関節の安定性、靭帯による関節の安定性、筋による関節の安定性、この三つの安定性が調和していなければ達成されません。弓手の肩関節が最も安定して固定された位置が理想とされる位置ということになります。人の骨の形態、靭帯の走行と緊張、筋力には個人差がありますから肩の高さ、肘を返す程度はある範囲のなかでということになります。筋力が強ければ肩が上がっても、肘を返さなくても良いということではありません。肩関節の安定性を増す順序は骨の位置、靭帯の走行、最後に筋力です。筋力発揮に不都合な骨の位置、靭帯の走行では筋力は巧く発揮できないのです。

関節の安定性を得る靭帯の走行は肩甲骨と上腕骨の位置で決定されますから、先ず始めにこの両者の間での関節の位置を決定することが重要です。肩関節で、骨の位置関係が安定した位置は真横に腕をあげた時に肘を曲げると丁度、口角に指が着く位置です。それでは靭帯での安定性はどうか？弓を引く時は身体の前面に弓の力があります。それに抵抗し弓を引き分け、ある位置で固定するためには背中側の筋を使わなければなりません。その時、発揮される筋力をできるだけ効率よく作用させるためには肩甲骨と上腕骨の間の肩関節を固定して一つの梃子の軸にすることです。肩甲骨と上腕骨をつなぐ靭帯のすべてに捻れが生じていない腕の位置は丁度頭の後ろで手を組み合わせて寝た状態です。この位置だと肩の関節は一番緩い状態です。反対に、肩甲骨と上腕骨を強く引きつけ一つの軸として作用させるには本来の性質では縮まない靭帯を短縮させればよいわけです。そのためには、上腕骨を肩甲骨にたいして捻れた位置にすることです。もともと捻れた位置にあります。弓をホールドした位置では背中側、肩関節の後ろ側を緊張させれば目的は達せられるわけです。そのためには左腕が弓手の場合、上腕骨を時計回りの方向に回旋します（内旋、図2）。弓を垂直に保つことが絶対的条件

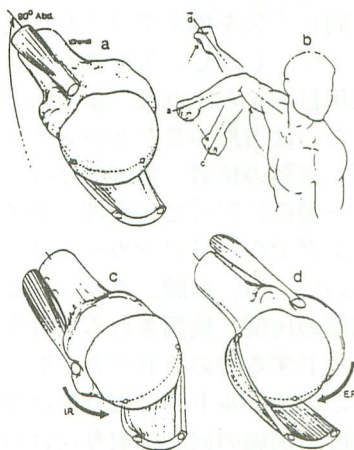


図 2 肩関節の捻れによる肩関節の固定
a:中間位 c:内旋位 d:外旋位
Abd.;外転（側方挙上90度）
IR;内旋（内側へ捻る）
ER;外旋（外側へ捻る）

cのように内側へ捻ると肩関節の後方の靭帯が緊張する。dのように外側へ捻れば肩関節の前方の靭帯が緊張する。その結果、肩甲骨と上腕骨は固定され反対側へは屈曲し難くなる。

であるとすれば手のひらの向き、前腕の捻り（回内、回外）、上腕骨の捻り（内旋、外旋）の程度は決定されたものになります。ただ、弓の物質重量や引き重量が支える筋の筋力以上の場合には肩関節を固定する筋以外の不必要な筋の筋力を弓の支えに使うことになり、客観的には肩が上がったり肘が逆に返ったりということがおきてきます。いわゆる猿腕の傾向のあるひとは肘に弦があたらないために肘を返すわけですが、そのことにより弓手の肩は低く、強く固定されていることになります。

弓を支え、弓の力に負けず弓を押し開くためには手関節、肘関節、肩関節を動かさず弓を的側へ押しなければなりません。そのためには、肩甲骨を胸郭に沿っての的側へ押し

出す動きが必要です。そのとき主として働く筋（主動筋）が前鋸筋で、この筋の筋力は肩甲骨が脊柱から離れた位置にある時に有効に発揮されます。これは鎖骨が肩甲骨の位置を決定しているからです。以上の理由から、弓手側の肩はより低く、よりの側に位置させることの重要性が理解できます。“まっすぐ押す”という理の中には複雑な機構が含まれていたのです。

4-1-6.引き手

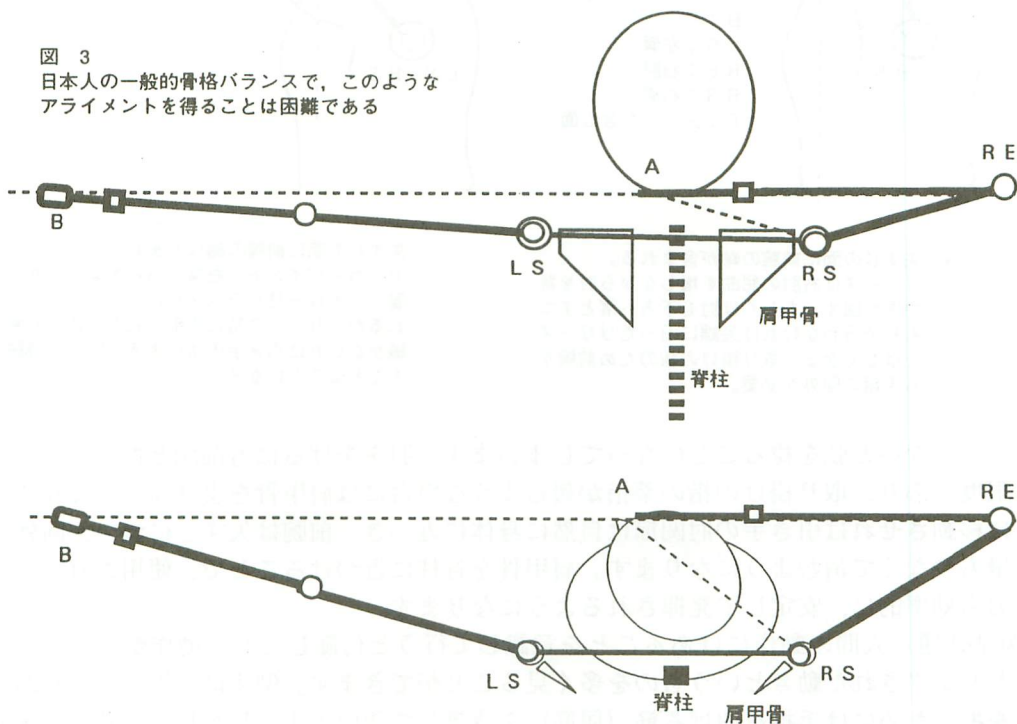
引き手側の肩関節、肘関節、手関節は弓手側の状況とは全く異なります。支えるのではなく引くという動作で、加重を支持するための関節、梃子の軸としての安定性よりも筋力の強さと、力の方向の安定性が必要とされます。ここでも限られた筋の筋力を効率よく使用するための梃子の原理の応用を見ることができ、引く動作に使用される筋は肩甲骨、上腕骨、前腕骨、手指の骨の位置によって決められてきます。この位置を決定づける絶対的条件は弦の張られる方向（弓の軸）とアンカーポイントの位置、フックの形態です。動作の最終的な位置（終点）が決定されればその動作の始点、道程は決定されてきます。例えば、和弓と洋弓の射のちがいは精神面をのぞけば弓の特性のちがいにつながっているのではないのでしょうか。弓が種々の環境におかれ、それなりの機能を持つがために射手にある条件を要求したと考えることができます。グリップの形状と手の内、矢を置く位置、取り掛け、構えなどすべてがその弓で狙った所へ矢を命中させやすくするためにその弓の特性から考え出されたものです。そのなかでとりわけ目立つのは矢の位置とフルドロー時の取り掛けの指の位置でしょう。これが引き手の肩から取り掛けの指の関節の位置、角度を大きく変え、使用される筋をも選択させています。

アーチェリーでは弓手が左腕の場合、矢は弓に向かって左側に置かれます。そのため矢をつがえた弦は矢を摘んで引くか、弦の右側から指を掛けて引かなくてはならなくなります。和弓のように矢が弓の右側に置かれれば同じく矢を摘んで引くか、弦の左側から指をとり掛けて行わなくてはならなかったでしょう。しかし、矢を摘んで引く場合には引くことのできる弓の強さは限られ、弓矢の使用目的からすれば、より強い弓が引けるように弦に指を掛けて引く方法が取り入れられたのは当然のことといえます。そのような取り掛けをすると、引き手の肩関節、肘関節、前腕の位置、角度などはそれなりに機能的に合理的な状態に置かれます。アーチェリー競技に限っていえば、サイトシューティングでのロウアンカー、ベアボウシューティングでのハイアンカー、コンパウンドボウでのリリースエイドの使用においては弓手の肩、肘、前腕、グリップにはほとんど変化は生じません。一方、引き手の位置、各関節の角度、使用される筋は大きく異なってきます。これは、一定の引き尺を引き、ホールドする時のそれぞれの取り掛けの指の位置が異なっていることに起因するものです。このホールド時の取り掛けの指の位置が引き手側の肩甲骨、肩関節、肘関節の位置と角度、前腕の回旋、取り掛けの指と弦の配置などを決定する要因となります。

弓を引ききった、フルドロー時のそれぞれの位置の変化を考えてみましょう。便宜上、肩幅、上腕骨、前腕骨、手指の長さは20歳の日本人男性の平均値とします。肩の高さで弓を支え、引き分ける場合にもっとも効率の良い引き手の配置（肢位）は掌を足側へ向け、第2指の付け根の親指側を口角から耳の直下を結んだ延長線上にへ着けた位置になります。この延長線上の位置に手を置くことで前腕骨から手指の軸は矢すじ上に一致し、肩甲骨、上腕骨、前腕骨、手指のそれぞれの関節の機能軸は解剖学的な制約のなかで無理なく連鎖し、引き手の骨格と筋により形成される押し開く力の軸と弓の力の軸

の方向が逆でも同一線上に存在するため、力がつりあっている状態になります。主観的には最も楽に弓を引いている状態で、これは引き手の前腕の捻れをのぞけばハイアンカーの引き手の肢位になります。この位置で矢をつがえた弦を引き留めるには矢筈を摘むか、親指で弦を掛けるか、リリースエイドを使用するかということになります。第2指から4指を使用して弦を引く場合には指の配列と弦の方向が異なるため、前腕から手指を身体の外側へ捻って（回外して）指の配列の軸を弦の軸方向に一致させる必要があります。ところが、この回外の動作は肘関節から手までを最大限に使用しても解剖学的理由から90度までしかできません。また、右肩から口角と耳を結ぶ線までの高さのちがいによって上腕骨の前方挙上の角度が変化するため、必要とされる回外の程度もそれにつれて変化します。この高さが大きい人ほど回外する角度がより多く必要となります。この事実は、ローアンカーの場合にさらに複雑な意味をもってきます。平均的な日本人の骨格で、支えやすい位置に弓を構え、的側へ顔向けをしてローアンカーポイントとして顎の先端、中央に弦が着くよう取り掛けの指を位置させて弓を引き分けた時、引き手の前腕が身体の正面、頭側、側面から見て矢筋すじに沿うことはまずありません（図3）。上腕骨はアンカーポイントが的側に近づき、高さも肩のラインに近づ

図 3
日本人の一般的骨格バランスで、このようなアライメントを得ることは困難である



いたため背中方向への開きが減り、それともなつて肘は身体の前面に出て、矢すじからさらに離れています。弦の捻れを防ぐため前腕から手指を意識的に回外する必要はなくなりましたが、引くという動作においてはこの状態では先ほどの理由により最大の力学的効率、安定性は得られてはいません。それでは、“矢すじが通り、前腕から手指をリラックスさせ、高い力学的効率、安定性を得た構えを得ることは特定のサイズの骨格を持った人の場合にのみ可能である”ということでしょうか？

4-1-7.肘と肩の位置

確かに、骨格がある位置で固定されていて、関節のみで運動が行われとするならば、残念ながらそう言わざるをえません。しかし、肘の位置と肩関節の土台となる肩甲骨の位置を変えることでこれらの問題のいくらかは解決されるのです。引き手の肘の位置を幾分か挙げることで前方に差し出した上腕骨の先にある肘関節は矢すじを含んだ垂直な面に近づいてきます（図4）。しかし、この状況では前腕から手指にかけての回外をよく

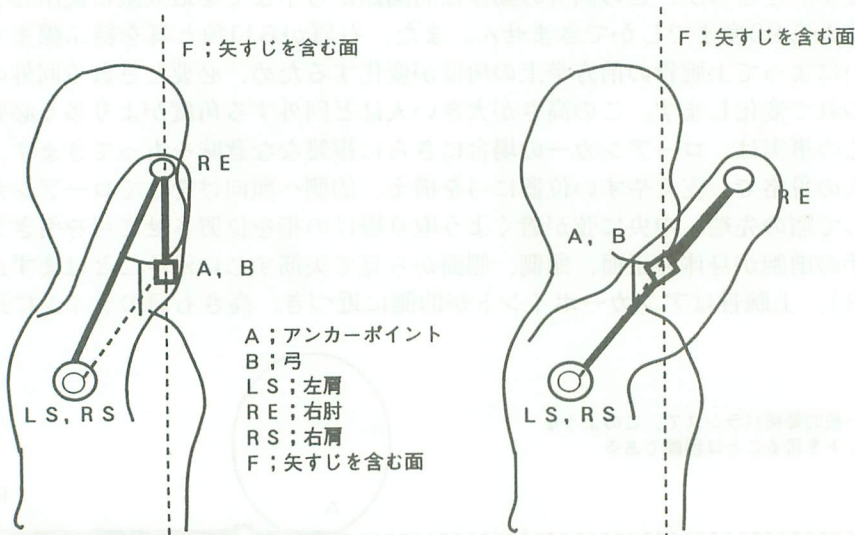


図 4 矢すじの面に前腕の軸が含まれる。
リリースは右肘の屈曲を増しながら肘を背中側へ回す、もしくは肘を下方へ落とすつもりで行わなければ矢線に沿ったリリースではなくなる。取り掛けの指のため前腕から手指の回外が必要。

矢すじの面に前腕の軸は含まれない。
アンカーポイント、右肩、右肘を同一平面に置くことは一見バランスがとれたように見られるが、リリース時に引き手の肘を締め込む意識がなければ引き手の指は大きく膨らむ奇跡をたどることになる。

強くしないと弦を捻ることになってしまいます。肘を挙げるにも前腕と指と弦の関係に限度があり、取り掛けの指の薬指が緩むような場合には肩甲骨をより高く、より背中側に移動させれば引き手の肘関節は自然に身体に近づき、前腕は矢すじに沿い、回外する量も少なくて済むようになります。肩甲骨を脊柱に近づけることで、使用される筋の筋力も効率的に、安定して発揮されるようになります。

〈閑話休題〉人間の動作にはあることを意識して行うと付随してある動作が起きるといったリンクされた動きというものも多く見ることができます。例えば、思いっきりある物を握るためには手指を曲げる筋（屈筋）を意識して使います。しかし、同時に肘関節と手首の関節（手関節）を固定しなければ屈筋の筋力は最大限に発揮されません。この関節の固定を私たちは無意識のうちに行っています。稿の最初にもふれましたが多く運動競技にみられる法、理という概念はこの人間の動きのリンクと無意識という動きの中にある「母なる自然の法則」なのかも知れません。

それでは、効率的、安定した射を行うためにはどのようにして引き手の肩を移動させればよいのでしょうか。引く動作は押し支える動作と異なり、骨格と弓の力の軸の配置

からして骨で荷重そのものを支えることはできません。骨が伝えるのは骨格の連結により変換された筋力の合力ということになります。その合力を支えるためには最初に肩甲骨を躯体に対して最適位置に固定することが必要です。肩甲骨は骨では鎖骨のみで脊柱と連結されていて、鎖骨は脊柱に対する肩甲骨の動きの範囲を制限する、いわばクレーンのブームの役目をしています。どんなに肩甲骨が動いてもそれは鎖骨のブームの先端にぶら下がった状態で、鎖骨のコントロールから逃れることはできないのです。とすれば、肩甲骨の位置を決定するブームを動かすにはどのようにすれば良いのでしょうか。鎖骨のもう一方、脊柱とつながる側の位置を変えることでこの問題は解決されないでしょうか。先述の項で『スタンスを決定するためには先に円滑に弓を引き矢を射ることが出来る上肢の位置関係を決定する事が必要』と説明しました。効率的、安定した射が行える肩甲骨の位置があり、その位置に肩甲骨を位置させるためのスタンスを決定するという事です。これは弓手の肩の位置にもいえることです。スタンスの足踏みの位置により、脊柱方向が変わり、そして肩甲骨の位置が決定されるのです。

矢すじに対して骨盤が平行におかれるスクエアスタンスでは脊柱の捻れは発生せず、肩甲骨は弓手側も引き手側も脊柱から等しい距離に位置します。その程度は脊柱より矢を離して構えれば、離れるほど肩甲骨も脊柱より離れ身体の両外側へ出てきます。このような場合、骨格の長さのバランスから引き手の肘が矢すじから大きくそれやすくなります。典型的なスクエアスタンス、十字射型で良く知られた選手は、あえて矢すじを通すために肩甲骨をを脊柱側へ引きつけ、さらにアンカーポイントをサイドアンカーにすることなく引き手側へ移動させるために頭を約半分引き手側に位置させています(図5)。

的側へ骨盤を向けたオープンスタンスでは脊柱を骨盤に対して引き手側へ(時計回り)捻ることになり、弓手側の肩甲骨はより身体の外側へ位置し、引き手側の肩甲骨はより

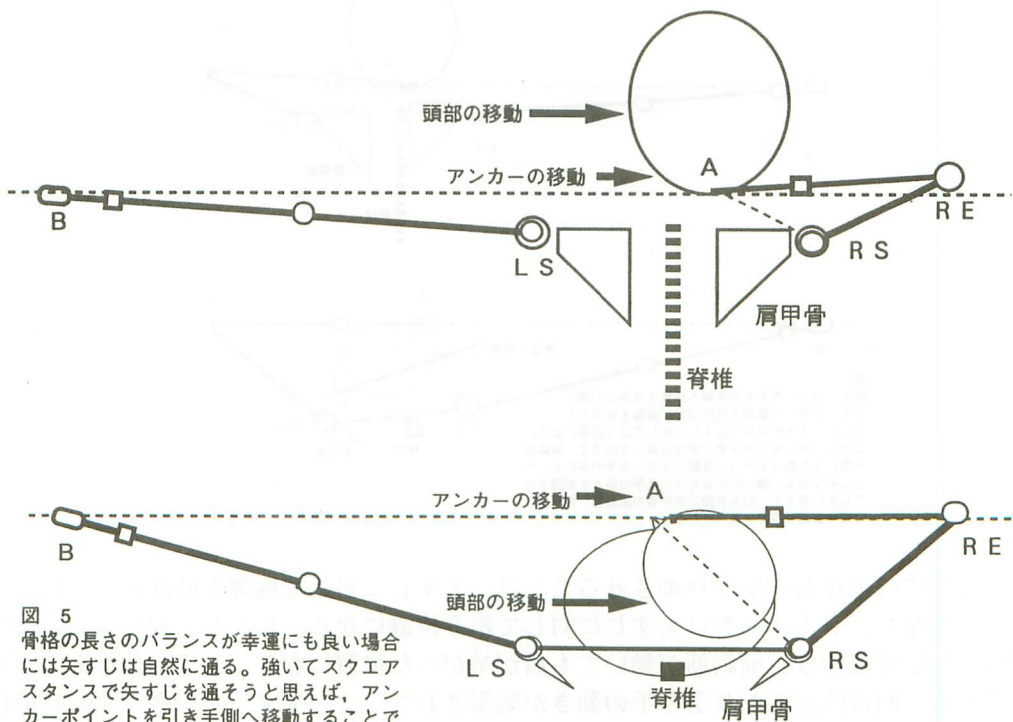


図 5
骨格の長さのバランスが幸運にも良い場合には矢すじは自然に通る。強いてスクエアスタンスで矢すじを通そうと思えば、アンカーポイントを引き手側へ移動することで可能である。頭部をずらすか、サイドアンカーにするかということになる。

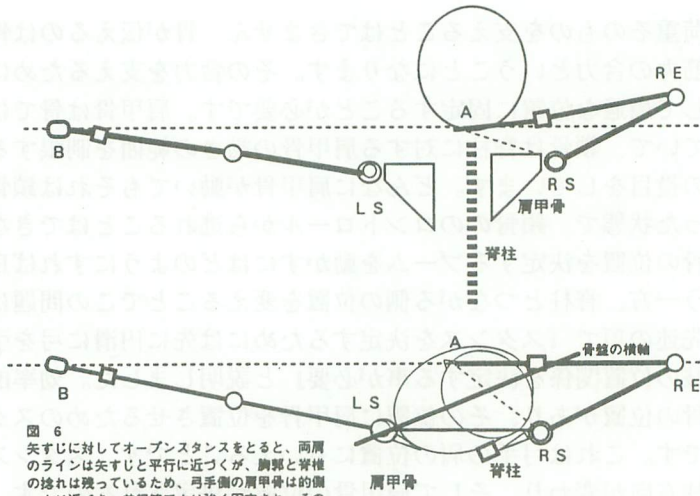


図 6
矢すじに対してオープスタンスをとると、両肩のラインは矢すじと平行に近づくが、胸郭と脊椎の捻れは残っているため、弓手側の肩甲骨は的側へより近づき、前鋸筋でより強く固定され、そのため弓手の肩は下がる。引き手側の肩甲骨はより脊椎に近づくこととなるが肩甲骨を寄せる強い筋力が要求される。引き手の前腕は矢すじに沿うが、リリース後の移動は少ない。

図6

矢すじに対してオープスタンスをとると、両肩のラインは矢すじと平行に近づくが、胸郭と脊椎の捻れは残っているため、弓手側の肩甲骨は的側へより近づき、前鋸筋でより強く固定され、そのため弓手の肩は下がる。引き手側の肩甲骨はより脊椎に近づくこととなるが肩甲骨を寄せる強い筋力が要求される。引き手の前腕は矢すじに沿うが、リリース後の移動は少ない。

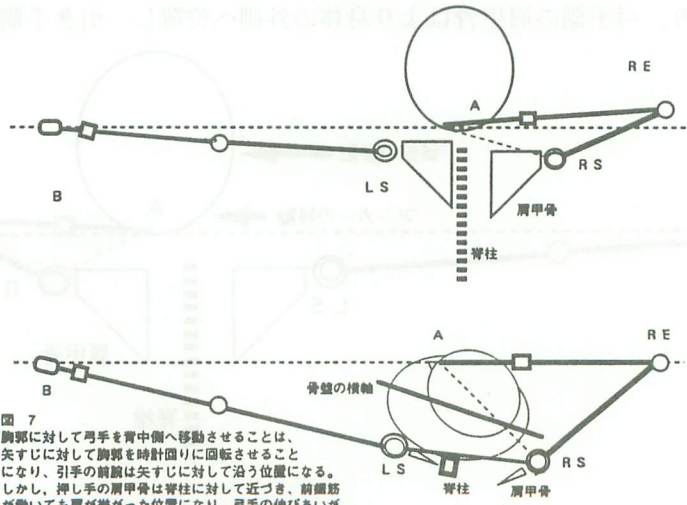


図 7
胸郭に対して弓手を背中側へ移動させることは、矢すじに対して胸郭を時計回りに回転させることになり、引手の前腕は矢すじに対して沿う位置になる。しかし、押し手の肩甲骨は脊柱に対して近づき、前鋸筋が働いても肩が挙がった位置になり、弓手の伸びあいがしにくくなる。胸に弦があたり引き手の動きが制限されてしまいやすく、引き手側の肩甲骨の固定筋、右肩後方の筋の強靱な筋力が要求される。

図7

胸郭に対して弓手を背中側へ移動させることは、矢すじに対して胸郭を時計回りに回転させることになり、引手の前腕は矢すじに対して沿う位置になる。しかし、押し手の肩甲骨は脊柱に対して近づき、前鋸筋が働いても肩が挙がった位置になり、弓手の伸びあいがしにくくなる。胸に弦があたり引き手の動きが制限されてしまいやすく、引き手側の肩甲骨の固定筋、右肩後方の筋の強靱な筋力が要求される。

脊柱に近づいて位置するようになります（図6）。矢すじに対して的側とは逆の方向に骨盤を向けるクローズスタンスでは脊柱は的側に捻られ、弓手側の肩甲骨は脊柱に近づき、引き手側の肩甲骨は身体の外側へ位置するようになります（図7）。弓手の項でふれましたが鎖骨の躯体側は胸郭の前方に位置するため肩甲骨が外側にあるほど肩甲骨を低い位置に置くことができます。脊柱に近く肩甲骨がある場合には肋骨が障壁となってクレーンのブームが下がる範囲は狭くなり、肩甲骨を低い位置に持ってゆくことが困難になります。肩甲骨を下げる働きをする前鋸筋の筋力がいくら強くても肩を下げることには限界があるのです。

4-1-8.筋の働きとリリース

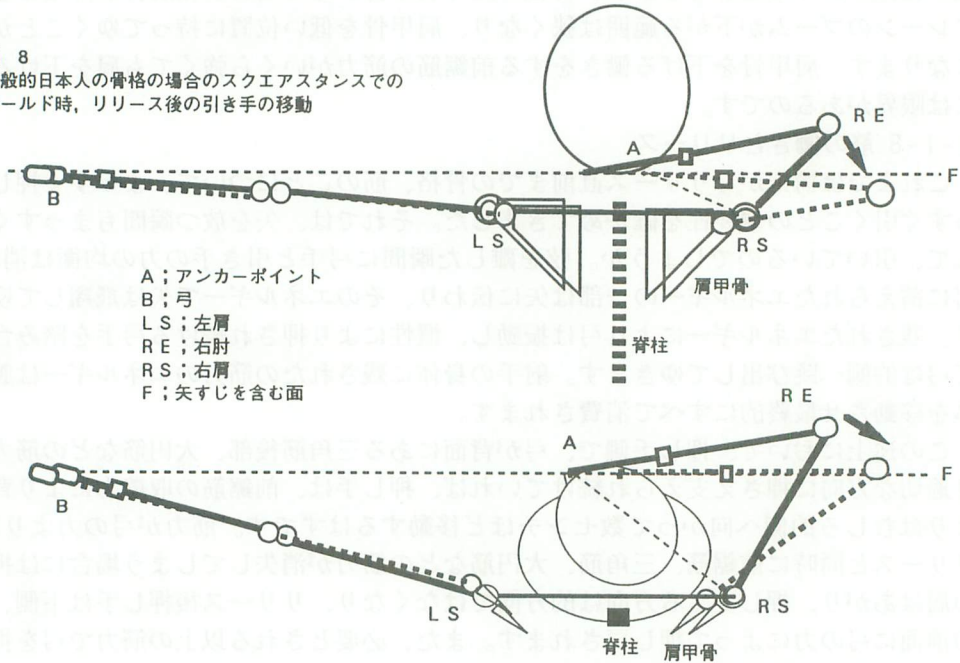
これまでは構えからリリース直前までの骨格、筋のことについて、まっすぐ押し、まっすぐ引くことの重要性を確かめてきました。それでは、矢を放つ瞬間もまっすぐに押して、引いているのでしょうか。弦を離れた瞬間に弓手と引き手の力の均衡は消失し、弓に蓄えられたエネルギーの一部は矢に伝わり、そのエネルギーで矢は飛翔してゆきまです。残されたエネルギーにより弓は振動し、慣性により押し続けられる弓手を踏み台として弓は的側へ跳び出してゆきます。射手の身体に残された筋力のエネルギーは腕や身体を移動させ最終的にすべて消費されます。

この途上において、押し手側で、弓が背面にある三角筋後部、大円筋などの筋力により適切な方向に押さえ支えられ続けていれば、押し手は、前鋸筋の収縮力により背中側よりはむしろ的側へ向かって数センチほど移動するはずですが、筋力が弓の力より弱く、リリースと同時に前鋸筋、三角筋、大円筋などの筋力が消失してしまう場合には押し手の肩はあがり、押し支える方向は的方向ではなくなり、リリース後押し手は下側、身体の前側に弓の力によって押し戻されます。また、必要とされる以上の筋力で弓を押し支えていた場合には押し手は三角筋、大円筋などの筋力によりの的側よりも背中側へ大きく開かれ、振り出した状況になります。

引き手側の腕ではどうでしょうか。押し手側とは異なり唯一の負荷である弓の力が突然に消失したため、筋はそれまでの収縮を瞬時に留めることができず、しばらくは収縮を続けることになります。そのため、肩甲骨はそれを固定していた僧帽筋、菱形筋などの筋力により脊柱側へ近づき、上腕骨は三角筋、大円筋、三頭筋長頭などの筋力により肩関節を中心として背中側へ回転することになります。肘関節は上腕骨の移動にともない後方、背中側へ移動します。これと同時に前腕は肩甲骨と上腕骨を経て前腕骨を結ぶ三頭筋長頭に肘関節を伸展する作用があるため、肘関節を回転の軸として身体の前側へ振り払うような動きを起こします。しかし、この三頭筋長頭による肘関節伸展の作用は矢を身体に位置させ、アンカーポイントに固定するために働いている肘関節の屈曲をおこなう上腕筋と、同じく屈曲と前腕から手指の回外作用をもつ上腕二頭筋の筋力により打ち消されてしまいます。その結果、客観的に取り掛けのゆびは矢すじにそって後方へ真っ直ぐ移動することになります（図8）。リリースが膨らむのは上腕三頭筋長頭の筋力が上腕筋、上腕二頭筋の筋力に勝る場合に見られます。“弓を引く時には引き手の上腕筋、上腕二頭筋を働かせてはいけない”という意見を何かの書物で目にしたことがあります。実際自分もフルドロの時に同僚に腕を触って確認してもらいそのように努力した覚えがあります。これは、上腕筋、上腕二頭筋を働かせて弓を引くという意識が生じると肩甲骨が脊柱から離れた位置に固定され、全く矢すじが通らなくなってしまうためにこれを戒める法なのです。しかし、肘関節を上腕三頭筋長頭の筋力に対抗して屈

曲位に保つことは必須であり、取り掛けの指の緩みを防ぐためにも上腕二頭筋の働きは必要だと思います。ただ、引くという動作に使うのではなく肘を締める動作に働かせるということです。

図 8
一般的日本人の骨格の場合のスクエアスタンスでの
ホールド時、リリース後の引き手の移動



4-1-9. フォロースルー

フォロースルーの形、でき具合がこれまで述べてきたスタンスや骨格の配置、使用された筋、筋力などが適切であったかどうかを示します。スタンスの時点からフォロースルーが完璧に行えるように努めて行動することで適切な骨格の配置が行え、筋を効率よく働かせることができます。的面を確認しなくてもフォロースルーのフォームをみれば射技の上手、下手はおおよその判断ができ、優れたフォロースルーのフォームには総てに通じるものを感じさせます。フォロースルーはこれまでの事柄の復唱であり、多くの事を語る必要はないでしょう。

5. おわりに

不肖浅学の私が、弓を手にしてからこれまで、試行錯誤しながら日記の片隅に残したメモを清書するかたちで稿にしました。現代の若い方々の弓心をかき立てる足しになりましたでしょうか。微力であっても志を同じくする方々のお役にたてばとおもひ筆を進めました。いつか皆さんと射場で一矢を互いに交え、弓を論じ合える日の訪れることを期待します。

基礎トレーニングの必要性について

広島県立総合体育館 スポーツ振興課

指導係 戸田 敦 大

〈はじめに〉

広島県立総合体育館 健康体力相談室では、競技スポーツ選手の検査測定を実施しています。これまでに20種目以上の中学・高校のクラブから実業団、プロ選手の検査測定を行ってきました。私はその業務に携わりながらアーチェリー選手として数多くの大会にも出場し、試合やトレーニングについて考えてきました。ここでは、そのようなことを踏まえて、高校アーチェリー選手の基礎トレーニングについて述べてみたいと思います。

スポーツに必要な要素として「体力」「技術」「精神力」があります。アーチェリー競技において高校三年間に結果を出そうとすれば、「技術」要素が高いがゆえに「実射練習」が中心になると思います。実射練習の目的とすることは基本動作・技術の習得にあります。ここで考える必要があるのは、果たしてその選手に高い「技術」と「精神力」を習得するに足りうるだけの基礎体力があるかという事です。パフォーマンスを向上とするには、十分な基礎体力が必要であることは承知のとおりです。しかし、現在の日本で正しく効果的なトレーニングを実践している高校生はいるのでしょうか。私の主観で、また少数のデータではありますがこれを推察し、なぜトレーニングが必要なのか考えてみたいと思います。

1 広島県国体強化指定選手の体力特性

広島県国体強化指定選手（高校生 男女各7名）検査測定に基づく体力特性の傾向は以下の通りです。

(1)傾向

- ア 柔軟性（立位体前屈）に欠ける。
- イ 筋力（脚筋力、握力、背筋力）要素は、高校の他の種目に比べて全体的に低い。
- ウ 全身持久力（俗にスタミナ）の指標となる最大酸素接種量がやや低い。
- エ 身体特性として体格はやや細身、体脂肪率は標準。

(2)傾向発生の推定

- ア 競技特性が静的スポーツで、ダイナミックに体を動かす動作が少ない。
- イ 筋力トレーニングの頻度が他の種目に比べ少ない。
- ウ 長距離を長時間走るといった全身持久力のトレーニングの頻度が少ない。
- エ ウエイト・トレーニングや激しい運動を行っておらず、接種するエネルギーもそれなりにしか食べていないので体格が良くならない。全身持久力向上のための有酸素運動をしっかりと行っていないので体脂肪も燃焼してなく標準的である。

以上のようなことから運動能力はあまり高くない選手が多い傾向にあると考えられます。「アーチェリー選択の動機（だから選ぶ）」または「アーチェリー経験の結果（こうなった）」のどちらかとは言えませんが、いずれにしても「アーチェリー

はスポーツだ」という認識をもって、基礎体力トレーニングを効果的に実施していないため運動能力が改善されていないと考えられます。

2 パフォーマンス向上のためのトレーニング

トレーニングの効果として期待できること・・・パフォーマンスの向上です。そのためには以下のようなことが必要です。

- (1)神経系統の改善
- (2)フォームの改善
- (3)フォーム（姿勢）の安定性の向上
- (4)集中力、精神力の向上
- (5)スポーツ障害の予防

(1)神経系統の改善

春に入部してきた生徒のほとんどが、夏休には先輩達とあまり変わらないポンド数の弓で練習できるのはなぜなのでしょう。最初15ポンドの弓でも辛かった生徒が弓を引く筋肉が付いたからでしょうか？基本のドロイングやフォームが出来るようになったからでしょうか？ただ単に慣れたからでしょうか？おそらく答えは半分は当たりだと思えます。というのも生理学的に15ポンドの弓から30ポンド後半の弓が引けるようになるのは筋量の増加だけで考えると半年ぐらいでは不可能です。これは筋量だけの話です。これに対して「来腕のドロイングやフォームが出来るようになる」や「慣れる」とは神経系の発達によってなされています。

つまり「短時間で弓が引けるようになる」ということは、もともと持っていた筋肉に動けという命令をスムーズに伝えるようになり、筋の動員数が増えることによってこれまで出来なかった動作が出来るようになるということです。もちろん筋量の増加も関係していますが使えるようになるということが重要なポイントです。

正しいトレーニングを実施することによって神経系統の改善が期待できます。中でもウエイト・トレーニングは鍛えたいと思う筋肉部位に集中して実施することからその筋と脳の間で神経伝達が良くなります。例えばドロイングの時に「背中を使って引く」と言いますが、背中を意識するのはとても困難です。各部位のウエイト・トレーニングを正しく実施することで意識して各部位を動かせるようになり、イメージと感覚の差が小さくなり技術の向上も期待できます。

(2)フォームの改善

トレーニングによって改善された神経系によってフォームの改善が期待できます。また、関節可動域をいっぱい使うウエイト・トレーニングによって柔軟性が増します。狭い範囲での関節可動域での筋力発揮だったのが、広い範囲で発揮できるようになります。これにより例えば、引き手の肘がうまく入るようになったり、リリースの抜ける方向が改善されることが期待できます。

(3)フォーム（姿勢）の安定性の向上

筋力の向上にともない弓のポンド数に対する筋力の余裕が生まれます。弓を引くのに直接使う筋力とその周りの筋力が向上すればフォームの安定性が増します。ま

た下半身を鍛えることによってフォーム全体の安定感が増します。

(4)集中力、精神力の向上

重たい重量でのウエイト・トレーニングを実施する場合、かなりの集中力が必要となります。集中できていない状態でのトレーニングは危険です。

体力の重要な要素として全身持久力（最大酸素摂取量）があります。例えばマラソンのように長い時間、長い距離を走るのに必要な要素です。一般的にはスタミナとよく表現されます。アーチェリーに必要な集中力も疲れてきては持続できません。ましてや大会の規模が大きくなれば日程も長くなるので疲労回復の能力と関係のある全身持久力の（最大酸素摂取量）のある方が有利です。「疲れにくい」とは試合時の集中力の持続にも関係しますが、練習を人より多くしても疲れないのでトレーニング実施、技術習得にも有利になります。トレーニング方法としてはランニングなどを「ややきつい」と思うぐらいの心拍数で20分以上続けて行えば向上します。単調で面白味の少ないトレーニングでも「強くなるためにやっている」という意識づけがしっかりできていれば、続けることをによって、根性論ではありませんが精神面の強化にもつながります。

(5)スポーツ障害の予防

アーチェリーにおけるスポーツ障害は増加の傾向にあると思われれます。弓具の高速化など、要因としてはいろいろなことが考えられますが、そのひとつとして、自分の弓を扱いこなすための筋力が十分でないことが考えられます。フォームを矯正したり、新入生を指導している場面をちょっと想像してみてください。ポンド数が低い場合はまだいいのですが、弓の負荷がかかっている状態で「もっと押し手を返せ」や「もっと肘を高く」など身体に無理な動きをさせた場合、肘や肩はどうなるのでしょうか？指導面だけでなく正しいフォームを習得しようとする場合、選手自身でこれに近いことを行っています。ではこれがいけないことなのかというところではなく、正しいフォームを習得するためには必要な段階でもあります。しかし少なくとも関節に負担をかけていることには違いはありません。

肩関節を例にとって考えましょう。人の肩関節は複雑で、もともと壊れやすい構造になっています。肩関節は5つの関節の総称であって、17種類の筋肉の連携動作により複雑な動きを可能としています。肩関節の一つの肩甲上腕関節は、「ボール・アンド・ソケット」と呼ばれており比較的不安定な形状をしています。そこが正常に機能するためには、「インナー・マッスル（ローテタ・カフ）」と「アウトター・マッスル」のバランスの取れた働きが重要です。ここでいう「インナー・マッスル」とは骨格筋の中でも関節の軟部組織等のすぐ上で、比較的深い位置にある筋肉のことを呼び、さらにその上にかぶさっている筋肉たちを「アウトター・マッスル」と呼びます。中でも「インナー・マッスル」は上腕骨や肩甲骨のひねり動作（内旋・外旋）、つまり「回転動作担当」だと考えてください。これはアーチェリー特有の「肘を返す」という動作に当たります。いくら立派に見える肩（三角筋など）でもその内側にあって見えない「インナー・マッスル」が弱いと肩のスポーツ障害発生危険性が高まります。

現在ではこの「インナー・マッスル（ローテタ・カフ）」のトレーニング方法は

様々な方法で紹介され、また競技種目によっては当たり前のようにトレーニングされているのが現状です。せっかくやった練習やトレーニングで骨格筋のバランスを崩し肩を痛めては損をしますし、予防という意味からも「インナー・マッスル」のトレーニングは必要だと考えます。(「手塚一志の肩バイブル」(株)ベースボールマガジン社より一部抜粋)

〈おわりに〉

効果的なトレーニング方法とは

一番重要で大切なことなのですが、残念ながらここでは紹介することは出来ません。というよりも「これが絶対に正しい」というトレーニングは確立されていないからです。体力要素にはいろいろあって、そのバランスも重要ですし要素にも個人差がかなりあります。すべての人にぴったり合うトレーニングなど存在せず、個人にあったものが必要です。腕立てや腹筋のようによく知られている種目にも、たくさんの方があり、フォームを少し変えるだけで効いてくる部位が変わったりします。ある程度のトレーニング方法を紹介したいのですが、実際はその方法や注意すべき点などが多くて十分なことが文章や絵だけでは紹介できませんし、誤解を生んでは危険です。

ただ言えることは「アーチェリーとトレーニングとは違うもの」という考えは間違えて、「トレーニング」と「技術」は「= (イコール)」という認識をもつことが大切だということです。その認識がしっかりとできた選手で、高度な技術と体力があつてこそ、初めて高度なメンタルトレーニングの効果が期待できます。クラブ活動へのトレーニングの導入をおすすめします。

全高ア専ホームページ開設について

全国高体連アーチェリー専門部でインターネット上に、ホームページを開設いたしました。内容は下記のようなものを予定しております。この新しい手段を用い、会報とは違った、全国の高校生アーチャーや顧問の先生方との双方向のコミュニケーションを目指したいと思っております。この会報が皆様のお手元に届く頃までには何とかと思ひ奮闘いたしております。

1,内容 (予定)

◎全高ア連の紹介

◎全国大会の成績速報

・インターハイ

・全国高校選抜大会

◎質問コーナー

技術・ルール・競技方法などについての質問・疑問をEメールで寄せていただいき、それにお答えします。

◎行事予定・伝達

2,アクセスの仕方

◎URL

<http://www.asahi-net.or.jp/~si7o-sk/>

◎Eメールアドレス

si7o-sk@asahi-net.or.jp

・アクセスする場合は上記のURLを入力してください。

・URLのニョロマーク「~ (チルダ)」はWindowsの場合「shift」+キーボード上段数字キーの「0わ」の2つ右隣の「^へ」で入力できます。Macの場合はキーボード通りです。

・Eメールは上記アドレスですが、ホームページ内のメールボタンを押せば入力する必要はありません。

最初は十分ご期待に添えないかもしれませんが、精一杯頑張りますのでよろしく御支援ください。

総務委員会

World Best Accurate Bow from World Best Ranked Country!

POINT-2000 Carbon

The most exciting recurve bow ever designed.

話題騒然!



マグネシウムハンドル+カーボンリムでこの価格。抜群のコストパフォーマンスです。

セット価格 ¥79,800

単体価格 ハンドル ¥40,000 ブラック、ブルー、シルバー
リム ¥42,000

*価格はすべて税別です。

保証:お買い上げ日より6か月以内は無償修理、または交換。
6か月以降は小売り価格の50%にて交換します。



POINT-2000 HANDLE

Aerodynamic design of Today's high-end concept. Weight and tiller adjustment system. Adapted human oriented hardwood grip.



POINT-2000 CARBON LIMB

High velocity and high stability performance.

米国製ハンドル・リムと共通脱着機構付

長さ	リム	カーボン	ストリングハイト
66	Short	28, 30, 32, 34, 36#	8 3/4
68	Medium	34, 36, 38#	8 3/4

●お求めは、お近くのプロショップ、または弊社に直接ご注文ください。

K PRODUCTS

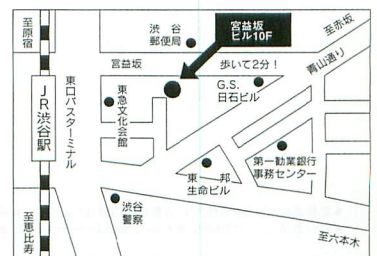
日本バイメタル株式会社

〒146東京都大田区矢口2-30-6 TEL.03-3759-7610 FAX.03-3759-7606

渋谷店

〒156東京都渋谷区渋谷2-19-15宮益坂ビル1001 TEL.&FAX.03-3797-7645

●営業時間/11:00AM~7:30PM ●定休日/日曜日、毎月曜日



Mizuno[®]
THE WORLD OF SPORTS



ドロ잉は、この安定性で決まる。

メンタルコントロールが結果を大きく左右するアーチェリー。

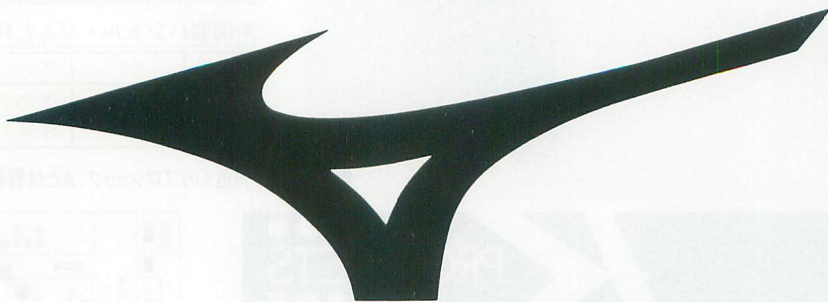
スタンスが安定しなければ、集中力も高まりません。

〈ミズノ〉アーチェリーシューズは、土や芝のグラウンドでも優れたグリップ性と安定性を発揮するソール構造で、確かなドロ잉を生み出します。

〈ミズノ〉アーチェリーシューズ

25KA-1000 ¥10,000 受注生産

●サイズ:22.0~28.0 ●甲:人工皮革(クラーリノエフ) ●カラー:ホワイトにゴールド



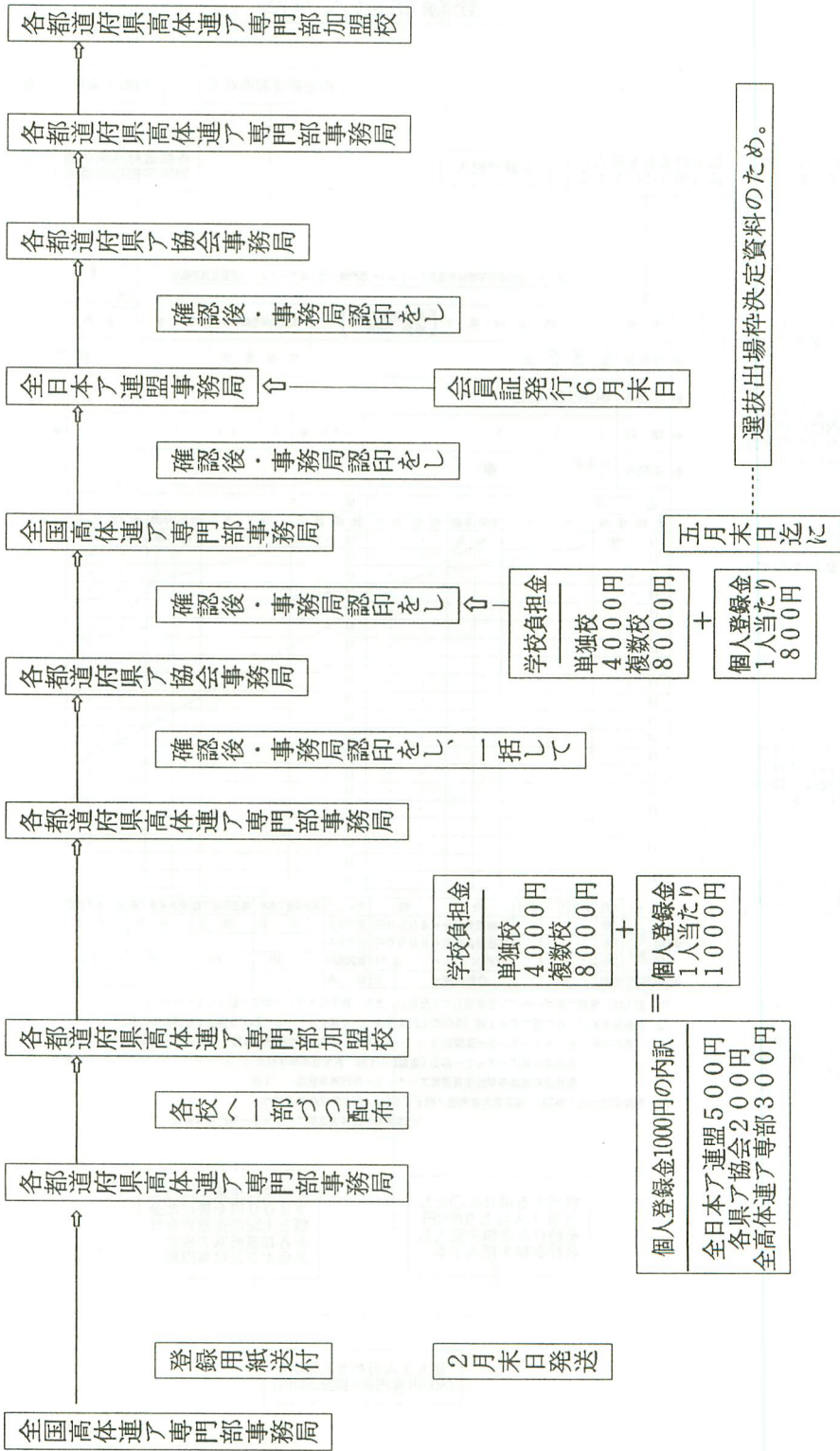
●記載価格は税抜き価格です。消費税相当額はおお客様にご負担いただくこととなります。

●ミズノ製品についてのお問い合わせ・ご相談は——「ミズノお客様相談センター」〒101 東京都千代田区神田小川町3丁目22 TEL. (03) 3233-7110 〒559 大阪市住之江区南港北1-12-35 TEL. (06) 614-8110

スポーツあげたい、
スポーツほしい。
全国共通スポーツ券

全国高等学校体育連盟了専門部・全日本了連盟 登録届用紙の流れについて

平成9年度用



選手権大会 栄光の歩み

(第1～19回：1日制、第20回～：男女別2日制で実施)

回数	男・女	団体の部	個人の部
第1回大会 (68'8.10.大阪府・東大阪グランド)			
男子		浜松興誠高(静岡)1639.	稲川篤郎(浜松興誠高)577.
女子		同志社高(京都)1419.	布浦裕子(同志社高)503.
第2回大会 (69'8.10.静岡県・県営草薙運動場)			
男子		岸和田産業高(大阪)1689.	下向辰法(岸和田産高)573.
女子		同志社高(京都)1470.	布浦裕子(同志社高)529.
第3回大会 (70'8.9.東京都・駒沢第一球技場)			
男子		岸和田産業高(大阪)1606.	伊藤寿彦(岸和田産高)601.
女子		同志社高(京都)1505.	熊谷登美(同志社高)527.
第4回大会 (71'8.1.京都府・府立大グランド)			
男子		浜松工業高(静岡)1622.	亀井孝(同志社高)600.
女子		甲南女子高(兵庫)1493.	井上典子(同志社高)534.
第5回大会 (72'8.4.神奈川県・三ツ沢球技場)			
男子		横浜高(神奈川)1702.	角井和夫(広島工業高)583.
女子		浜松北高(静岡)1601.	辻紀子(甲南女子高)552.
第6回大会 (73'8.5.東京都・駒沢第一球技場)			
男子		愛知高(愛知)1764.	鈴木優(静岡三ヶ日高)621.
女子		同志社女子高(京都)1553.	辻紀子(甲南女子高)558.
第7回大会 (74'8.3.滋賀県・県営彦根総合運動場)			
男子		同志社高(京都)1707.	河内敏雄(同志社高)600.
女子		同志社女子高(京都)1644.	後藤有理子(同志社女高)573.
第8回大会 (75'8.3.愛知県・愛知学院大グランド)			
男子		大阪工業大高(大阪)1753.	梅内秀和(八戸工大第二)646.
女子		同志社高(京都)1586.	小里頼子(札幌啓成高)551.
第9回大会 (76'8.1.北海道・札幌真駒内アイスアリーナ)			
男子		三本木農業高(青森)1810.	市川松治(三本木農高)633.
女子		富士見高(静岡)1686.	佐野敦子(富士見高)592.
第10回大会 (77'7.31.宮城県・秋保森林スポーツ公園)			
男子		慶応義塾高(神奈川)1817.	神野浩(慶応義塾高)627.
女子		浜松商業高(静岡)1724.	松永弘子(富士見高)607.
第11回大会 (78'7.27.青森県・十和田市陸上競技場)			
男子		愛知高(愛知)1785.	山本博(横浜高)639.
女子		三本木農業高(青森)1641.	山内京子(浜松商業高)570.
第12回大会 (79'7.29.広島県・県営総合グランド)			
男子		浜松工業高(静岡)1836.	山本博(横浜高)630.
女子		山陽女子高(広島)1641.	大道理枝(山陽女子高)582.
第13回大会 (80'8.3.滋賀県・秦荘町民スポーツセンター)			
男子		横浜高(神奈川)1925.	山本博(横浜高)670.
女子		千葉英和高(千葉)1739.	大道理枝(山陽女子高)618.
第14回大会 (81'8.2.東京都・駒沢第二球技場)			
男子		名古屋電気高(愛知)1888.	岐部恭史(大阪工大高)640.
女子		大津商業高(滋賀)1794.	名倉裕子(浜松工業高)621.
第15回大会 (82'8.1.群馬県・川場中学校グランド)			
男子		丹南高(福井)1817.	薄井雅美(馬頭高)625.
女子		富士見高(静岡)1682.	平田さゆみ(札幌月寒高)598.

第16回大会 (83' 8.7. 奈良県・三宅健民運動場) 雷雨の為、団体・個人共に63射迄の記録			
男子	馬頭高 (栃木)	1650.	池田辰弥 (慶応義塾高) 571.
女子	大津商業高 (滋賀)	1587.	岩波ひろみ (大津商業高) 543.
第17回大会 (84' 8.5. 鳥取県・東郷湖羽合臨海公園スポーツ広場)			
男子	米子北高 (鳥取)	1904.	松田武文 (米子北高) 643.
女子	札幌啓北商業高 (北海道)	1816.	山本和美 (札幌啓北商高) 620.
第18回大会 (85' 8.11. 山梨県・敷島総合公園運動場)			
男子	米子北高 (鳥取)	1889.	室伏優一郎 (横浜高) 650.
女子	大津商業高 (滋賀)	1789.	児玉晶子 (米子北高) 648.
第19回大会 (86' 7.27. 沖縄県・宜野湾市海浜公園多目的広場)			
男子	横浜高 (神奈川)	1787.	蓮田秋二 (東京学園高) 629.
女子	札幌啓北商業高 (北海道)	1753.	中込恵子 (甲府第一高) 612.
第20回大会 (87' 7.25~26. 京都府・日吉胡麻総合運動広場)			
男子	三本木農業高 (青森)	1876.	鎌田芳彰 (幕別高) 643.
女子	折尾高 (福岡)	1775.	大城春野 (宜野湾高) 611.
第21回大会 (88' 7.26~27. 北海道・旭川市)			
男子	北大津高 (滋賀)	1883.	吉田賢 (甲府第一高) 657.
女子	折尾高 (福岡)	1881.	岩山美保 (折尾高) 635.
第22回大会 (89' 7.26.~27. 福岡県・北九州市)			
男子	柏陵高 (福岡)	1685.	山本敦 (永谷高) 603.
女子	旭川北高 (北海道)	1802.	鈴木知子 (桜丘高) 634.
第23回大会 (90' 7.27.~28. 石川県・柳田村)			
男子	柏陵高 (福岡)	1917.	宮永雅史 (柏陵高) 657.
女子	折尾高 (福岡)	1796.	森本淳子 (同志社高) 626.
第24回大会 (91' 7.27.~28. 山形県・鶴岡市)			
男子	同志社高 (京都)	1813.	藤原悟 (広島工業高) 630.
女子	折尾高 (福岡)	1681.	岡野善恵 (甲南女子高) 578.
第25回大会 (92' 7.26.~28. 香川県・財田・仲南町)			
男子	横浜高校 (神奈川)	1880.	木村正純 (横浜高校) 650.
女子	横浜学園 (神奈川)	1828.	川上祐佳里 (柏陵) 639.
平成5年度 全国高等学校総合体育大会 第26回大会 (93' 8.1~4. 栃木県・馬頭町)			
男子	横浜 (神奈川)	234.	木村正純 (横浜) 656.
女子	大分東明高 (大分)	205.	山岡麗子 (横浜学園) 629.
平成6年度 全国高等学校総合体育大会 第27回大会 (94' 8.6~8. 富山県・宇奈月町)			
男子	柏陵 (福岡)	244.	桜井隼 (東京工業) 654.
女子	甲南女子 (兵庫)	218.	河崎由加里 (山陽女子高) 639.
平成7年度 全国高等学校総合体育大会 第28回大会 (95' 8.2~4. 広島県・広島市)			
男子	愛産大三河 (愛知)	221.	村越永人 (田村高) 669.
女子	山陽女子 (広島)	207.	富島優 (甲南女子高) 643.
平成8年度 全国高等学校総合体育大会 第29回大会 (96' 8.2~5. 山梨県・竜王町)			
男子	大分東 (大分)	222.	山県朝太郎 (富士見) 102.
女子	兔道子 (京都)	218.	大津留由香 (大分東明) 79.

選手権大会記録

[団体の部]

《男子》横	浜高 (神奈川)	1925	山本博 670 (323.347) 白井肇 628 (294.334) 足立朋美 627 (299.328)	・ 第13回大会
《女子》折	尾高 (福岡)	1881	岩山美保 635 (299.336) 坂田美穂子 624 (291.333) 岡部由布 622 (290.332)	・ 第21回大会

[個人の部]

《男子》	ハーフ・R	山本博	670 (323.347)	神奈川・横浜高・第13回大会
	50M	山本博	323	神奈川・横浜高・第13回大会
	30M	山本博	347	神奈川・横浜高・第13回大会
《女子》	ハーフ・R	児玉晶子	648 (310.338)	鳥取・米子北高・第18回大会
	50M	児玉晶子	310	鳥取・米子北高・第18回大会
	30M	富島優	343	兵庫・甲南女子高・第28回大会

選抜大会 栄光の歩み

【男子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	90m 70m 50m 30m	期 日	開 催 地
1	河合徳之	浜松工	1199	246. 309. 306. 338.	'83. 3. 25-27	愛知・森林公園
2	角田信一	馬頭	1154	259. 277. 294. 324.	'84. 3. 25-27	静岡・富士市
3	松田武文	米子北	1131	208. 288. 301. 334.	'85. 3. 25-27	滋賀・秦荘町
4	田中喜美男	横浜	1198	265. 300. 294. 339.	'86. 3. 25-27	福井・芦原町
5	和田和則	馬頭	1174	234. 269. 307. 317.	'87. 3. 25-27	東京・駒沢公園
6	荒金利剛	米子北	1164	237. 282. 318. 327.	'88. 3. 25-27	大阪・久米田高
7	於久直人	北大津	1250	273. 319. 315. 343.	'89. 3. 25-27	神奈川・横浜高
8	赤井雅宏	北大津	1200	252. 307. 306. 335.	'90. 3. 25-27	兵庫・神戸市
9	田中勝美	横浜	1214	277. 321. 291. 322.	'91. 3. 26-28	愛知・愛学院大
10	厚海善栄	田村	1216	259. 316. 307. 334	'92. 3. 25-27	京都・山城総合
11	木村正純	横浜	1232	249. 312. 326. 345	'93. 3. 25-27	静岡・草薙
12	園田孝史	横浜	1282	292. 322. 322. 346	'94. 3. 27-28	滋賀・長浜市
13	松田浩行	柏陵	1288	296. 322. 322. 348	'95. 3. 26-28	滋賀・長浜市
14	高松大輔	三重	1238	264. 309. 323. 342	'96. 3. 26-28	滋賀・長浜市
15	牧山雅文	佐賀巖木	1131	214. 327. 298. 341	'97. 3. 26-28	茨城・波崎町

【女子】

回数	選手名	学校名	TOTAL	70m 60m 50m 30m	期 日	開 催 地
1	上鹿渡由美	北海道清水	1183	285. 303. 270. 325.	'83. 3. 25-27	愛知・森林公園
2	田中志律	千葉英和	1124	257. 268. 274. 325.	'84. 3. 25-27	静岡・富士市
3	藤本正美	大津商業	1195	265. 299. 296. 335.	'85. 3. 25-27	滋賀・秦荘町
4	大城春野	宜野湾	1153	276. 286. 272. 319.	'86. 3. 25-27	福井・芦原町
5	松宮真由美	丹南	1207	283. 299. 306. 319.	'87. 3. 25-27	東京・駒沢公園
6	近藤真弓	信愛学園	1216	287. 312. 292. 325.	'88. 3. 25-27	大阪・久米田高
7	小山美代子	兔道	1237	291. 314. 304. 328.	'89. 3. 25-27	神奈川・横浜高
8	高木祐子	富士見	1177	263. 289. 305. 320.	'90. 3. 25-27	兵庫・神戸市
9	谷口和子	折尾	1214	288. 316. 280. 330.	'91. 3. 26-28	愛知・愛学院大
10	大内愛	山陽女子	1215	294. 304. 293 324	'92. 3. 25-27	京都・山城総合
11	山岡麗子	横浜学園	1235	293. 313. 295 334	'93. 3. 25-27	静岡・草薙
12	今福織江	大分東明	1297	315. 321. 318 343	'94. 3. 27-28	滋賀・長浜市
13	富島優	甲南女子	1271	292. 319. 318. 342	'95. 3. 26-28	滋賀・長浜市
14	田原雅代	岡崎東	1269	306. 319. 307. 337.	'96. 3. 26-28	滋賀・長浜市
15	田口香奈子	東海大二	1208	261. 303. 307. 337.	'97. 3. 26-28	茨城・波崎町

選 抜 大 会 記 録

11回大会以前・15回大会以降（アウトドア）

1997年3月30日現在

【男子の部】

TOTAL	於 久 直 人	1250 (273・319・315・343)	滋 賀・北 大 津・第 7 回大会
90m	田 中 勝 美	277	神奈川・横 浜・第 9 回大会
70m	田 中 勝 美	321	神奈川・横 浜・第 9 回大会
50m	木 村 正 純	326	神奈川・横 浜・第11回大会
30m	木 村 正 純	345	神奈川・横 浜・第11回大会

【女子の部】

TOTAL	小 山 美代子	1237 (291・314・304・328)	京 都・兎 道・第 7 回大会
70m	長 見 みどり	296	広 島・山陽女子・第 7 回大会
60m	池 田 敦 美	316	山 形・天真学園・第 7 回大会
50m	松 宮 真由美	306	福 井・丹 南・第 5 回大会
30m	後 藤 和 美	339	埼 玉・大宮開成・第11回大会

12回大会以降～14回大会（インドア）

【男子の部】

TOTAL	松 田 浩 行	1288 (296・322・322・348)	福 岡・柏 陵・第13回大会
90m	松 田 浩 行	296	福 岡・柏 陵・第13回大会
70m	園 田 孝 史	322	神奈川・横 浜・第12回大会
50m	板 倉 幹 郎	322	神奈川・三浦学園・第12回大会
30m	松 田 浩 行	348	福 岡・柏 陵・第13回大会

【女子の部】

TOTAL	今 福 織 江	1297 (291・314・304・328)	大 分・大分東明・第12回大会
70m	今 福 織 江	315	大 分・大分東明・第12回大会
60m	小 出 美沙都	325	大 分・明 星・第12回大会
50m	今 福 織 江	318	大 分・大分東明・第12回大会
30m	熊 谷 愛	344	福 岡・柏 陵・第12回大会

日 本 高 校 記 録

(F I T A R O U N D)

1996年11月15日現在
全国高体連アーチェリー専門部

(男 子)

種 別	選 手 名	学校名・府県名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会 場 地 名
シングル	大 橋 亨	東京工業高・東京	1 2 8 9 (296 323 320 350)	89年東京都秋季大会	89.10.8	東京・世田谷区
90M	三 浦 一己	野津田高・東京	2 9 9	91年東京新聞杯大会	91.6.2	東京・世田谷区
70M	坂本 隆輝	東海大二高・熊本	3 2 9	93年熊本県公認記録会	93.9.12	熊本・荒尾市
50M	藤原 悟	広島工業高・広島	3 3 0	91年中国地区選手権	91.9.22	広島・千代田町
30M	若杉徳之	柏陵高・福岡	3 5 1	92年福岡県秋季大会	92.9.20	福岡・福岡市
ハーフ	園田隆史	横浜高・神奈川	6 7 1 (323 347)	第49回国体神奈川県予選	94.6.26	神奈川・横浜市
50M	松田浩行	柏陵高・福岡	3 2 7	95年福岡県高校総合体育大会	95.6.3	福岡・福岡市
30M	松田浩行	柏陵高・福岡	3 5 1	95年福岡県国体1次選考会	95.6.18	福岡・北九州市
TEAM	光田 健 西川清一 宮永雅史	柏陵高・福岡	1 9 5 5 663 (321.342) 646 (302.344) 646 (311.335)	90年福岡県高校総合体育大会	90.6.3	福岡・福岡市

(女 子)

種 別	選 手 名	学校名・府県名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会 場 地 名
シングル	大 平 泉美	愛知産大三河・愛知	1 3 0 3	愛知県ターゲット大会	96.6.9	愛知・名古屋市
70M	大 内 愛	山陽女子高・広島	3 1 9	92年広島県夏季大会	92.8.9	広島・瀬野川町
60M	大 平 泉美	愛知産大三河・愛知	3 3 2	愛知県ターゲット大会	96.6.9	愛知・名古屋市
50M	小出美沙都	明星高・大分	3 2 5	大分県アーチェリー協会長杯	96.5.12	米国・オハイオ州
30M	井上鹿代子	富士見高・静岡	3 4 8	89年静岡県総合体育大会	89.6.11	静岡・田方郡
ハーフ	川内沙代子	折尾高・福岡	6 6 7 (321 346)	96年福岡県少年国体選考会	96.4.28	福岡・福岡市
50M	川内沙代子	折尾高・福岡	3 2 1	96年福岡県少年国体選考会	96.4.28	福岡・福岡市
30M	横田 知子	大分東明高・大分	3 4 6	第49回国体大分県二次予選	94.5.14	大分・別府市
TEAM	横田 知子 今福 織江 三浦 洋子	大分東明高・大分	1 9 0 7 646 (307.339) 645 (314.331) 616 (292.324)	94年大分県高校総合体育大会	94.6.4	大分・大分市

〔日本高校最高記録〕

F I T Aダブルラウンド

種 別	選 手 名	学校名・府県名	記 録	大 会 名	樹立年月日	会 場 地 名
男子	村越 永人	田村高・福島	2 5 1 3 (1258 1255)	95年全米選手権大会	95.8.10	米国・オハイオ州
女子	小出美沙都	明星高・大分	2 5 3 9 (1297 1242)	95年全米選手権大会	95.8.10	米国・オハイオ州

日本高校記録 (FITA ROUND)

(参考記録 (室内))

平成9年3月28日現在
全国高体連アーチェリー専門部

(男子)

種別	選手名	学校名・府県名	記録	大会名	樹立年月日	会場地名
TOTAL	松田浩行	柏陵・福岡	1288 (296 322 322 348)	第13回選抜大会	95.3.28	滋賀・長浜
90M	松田浩行	柏陵・福岡	296	第13回選抜大会	95.3.27	滋賀・長浜
70M	園田孝史	横浜・神奈川	322	第12回選抜大会	94.3.27	滋賀・長浜
50M	板倉幹郎	三浦学園・神奈川	322	第12回選抜大会	94.3.28	滋賀・長浜
30M	松田浩行	柏陵・福岡	348	第13回選抜大会	95.3.27	滋賀・長浜

(女子)

種別	選手名	学校名・府県名	記録	大会名	樹立年月日	会場地名
TOTAL	今福織江	大分東明・大分	1297 (314 321 318 343)	第12回選抜大会	94.3.28	滋賀・長浜
70M	今福織江	大分東明・大分	315	第12回選抜大会	94.3.27	滋賀・長浜
60M	小出美沙都	明星・大分	325	第13回選抜大会	95.3.27	滋賀・長浜
50M	今福織江	大分東明・大分	318	第12回選抜大会	94.3.28	滋賀・長浜
30M	熊谷愛	柏陵・福岡	344	第12回選抜大会	94.3.28	滋賀・長浜

F I T A 世界記録・日本記録

1996年11月15日現在

OUTDOOR TARGET ARCHERY
OLYMPIC DIVISION

男子

FITA ROUND 日 本

世 界

FITA ROUND	山本 博 (埼玉)	1338	1995年	KIM,Jung-Rye	KOR	1377	1995年	
90M	山本 博 (日本)	325	1989年	ESHEEV,VLadimir	USSR	330	1990年	
70M	山本 博 (埼玉)	344	1990年	YAMAMOTO,Hiroshi	JPN	344	1990年	
50M	山本 博 (埼玉)	342	1991年	HAN,Seung-Hun	KOR	348	1994年	
30M	松下和幹 (日本)	357	1986年	HAN,Seung-Hun	KOR	360	1994年	
TEAM FITA ROUND	山本 博 於久直人 西川清一	1335 1295 1271	3901 (日本)	1992年	OH,Kyo-Moon LEE,Kyung-Chul KIM,Jea-Rak	KOR	4053	1995年

OLYMPIC ROUND

O.R.MATCH (18)	山本 博 (日本)	166	1994年	CHIKAREV,Vadim	KAZ	175	1994年	
O.R.MATCH (12)	山本 博 (日本)	114	1992年	PARK,Kying-Mo	KOR	119	1993年	
O.R.MATCH TOTAL (72)	松下和幹 (日本)	643	1994年	SHIM,Young-Sung	KOR	678	1993年	
O.R.TEAM MATCH (3×9)	松下和幹 西川定博 山本 博	(日本)	248	1994年	CHUNG,Jae-Hun OH,Kyo-Moon PARK,Kyung-Mo	KOR	259	1994年
O.R.TEAM MATCH TOTAL (3×27)	松下和幹 西川定博 山本 博	(日本)	727	1994年	CHUNG,Jae-Hun OH,Kyo-Moon PARK,Kyung-Mo	KOR	761	1994年

50, 30M ROUND

50,30M ROUND	山本 博 (神奈川)	690	1988年	
50M	山本 博 (神奈川)	336	1988年	
30M	山本 博 (神奈川)	354	1988年	
TEAM TOTAL	山本 博 松下和幹 石鉢利明	680 669 669	2018 (埼玉)	1995年

<日本最高記録>

DOUBLE FITA ROUND

DOUBLE FITA ROUND	松下和幹 (神奈川)	2632	1987年	
90M	松下和幹 (神奈川)	629	1987年	
70M	松下和幹 (神奈川)	664	1987年	
50M	松下和幹 (日本)	669	1987年	
30M	松下和幹 (日本)	707	1990年	
TEAM DOUBLE FITA ROUND	山本 博 松下和幹 古橋照司	2581 2580 2535	7696 (日本)	1988年

女子

FITA ROUND 日本

世界

FITA ROUND	大内 愛	(広島)	1321	1994年	KIM,Jung-Rye	KOR	1377	1995年
70M	大内 愛	(広島)	327	1994年	ALTINKAYNAK	TUR	339	1992年
60M	大内 愛	(広島)	335	1993年	YING,He	CHA	349	1985年
50M	中込 恵子	(日本)	334	1990年	PARK,Myung-Hwa	KOR	341	1995年
30M	中川さつき	(広島)	350	1992年	EDENS,Joanne	GBR	357	1990年
TEAM FITA ROUND	平末 千秋 中込 恵子 中川さつき	1293 1278 1258	3829 (日本)	1990年	CHO,Youn-Jeong KIM,Soo-Nyung LEE,Eun-kyung	KOR	4094	1992年

OLYMPIC ROUND

O.R.MATCH (18)	大内 愛 今福 織江	(日本) (日本)	159	1994年	HAN,Hee-Jeong	KOR	171	1994年
O.R.MATCH (12)	市木 玲子	(広島)	111	1993年	KIM,Hyo-Jeong	KOR	117	1993年
O.R.MATCH TOTAL (72)	大内 愛	(広島)	632	1994年	KIM,Kyung-Wook	KOR	673	1995年
O.R.TEAM MATCH (3×9)	大内 愛 児玉 絹枝 小出美沙都	(日本)	237	1996年	LIN,Sang WANG,Xlaozhu ZHANG,Fan	CHA	250	1994年
O.R.TEAM MATCH (3×27)	今福 織江 大内 愛 八木かおり	(日本)	679	1994年	KIM,Kyung-Wook KWON,Xlaozhu OH,Young-Ok	KOR	735	1995年

50, 30M ROUND

50,30m ROUND	浅野 真弓	(佐 賀)	671	1996年				
50M	浅野 真弓	(佐 賀)	324	1996年				
30M	児玉 晶子	(神奈川)	349	1987年				
TEAM TOTAL	浅野 真弓 児玉 絹枝 濱本 統子	671 640 612	1907 (神奈川)	1996年				

〈日本最高記録〉

DOUBLE FITA ROUND

DOUBLE FITA ROUND	児玉 晶子	(神奈川)	2621	1986年				
70M	児玉 晶子	(神奈川)	638	1986年				
60M	児玉 晶子	(日本)	664	1987年				
50M	中込 恵子	(日本)	649	1990年				
30M	伊藤 邦栄	(関西大)	691	1984年				
TEAM DOUBLE FITA ROUND	児玉 晶子 柴田 晶与 石津 裕子	2531 2495 2463	7489 (日本)	1986年				

INDOOR TARGET ARCHERY
OLYMPIC DIVISION

男 子

18m (60)	山本 博	(日本)	591	1995年	Magnus PATTERSON	SWE	596	1995年
25m (60)	山本 博	(埼玉)	592	1994年	Magnus PATTERSON	SWE	593	1993年
O.R.MATCH (18)	山本 博	(埼玉)	178	1996年	Richard JOHNSON	USA	179	1995年
O.R.MATCH (12)	山本 博	(埼玉)	117	1996年	Richard JOHNSON	USA	120	1995年
O.R.MATCH TOTAL (36)	松田 浩行	(福岡)	344	1996年	Alessandro RIVOLTA	ITA	356	1996年
O.R.TEAM MATCH (27)					I.PAKHOMERENKO Dimitri TARASOV S.ZABRODSKI	UKR	267	1996年
O.R.TEAM MATCH TOTAL (2×27)					I.PAKHOMERENKO Dimitri TARASOV S.ZABRODSKI	UKR	531	1996年

女 子

18m (60)	田原 雅代 岩崎 友加	(愛知) (学連)	565	1996年	Natalia VALEEVA	MLD	590	1995年
25m (60)	池垣 倫子	(北海道)	569	1994年	ERICSSON Petra	SWE	592	1991年
O.R.MATCH (18)	三上裕佳里	(学連)	169	1996年	Natalia NASARIDZE	TUR	178	1995年
O.R.MATCH (12)	児玉 絹枝	(佐賀)	117	1996年	Natalia VALEEVA	MLD	120	1995年
O.R.MATCH TOTAL (36)	児玉 絹枝	(佐賀)	335	1996年	Natalia VALEEVA	MLD	354	1996年
O.R.TEAM MATCH (27)					Natalia BELUKA Tatanla MOUNTIEN Lina GERASIMENKO	UKR	261	1995年
O.R.TEAM MATCH TOTAL (2×27)					Natalia BELUKA L.GERASIMENKO Y.SADOVNITCHIA	UKR	520	1996年

記録収集について

競技委員会

記録収集の意義につきましては組織の歴史であり、同時に将来的な発展の最も大きな原動力となるべきものであります。競技力の向上、組織の活性化、競技の普及拡大、すべてこの記録無しには考えられません。つきましては記録送付及び記入要領は下記のとおりお願いします。

- 【1】送付記録は原則としてコンピュータデータの形式とする。
- 【2】種別、種目、項目は次の通りとする。
 - 男女別 個人 シングルラウンド
 - 50・30mラウンド
 - 団体 シングルハーフ（各18射）
- 【3】各都道府県で【2】の2種別、12種目について競技者のランキングを作成し、そのデータを送付する。
- 【4】送付用フロッピーは競技委員会より配布するので、その中に入力する。
- 【5】記録送付競技会
 - (1) 全国高体連に登録した競技会（3競技）
 - (2) 全ア連公認競技会（他県の競技会は不可） } 年間事業計画様式【1】で提出してあること。

データ入力上の注意

- 【1】各項目への入力について
 - (1) 配布されたフロッピーの“例”に従って入力すること。
 - (2) 各項目の氏名は1人1回になるように各県で整理をしてください。
 - (3) ランクは消去して下さい。
 - (4) 登録番号は必ず入力して下さい。
 - (5) 氏名
 - 全角左詰めとします。（全角6文字）
 - 例 氏2文字 名2文字
 - 氏2文字 名1文字
 - 氏1文字 名2文字
 - 氏3文字 名3文字
 - 氏3文字 名1文字
 - (6) 記録入力期間
 - 当該年度の4月1日～11月20日迄とする。
- 【2】得点記録集計のフロッピーについて
 - (1) LOTUS-123 WJ2,WJ3で作成されたデータとする。
 - (2) フロッピーは3.5インチ（2HD）を使用するが、5インチ（2HD）でも良い。
 - (3) フロッピーは必ずコピーディスクにラベルをつけ、県名、入力責任者、学校名、電話番号を記入して送付する。

(4) フロッピーの返却はしないので、必ずバックアップを取ってください。

【3】送付締切期日

締切期日 当該年度の11月20日（必着）

受け付けは11月1日～ 遅れると入力されませんので注意してください。

【4】送付先

〒 770 徳島市大和町2-2-15

徳島東工業高校

住友 和雄 宛

TEL 0886 53-3274

FAX 0886 53-3296

★問い合わせ・質問は出来るだけFAX又は郵便でお願いします。

【5】ランキング表購入依頼

(1) ランキング表は1冊1000円です。

(2) 全国高体連に登録されている学校は、最低一冊以上の購入をお願いします。

(3) 購入申し込みは各県の専門委員長が取りまとめて、フロッピー送付時に申込書に必要事項を記入して申し込む。

(4) 支払いは全国高体連アーチェリー専門部事務局の口座に振込む。

ランキング表申込書

県名	
申込み部数	部
専門委員長名 _____	
学校名 _____	
郵便番号 _____	
住所 _____	
電話番号	() -
FAX番号	() -

高校公認記録規程

- 第1条 全日本アーチェリー連盟（以下「全ア連」という。）規約第6章第138条にもとづき、全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「本専門部」という。）事業計画（様式I）により提出し認められたもの。
- 第2条 本連盟の加盟・登録者が、この規定の定めるところにより、その加盟学校および登録構成員が、以下にかかげる諸条項のもとに行われた競技会において作られた記録に限り公認申請することができる。
- 第3条 日本高校記録は、全ア連競技規則第138条の外、次の条件を満たすこと。
- 1) 当該年の4月1日現在18歳未満の高校生の記録であること。ただし、定時制生徒は19歳未満とする。
 - 2) (1)全ア連が公認した競技会における記録。
(2)各都道府県単位または地域高校競技会の記録。
ただし、印刷したプログラムがあり、競技委員長・審判長・射場長は公認審判員であること。
(3)50M・30Mラウンド及びハーフラウンド団体の記録は、ハーフラウンドの競技会の記録であること。
- 第4条 個人の距離別の記録公認については、第3条に規定された競技会において樹立されたものを申請することができる。
- 第5条 前条に定める競技会の記録公認申請は、競技の日より原則として1カ月以内に主催または主管団体長が前条の確認をなし、全ア連所定の記録承認申請書（連盟様式一6）に必要事項を記載し、全ア連事務局に提出するものとする。
- 第6条 全ア連理事会で審査の結果、新記録として承認されたときは、その旨を本専門部においても発表し、高等学校記録証を交付する。
- 第7条 毎年12月10日付をもって、各都道府県高体連ア専門部または各都道府県ア協会は第3条に定めた競技会に於ける当該都道府県の高等学校最高記録を保管し、その写しを毎年12月20日までに本専門部事務局まで送付しなければならない。
- 第8条 本規定は、本専門部理事会において改廃する。
- 第9条 本規定は昭和57年5月9日より施行する。

昭和60年4月1日一部改正

昭和63年2月11日一部改正

平成6年8月5日一部改正

平成8年3月26日一部改正

申請書送付先

〒150 東京都渋谷区神南1-1-1

岸記念体育会館内 全日本アーチェリー連盟 宛

主管団体名
会 長 名



記録承認申請書

下記の通り新記録が樹立されましたので、ここに承認申請をいたします。

申請内容	日本記録	日本高校記録	日本国際記録
競技会名	第 回		
期 日	平成 年 月 日～ 月 日、(日間)		
会 場			
区分・種別	団 体	個 人	男 子 / 女 子
種目・距離	ハーフ・R	シングル・R	ダブル・R / グランド・R
	個人TOTAL	個人距離	90. 70. 60. 50. 30.m
競技者名	(学校・所属名)	①氏名:	登録番号 H -
		②氏名:	登録番号 H -
		③氏名:	登録番号 H -
記録内容	団体記録	合計: _____点	
		① _____点 (90・70m : _____点・50m : _____点)	
		② _____点 (90・70m : _____点・50m : _____点)	
	③ _____点 (90・70m : _____点・50m : _____点)		
個人記録	_____点 (_____, _____, _____点)		
距離記録	_____m : _____点 (_____点・ _____点)		
	_____m : _____点 (_____点・ _____点)		
競技会責任者	競技委員長または審判長の署名・捺印		
備 考	<p>1. 申請書は、新記録が樹立された種目毎に1枚あて提出すること。</p> <p>2. 添付種類は、①スコアシート一の写し(コピー可)、 ②競技会プログラム、 ③競技会成績一覧表、 を提出すること。</p> <p>3. 未登録の場合、記録樹立後の競技者登録および承認申請書の提出は、いかなる理由があっても認められない。</p>		

大会開催地・開催地順(予定)

和 歴	西歴	I H・選手権	選 抜 大 会	国 体
平成9年	1997	京都府・日吉町	茨城県・波崎町	大阪府・堺市
平成10年	1998	香 川・丸岡市	茨城県・波崎町	神奈川県
平成11年	1999	岩 手・松尾村	茨城県・波崎町(予定)	熊本県
平成12年	2000	岐 阜・高山市		富山県・宇奈月
平成13年	2001	沖 縄(予)		宮城県
平成14年	2002	茨 城(予)		高知県

I Hは、東 地区・・・北海道・東北・関東地区(15都道府県)

中 地区・・・北信越・東海・近畿地区(15府県)

西 地区・・・中国・四国・九州地区(17県)

のローテーション(東・中・西)で9年に1回の開催。

平成9年度インターハイについて

競技日程

日 程		時 刻	摘 要
	8月4日(月)	9:00~10:00 11:30~12:30 13:30~14:30	監督会議 男子公式練習・女子弓具検査 女子公式練習・男子弓具検査
1日目	8月5日(火) 団体競技・個人競技 予選ラウンド長距離	9:00~ 9:50 10:30~13:00 13:40~16:10	開会式 男子90M・70M 各18射 女子70M・60M 各18射
2日目	8月6日(水) 団体競技・個人競技 予選ラウンド短距離	9:00~11:55 12:40~15:30 12:35~16:10	男子50M・30M 各18射 女子50M・30M 各18射 予選通過校及び選手発表
3日目	8月7日(木) 個人競技 決勝ラウンド 表彰式	9:00~10:15 10:50~11:20 11:40~12:10 12:40~13:05 13:25~13:50 14:10~14:35 15:20~15:35	個人男女1回戦 個人男女2回戦 個人男女準々決勝 個人男女準決勝 個人男女3位決定戦 個人男女優勝決定戦 個人戦表彰式
4日目	8月8日(金) 団体競技 決勝ラウンド 表彰式・閉会式	9:00~10:00 10:10~11:05 11:15~11:40 11:50~12:15 12:25~12:50 12:55~13:20 14:10~14:50	団体男子1回戦 団体女子1回戦 団体男女準々決勝 団体男女準決勝 団体男女3位決定戦 団体男女優勝決定戦 表彰式・閉会式

競技規定

平成9年度(社)全日本アーチェリー連盟標的規則及び大会運営規定による。

競技方法

(1) 予選ラウンド

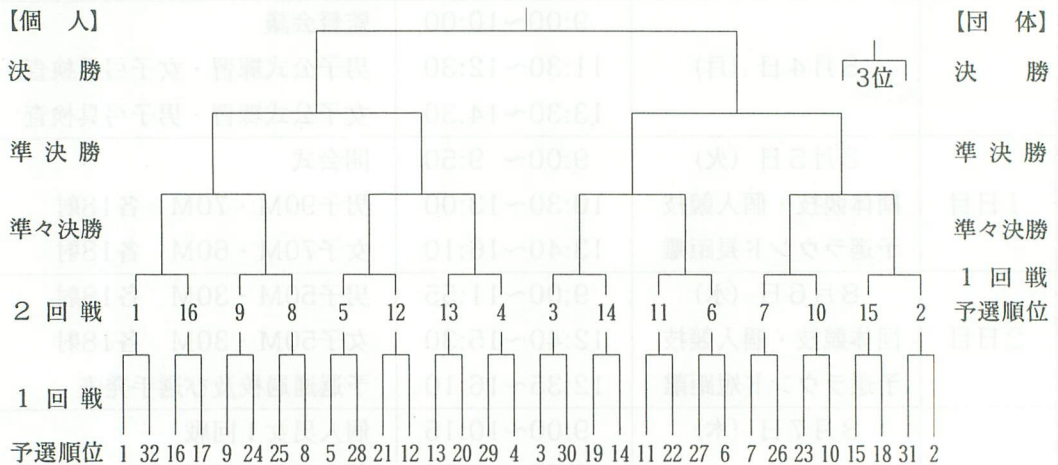
- ア 1レーン2的で1的同時2人の2立(AB・CD)とする。
- イ 得点記録・矢取りは、長距離は1エンド6射毎、短距離は、1エンド3射毎に行う。
- ウ 1日目は長距離のハーフ・ラウンドを行う。
- エ 2日目は短距離のハーフ・ラウンドを行う。
- オ 個人競技の成績順位は、長距離と短距離の合計点で決定する。

なお、団体競技出場選手は、個人競技を兼ねるものとする。

カ 団体競技の成績順位は、出場選手3名（同一校）の個人得点合計で決定する。

キ 団体競技の予選通過チーム数は、男女共各上位16位までとし、個人競技の予選通過者は、男女共各32位までとする。

ク 決勝ラウンドの組合せは、団体競技及び個人競技共、次の通りとする。



(2) 決勝ラウンド

ア 団体競技及び個人競技共70Mの行射距離で行う。

イ 得点記録・矢取りは1エンド毎に行う。

ウ 団体競技の行射方法

すべての対戦は、チーム毎に1名の競技者のみがシューティングライン上に立ち行射を行い順次交替行射する。

各チーム27射＝3分以内に9射（3名3射づつ）×3エンドとする。

エ 個人競技の行射方法

1回戦・2回戦は、18射、準々決勝・準決勝・3位決定戦及び優勝決定戦は、12射で行う。

(3) 選手の登録と交代

ア 団体競技のエントリーは4名（補欠1名含む）とし、申し込み書に記載された上から順に3名を登録された出場選手とする。

イ 選手の交代は、団体競技に限ってエントリーされた補欠選手との交代を認める。なお、申し込み後は、エントリー選手の変更は認めない。

ウ 交代の届出は、公式練習終了後まで、または決勝ラウンドが開催される前日の午後4時までとし競技本部で承認を得たものに限り認めるものとする。

(4) 得点記録

ア 予選ラウンドでは、当該標的使用選手の相互得点記録（マーカー）方式とし、得点記録委員がスコアシートに記入する。

イ 得点記録の報告における虚偽や不正申告の場合には、当該標的使用選手の確認が不履行として、当該選手または同一標的使用者の全てを失格処分とすることがある。

ウ 決勝ラウンドでは、審判員による得点記録方式とし、得点を速やかに得点板に表示する。

「アーチェリー活動・安全要領等」の制定と 活動の安全と事故防止について

時下、向寒のみぎり各位にはますますご清祥ご発展のこととお慶び申し上げます。

平素は本専門部の発展振興に格別のご留意を賜り、あわせて、生徒のクラブ活動への日々の献身的な指導に対しまして、厚く感謝とお礼を申し上げます。

さて、過日の全国高等学校体育連盟理事会において、別添資料のとおり平成7年度高校総体時の事故状況、並びに特別教育活動下における不祥事等の報告がなされました。

ことに弓道部の傷害事故は、日ごろから「飛び道具（武器）」を使用して、同質種目を指導する立場の者として、ふたたび同様な事態等が起これば、世間からの輦蹙と厳しい批判や条例をもってして、使用や活動の制限を策定されても止むを得ない状況であり、強い危機感を持って厳粛に受け止めざるを得ません。

また、近年の矢ガモ事件の繰り返しや、ネコの首筋に残る殺傷矢の事件報道から、世間一般ではクロス・ボーもアーチェリーも同質同形の「弓・矢」であるとの認識から、事あるごとにその違いを説明し理解を得なければならない、煩わしく憂鬱な事柄に困惑しておられることも事実であります。

このような状況から、本専門部におきましても、アーチェリーに関わる者全体が事態を真摯に受け止め、活動の安全化と事故防止については幾重にも指導確認し、自律自省ある行動要領を策定する必要があるものと、切実に感じるところです。

つきましては、これを契機に各都道府県アーチェリー専門部におかれても、改めて「免許のいない飛び道具（武器）」を扱う者の心構えや、これをスポーツ文化として継承していく担い手であるとの自覚を喚起するような、貴専門部への加盟校を統括する活動要領等を早急に制定され、安全と事故防止について自律的・意図的な高次の活動指針や方策等の確立を望む次第です。

また、機会あるごとに、アーチャー全体にも健全なスポーツ文化の発展の為に、各自が活動の安全化を図るうえでの義務を遂行され、事故防止に理性的・情緒的に尽くすべきことを、繰り返し周知、ご指導くださるよう切望します。

全国高体連アーチェリー専門部 部長 松崎洋右

全国高体連アーチェリー専門部活動要綱(安全対策)

1. 活動目的

クラブ活動としてアーチェリーを正しく真剣に学び、技術の向上をはかるとともに、心身を練磨して、礼節を尊び、自己の修養に努め、立派な人間形成を目指すものとする。また、部活動を通じ、先輩後輩の集団生活の中から、和の大切さを学び、部員相互の親睦を深めることをもって目的とする。

2. 活動内容

(1) 練習日 学校長または顧問の承諾を得た日とする。

(2) 合宿 学校長の承諾を必要として以下のとおりとする。

1) 学校(部活)主催の合宿

2) 各都道府県アーチェリー協会主催の合宿

3) 各都道府県高体連主催の合宿

(3) 対外試合

・高体連主催の各種大会

・県または市協会(競技団体)が主催し、県高体連が共催する大会

・競技団体が主催し - 体連が共催する大会

・全国高体連主催の大会

・競技団体が主催し、全国高体連が共催する大会

・国民体育大会及び予選大会

・教育委員会が主催する都道府県内の市区町村大会

・競技水準の高い者を選抜して開催する大会

・学校長の(承諾を得て参加する)練習試合及び招待試合

3. 練習内容

・練習内容は、主将が他の役員と相談し、顧問教員の許可を得て決定する。

・随時筋力トレーニング、ランニング等のトレーニングを導入する。

・部員は、いかなる場合も指導教員及びコーチの指示に従わなければならない。

4. 安全対策(アーチェリー部員の遵守項目)

・弓具は常に点検すること(特に弦切れ)

・他人の弓具に無断でふれないこと

・アームガード等は、必ず使用すること

・ストリンガーで弦を張るとき、弓の真上に顔をおかないようにする

・身体にフィットした服装で行射する事(上着のポケットに物を入れたりして行射しないこと)

・的の方向に人がいたら決して行射しないこと

・人のいる方向に向いてたとえ矢をつがえてなくても弓をひかないこと

- ・空引き（矢をつがえずに弦を離すこと）はしない
- ・矢取りは、全員同時に合図をもって行うこと
- ・矢を抜くとき、矢の後方に人がいないことを確認してから抜くこと（他人の目をつくことがある）
- ・的の後方に矢取りに行くときは安全を確認しておこなうこと
- ・弓矢は土の上におかず、グランドクイバー等を使用する。

5.健康管理

- ・体調の悪い場合は無理に参加しないこと。
- ・練習中気分が悪くなったら先生にすぐに知らせること。
- ・日々規則正しい生活をし、各自健康に留意すること。

6.その他

- ・練習を遅刻、欠席する場合は責任者に届け出ること。
- ・先生、先輩はもちろん、お互いにきちんと挨拶をかわすこと。
- ・アーチャーとして気品ある行動をとること。

服装規定

競技部 競技委員会 細則
昭和62年2月11日改定
平成5年3月26日改定
平成8年7月31日改定

大会参加者における競技用の服装は、チーム内で統一されていること。統一の範囲は、上衣、下衣、帽子、靴、靴下とする。

1、上衣

学校名は背面もしくは前面に、県名は右腕の袖口に、それぞれ1ヶ所明示しなければならない。なお、いずれも弓具装着時に視認できる位置に表示する。

その他の名称等は表示しないものとする。(その他の名称等には学校名、クラブ等の愛称も含む)

長袖、短袖は同一デザインならば、混在し着用できる。

2、下衣

競技するのに適した形態で、全体が、男子はクラックス、女子はスカート（キュロットスカートも可）またはスラックス。ジーンズ、綿パン、ジャージ等は競技用として認めない。

3、帽子、靴、靴下

白地のものとする。靴は運動シューズとする。(カジュアル、ダンス、タウン等の競技に適さないと認められるものは使用できない。)

4、その他

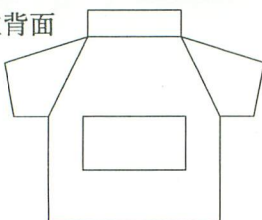
- (1) チームとは登録選手、マネージャーとする。
- (2) 監督が競技場内に立ち入るときは、下衣は白色スラックス、もしくはスカートとし、靴は白地の運動シューズとする。但し、監督の服装も選手と同じユニフォームを着用していることが望ましい。
- (3) 使用頻度、経年による上衣等の退色等は認める。
- (4) 大会の場にふさわしくない服装は認めない。
- (5) 視認できる部分の商標の大きさ基準は縦、横5cm×5cmとする。
- (6) 防寒・防雨具の着用は認める。ただし着用する場合はユニフォームの一部とし、チーム内の統一をはかること。

上記の規定外の服装に関しては、審判長および大会実施責任者の裁定に委ねる。

*備考

【競技用ゼッケンの装着位置】

上位背面



左図のように上衣両脇を結んだ線を上端とする位置に装着する。ただし、このゼッケンにより学校名等の視認が妨げられないようにすること。

主催者側で用意するゼッケンは縦15cm、横25cmです。

尚、本規定は平成9年4月1日より実施するものとする。

全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約

第 1 章 名 称

第 1 条 本専門部は全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部と称する。

第 2 条 本専門部の事務局は部長指定の学校に置く。

第 2 章 目 的

第 3 条 本専門部は全国高等学校体育連盟（以下「全国高体連」と称する）規約第 3 条に基づき、高等学校におけるアーチェリー競技の健全な育成発展を図ることを目的とする。

第 3 章 事 業

第 4 条 本専門部は第 3 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 全国大会開催に関する事項の審議並びに執行。
- (2) アーチェリーの普及並びに競技力の向上に関する事項。
- (3) アーチェリーの講習及び調査研究。
- (4) 関係団体との連絡。
- (5) その他目的達成に必要な事項。

第 4 章 組 織

第 5 条 本専門部は全国高体連規約第 6 条に基づき、各都道府県アーチェリー専門部をもって組織する。

第 5 章 役 員

第 6 条 本専門部は次の役員を置く。

- (1) 役員
 1. 部長 1名
 2. 副部長 若干名
 3. 委員長 1名
 4. 副委員長 若干名
 5. 常任委員（ブロック代表 9 名＋若干名）
 6. 委員（各都道府県より 1 名）
 7. 監事 2 名
 8. 事務局長 1 名
- (2) 本専門部は顧問を置くことができる。

第 7 条 役員の内任期は 2 ヶ年とする。但し、再任は防げない。補欠によって就任した役員の内任期は前任者の残任期間とする。

第8条 本専門部の役員は校長、教諭より選出する。但し、顧問を除く。

- (1) 部長及び副部長は委員の推薦により、全国高体連理事会の承認を得て、部長をこれを委嘱する。
- (2) 常任委員は全国9ブロック（北海道・東北・関東・北信越・東海・近畿・中国・四国・九州）において選出された1名と若干名の推薦者を部長これを委嘱する。
- (3) 委員は各都道府県高体連アーチェリー専門部より1名を選出する。
- (4) 委員長及び副委員長並びに事務局長は常任委員会にて選出し、全国専門委員長会（以下委員会と称する）にて承認する。
- (5) 監事は委員会で選出する。
- (6) 顧問は委員会で推挙することができる。

第9条 役員の仕事及び構成は次のとおりとする。

- (1) 部長は本専門部を代表し、会務を統轄し全国高体連理事会に出席する。副部長は部長を補佐し、部長事故あるときはその職務を代行する。
- (2) 三役は三役会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長）を構成し代表者会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、競技委員長、強化委員長、審判委員長、総務委員長）とともに本専門部の企画、立案する。
- (3) 常任委員は、常任委員会（部長、副部長、委員長、副委員長、事務局長、常任委員）を構成し、本専門部の企画立案するとともに委員会の承認をえてその執行にあたる。
- (4) 委員は委員会（各都道府県代表、部長、副部長、委員長、副委員長、常任委員、監事、顧問）を構成し、本専門部の重要事項を審議決定する。
- (5) 監事は本専門部の会計を監査し、その結果を委員会に報告する。
- (6) 顧問は本専門部の組織運営について委員会並びに常任委員会の諮問に応ずる。

第6章 会議

第10条 委員会は年1回部長が召集し、次の事項を審議する。但し、部長が必要と認めた場合または委員の3/5以上から会議の目的事項を示して請求があった場合は、速やかに委員会を召集しなければならない。

- (1) 会議では次の事項を審議する。
 - ア. 事業報告並びに計画
 - イ. 決算並びに予算
 - ウ. 役員を選出
 - エ. 規約の改正
 - オ. その他の重要事項

第11条 常任委員は必要に応じ、部長がこれを召集する。常任委員は常任委員会の開催を要請できる。

第12条 委員会及びに常任委員会は総会の $\frac{1}{2}$ 以上の（委任状を含む）の出席がなければ開くことができない。すべての会議は部長が議長となる。

第 7 章 専門委員会

第13条 本専門部の事業遂行のため、各種の専門委員会を設けることができる。

(1) 専門委員会の名称・目的及び委員は委員会の決議を経て部長が定める。

(2) 専門委員会の規定は別にこれを定める。

第 8 章 事務局

第14条 本専門部に事務局をおく。事務局の規定は別にこれを定める。

第 9 章 規約の変更

第15条 本専門部の規約は委員会において、委員の $\frac{2}{3}$ 以上の同意を得て変更することができる。

第 10 章 会 計

第16条 本専門部の経費は補助金・助成金その他の収入によってこれをあてる。

第 11 章 付 則

第17条 規約の施行については必要な事項は委員会の議決を経て部長が定める。

附則 この規約は平成元年2月11日より施行する。

平成5年8月1日一部改正

総務委員会規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき総務委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第2条 本委員会は次の事業を処理する。

1. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第4条の事業に必要な資金を調達すること。
2. 優秀選手の表彰に関すること。
3. 関係功労者の表彰に関すること。
4. 規約改正に関すること。
5. 機関誌の発行に関すること。

第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。

1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
2. 部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。

第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。

第5条 委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

昭和60年8月10日一部改正

平成元年7月27日一部改正

平成5年8月1日一部改正

競 技 委 員 会 規 程

- 第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき競技委員会（以下本委員会と称する）を設ける。
- 第2条 本委員会は次の事業を処理する。
1. 競技会に関する基本方針を確立すること。
 2. 全国高等学校アーチェリー選手権大会および選抜大会の実施方法その他の重要事項を審議すること。
 3. 本専門部関係の競技会の調整をはかること。
 4. 各競技会の記録整理および認定保存をはかること。
 5. その他競技に関する必要事項。
- 第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。
1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
 2. 部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。
- 第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。
- 第5条 委員長ならびに副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。
- 第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。
- 第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。
- 第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。
- 第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。
- 第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

昭和60年8月10日一部改正

平成元年7月27日一部改正

平成5年8月1日一部改正

審判委員会規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき審判委員会（以下本委員会と称する）を設ける。

第2条 本委員会は次の事業を処理する。

1. 競技会への審判員派遣に関する基本方針を確立すること。
2. 審判員養成および研修事業に関すること。
3. 審判資格修得および更新に関すること。
4. その他、競技規則および審判に関する必要な事項。

第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。ただし、必要に応じて臨時の委員を置くことができる。

1. 全国9地区（ブロック）の審判委員会委員長および専門部長が常任委員の中から指名する若干名の委員。
2. 委員会で推薦された若干名の委員。

第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。

第5条 委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。

第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。

第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。

第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。

第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。

第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。

第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は平成元年7月27日より施行する。

平成5年8月1日一部改正

強化委員会規程

- 第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第13条に基づき強化委員会（以下本委員会と称する）を設ける。
- 第2条 本委員会は次の事業を処理する。
1. 強化ならびに普及活動に関する計画立案と、その推薦および指導に関すること。
 2. 国際競技等に代表選手を派遣すること。
 3. 指導者の養成および活動に関すること。
 4. その他、強化、普及に関する必要な事項。
- 第3条 本委員会は次の委員をもって組織する。
1. 本委員会において推薦された若干名の委員。
 2. 部長が常任委員の中から指名する若干の委員。
- 第4条 本委員会は委員長1名、副委員長1名、委員若干名を置く。
- 第5条 委員長および副委員長は、委員の互選とし部長が委託する。
- 第6条 委員長は本委員会を代表し、本委員会の会務を掌握する。
- 第7条 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故ある時はその職務を代行する。
- 第8条 委員の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。補欠によって就任した委員の任期は前任者の残任期間とする。
- 第9条 本委員会は委員長が召集し、その議長となる。
- 第10条 本委員会が事業を処理するにあたっては、常任委員会にはかり、承認を受ける。
- 第11条 緊急事項で本委員会に付議することができないときは常任委員会が代行し、次の本委員会に報告し承認を受ける。

附則 この規程は昭和58年8月1日から施行する。

平成元年7月27日一部改正

平成5年8月1日一部改正

事 務 局 規 程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部規約第14条に基づき事務局に関わる規定を定める。

第2条 事務局は次の事業を処理する。

1. 全国高等学校体育連盟との連絡等に関する事。
2. 各大会における関係機関への連絡等に関する事。
3. 全日本アーチェリー連盟と各都道府県アーチェリー協会（連盟）との連絡等に関する事。
4. 各都道府県高等学校体育連盟アーチェリー専門部との連絡に関する事。
5. 会員登録に関する事。
6. その他部長が指定する事項を処理する。

第3条 事務局には次の職員を置く。

事務局長 1名 事務員 若干名

第4条 事務局長は、事務局を統轄し、事務局員を指導監督する。

第5条 事務局員の数並びにその任命は常任委員会の承認を得て事務局長が行う。

第6条 事務局員は事務局長の命を受け、本専門部会の事務を処理する。

第7条 事務局長の任期は2ヶ年とする。ただし、再任は妨げない。

附則 この規程は平成元年7月27日より施行する。

平成5年8月1日一部改正

アーチェリー専門部表彰規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下専門部と称する）では、表彰に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し表彰する。

第2条 この規程は全国高等学校体育連盟アーチェリー競技の普及振興に功績があった者等に対し表彰を行うとともに、全国高等学校体育連盟表彰規程の被表彰者の推薦母体に資することを目的とする。

第3条 前条に定める被候補は、次の各号から推薦するものとする。

1. 本専門部長・専門委員長・専門部役員。
2. 各都道府県専門部長・専門委員長。
3. その他。

第4条 表彰者の選考は部長・副部长・委員長・副委員長・事務局長があたり、常任委員会の承認を受けるものとする。

第5条 表彰は、常任委員会または全国高等学校アーチェリー選手権大会において行う。

第6条 本規程表彰者推薦のための基準は次の通りとし、重複表彰はしない。

1. 本専門部長・専門委員長・専門部役員。
 - 1) 専門部役員については、3期（6年）以上とする。
2. 各都道府県専門部長・専門委員長。
 - 1) 専門委員長については6年以上とする。
3. その他、特に功績のあった者。

第7条 推薦手続きは毎年4月中旬・10月中旬までに本専門部事務局宛に提出する。

第8条 経費は本専門部一般会計より支出する。

附則 この規程は昭和58年8月1日より施行する。

平成元年7月27日一部改正。

平成3年7月25日一部改正。

アーチェリー専門部慶弔規程

第1条 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部（以下「専門部」と称する）では、慶弔に関する規程を次の通り定め、その該当者に対し敬意を表わすことができる。

第2条 その基準と範囲は次のとおりとする。

1) 慶事に関して

ア) 功績者および関係役員等が、他からの栄誉を称えられた場合。

2) 弔事に関して

ア) 功績者および関係役員等に不幸が生じた場合。

3) 範囲

ア) 記念品または弔慰金等およびこれらの電文とする。

第3条 その他、この規程に定めない特別の場合については、常任委員会の承認を得て敬意を表すことができる。

ただし、緊急の場合は部長がこれを支出し、常任委員会に報告・承認を得るものとする。

第4条 経費は本専門部一般会計より支出する。

附則 この規程は、平成2年4月1日より施行する。

連絡先および口座番号

1. 事務局 〈登録担当〉

〒153 埼玉県大宮市堀ノ内1-615 大宮開成高校内
TEL048-641-7161
FAX048-647-8881

2. 競技部 〈記録登録〉

○住友和雄 〒770 徳島市大和町2-2-15
徳島東工業高校
TEL0886-53-3274
FAX0886-53-3296

3. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部事務局の口座

(銀行名) あさひ銀行大宮支店 (店番369)
(預金種目・口座番号) 普通預金 2547079
(口座・代表者名) 全国高体連ア専事務局 宮崎 利帳

4. 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部総務の口座

(銀行名) 東海銀行覚王山支店 (店番) 264
(預金種目・口座番号) 普通: 161-215
(口座・代表者名) 全国高校アーチェリー 田中康彦

5. 斡旋物資について

平成7年度より斡旋物資についてはア専門部を経由せず、直接各地のミズノ販売店あるいはスポーツ用品店に問い合わせてください。

豊かな心を育む

 **名鉄観光**

国際人への大きな一歩

国際交流・姉妹校提携

海外修学旅行の提案

運輸大臣登録一般旅行業第55号

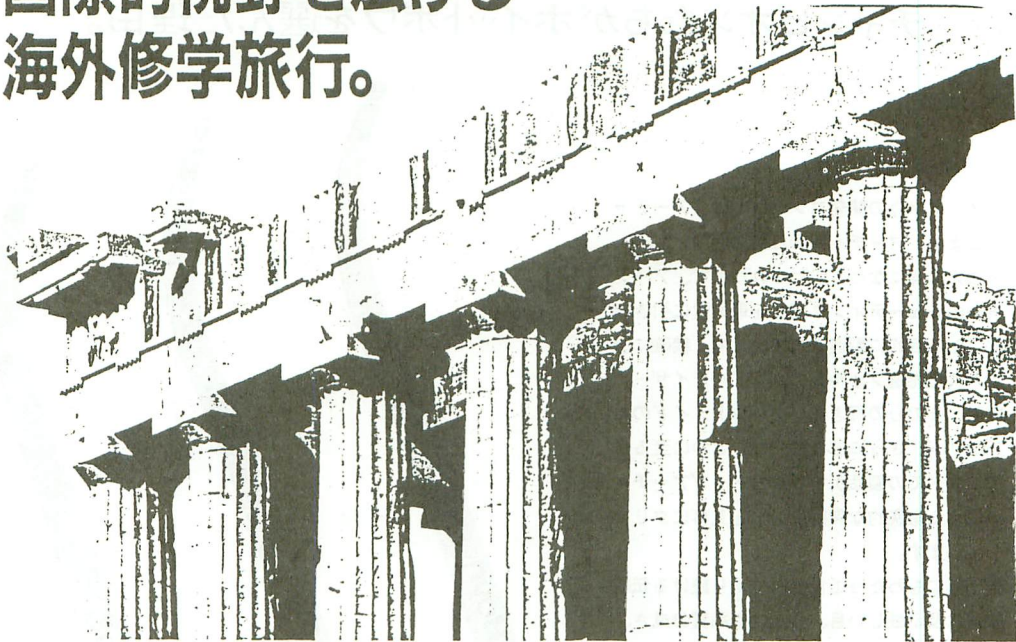
名鉄観光サービス株式会社

大阪修学旅行支店

〒541 大阪市中央区南本町4丁目4番24号

TEL (06) 244-0681

国際的視野を広げる 海外修学旅行。



近畿日本ツーリストは 学校教育の国際化を
TOTALにサポートいたします。

“大事な生徒様の、より安全な旅”
情報提供システム：海外直営支店ネットワーク：緊急医療ネットワーク
万全の体制で、皆様のご信頼にお応えしています。



(株)地球・人間環境フォーラム
近畿日本ツーリストは
世界の文化遺産や自然遺産の
保全、推進に協力しています。

 **近畿日本ツーリスト**
◎運輸大臣登録一般旅行業第20号

大阪第2（私学）教育旅行支店
☎（06）313-6900

CHAMPION'S CHOICE!

チャンピオンたちがホイトボウを選んだ理由。

ホイトボウの開発コンセプトは、“アーチャーによる、アーチャーのための弓”。つまり、射つ人の身になって設計された弓で、アーチャーのシューティング能力を最大限に引き出すことを目的に製造されています。精確に設計された先進フォルムのハンドルライザー。細部にまで心の行き届いたハンドメイドの精巧なリム。さらに部品の一つひとつに至るまで、すべての製品が世界的なトップアーチャーによる徹底的な実射テストを見事にクリアしています。

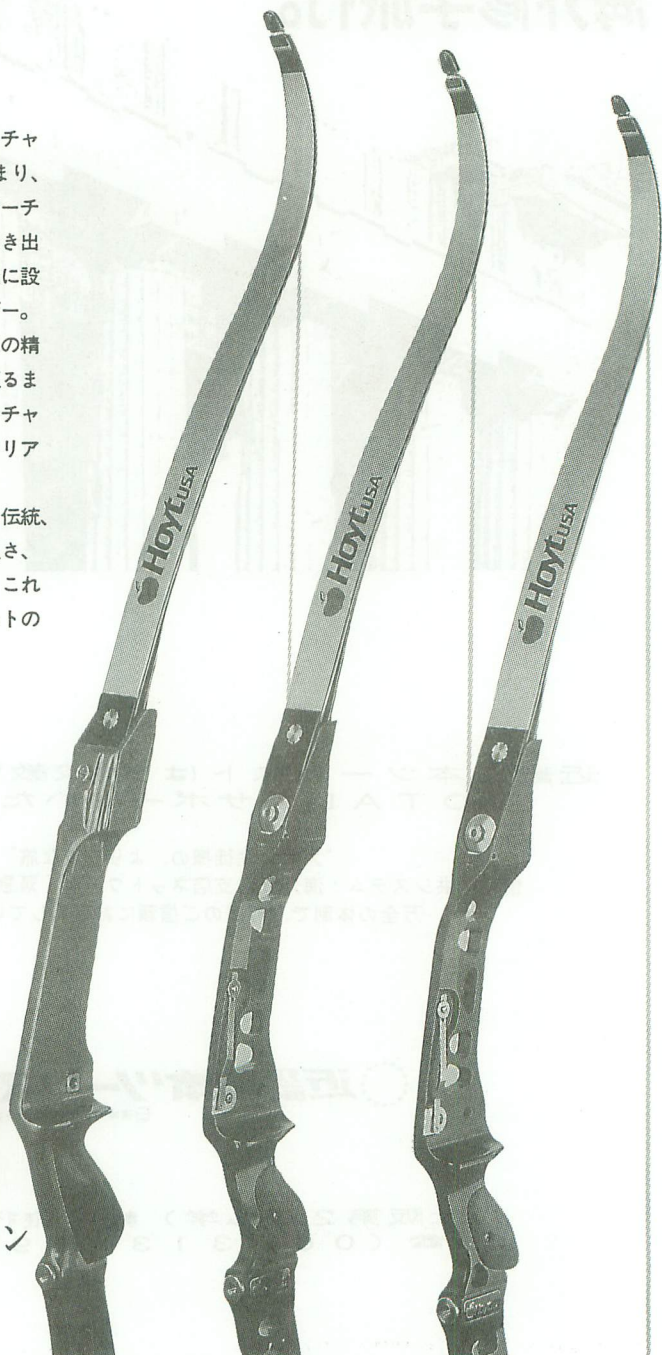
数十年にもわたって世界一であり続ける伝統。細部に及ぶ厳しい目、仕上げや品質の良さ、イノベーションや精度に対する追求心。これらすべてが、無類の優秀性を誇るホイトの世界的評価に結びついています。

(写真左より、ホイト・ゴールドメダリスト、
レイディアンL、レイディアンS)



株式会社アイ・コーポレーション

〒561 大阪市豊中市浜1-28-12
TEL .06-333-9023 FAX .06-334-3124





アーチェリー・テニス・オートキャンプ場

民宿旅館 西 の 家

表富士キャンピング場

〒418-02 静岡県富士宮市上井出(白糸の滝近く)

TEL(0544)54-0277(代表) FAX(0544)54-0277

みそら野洋弓場

白馬大雪溪のもと貴方も

合宿をしてみませんか!!

当館専用射場 巾40m 長さ100m

30m、50m、70m、90m

オールラウンド可能常設レンジ

宿舎より約300mの場所にあり

アカシヤの緑に囲まれた気持ちの

良い洋弓場です

〒399-93 長野県北安曇郡白馬村北城深空

みそら野館 太田典文

Tel 0261(72)2800

あ と が き

平成4年度5339名、平成5年度5302名、平成6年度5181名、平成7年度4832名、平成8年度4533名。これは過去5年間の全高ア連登録人数の変化であり、5年間で一割減。

これはアーチェリー専門部だけに限ったことではなく、他の高体連各専門部でも同じ現象が起こっております。その原因として、第1に高校生人口の減少、第2に生徒のクラブ離れ、俗に言う「帰宅部」生徒の増加、第3に当専門部固有の問題点として弓具の値段、など分析、考察すれば次々と列挙することができます。そして、「原因の分析・考察も重要であるがそれだけでは事態を解決する事はできない。今できることは何か、そして今しなければならぬ事は何かを考えることが大変重要である。」ということも今更言うまでもなく皆が気が付いていることです。しかしながら、それでは「今しなければならぬ事は何か」「今有効な手だては何か」ということになると明確な答えを出すことはなほだ困難であります。ならばその答えはどこに求めればよいのでしょうか。他の競技団体の対策でしょうか、行政でしょうか、それは自分自身の中にあると思います。我がア専門部は全国に1000人以上の顧問の先生を有しております。その中にはきっと有効な実践経験、アイデアをお持ちの先生がおられることと確信します。そして、その英知を結集、伝達する働きをこの会報が務めることができればと思っております。世界に通用する競技力の向上とともに、底辺の拡充を目指し全国の先生方のご協力、ご助言を切望いたします。

最後に会報11号発刊に当たりご協力いただきました皆様方に心よりお礼申し上げます。

(佐幸)

発行日 平成9年4月

編集 総務委員会

発行所 全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部

事務局 〒330 埼玉県大宮市堀ノ1丁目内615

大宮開成高校内 (TEL048-641-7161)

(FAX048-647-8881)

発行所 (株)シバタプロセス印刷

〒526 滋賀県長浜市神照町499-1

TEL (0749) 63-6860(代)

表紙の色 - 櫻 (さくら) -

みよし野の 山辺にさける 櫻花 雪かとのみぞ あやまたれける

(古今和歌集60 紀 友則)

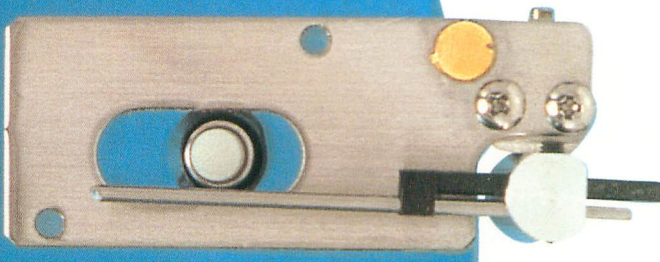
イーストン・アローシャフト輸入元
HOYT輸入元
ヤマハ特約店
ニシザワ特約店

レストピンの高さ、強さ、開角度、さらにレストピンの出し入れを可能にしたAREフリーチューニングレスト。アーチェリーをもっと楽しく、**アークチェリーをもっと易くするレストです。**

ラインアップのチューニングを求める人に

ARE FREE TUNING REST

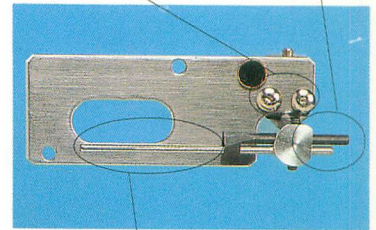
これで、ライバルに差をつける。



ここが、他のレストと違います。

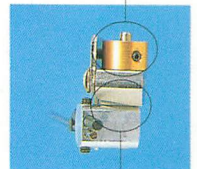
レストピンの強さが調節できるトルクアジャスター

高さ調節ビス



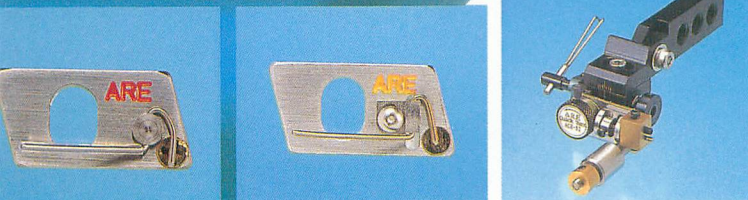
1.5径レストピン（出荷時）。ソフトな1.4径に交換可能

開角度調整カラー



ワッシャーの枚数によって、高さ調整も自由自在（下方向）

世界中で人気のAREラインアップ



マグネチックレスト AM-100 アジャスタブルレスト AM-100-ADJ クイックターンレスト ACR-02

[PRICE]
フリーチューニングレスト ¥4,500（左用¥5,000） ●マグネチックレストAM-100 ¥2,000（左用¥2,200）
アジャスタブルレストAM-100-ADJ ¥3,000（左用¥3,300） ●クイックターンレストACR-02 ¥23,000

世界中のアーチェリーを、毎日あなたにお届けします。

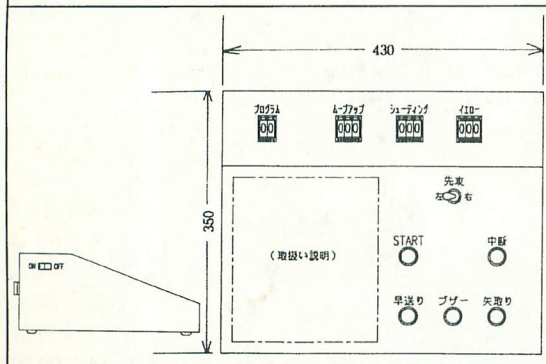
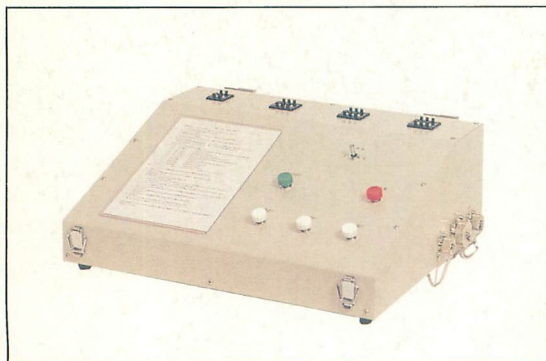
アサヒ弓具工業株式会社

〒170 東京都豊島区南大塚3-23-3 TEL.03-3986-2301,3971-2046 FAX.03-3986-2302

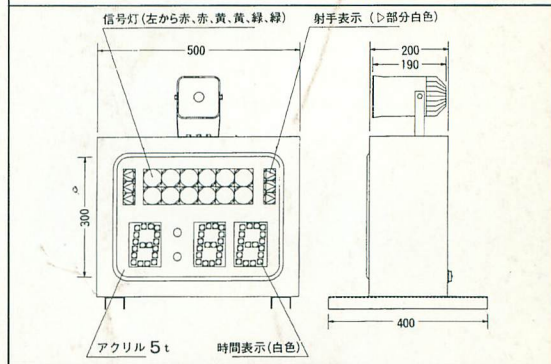
●年中無休●専用駐車場あり●営業時間：[平日] 10:00AM~7:00PM [日・祭日] 10:00AM~5:00PM

アーチェリー競技用表示装置

(全国高等学校体育連盟アーチェリー専門部 御推薦)



操作器



表示板

従来の競技用表示装置に比べ簡便、軽量、低価格とし、練習にもご使用頂けるものと致しました。

仕様

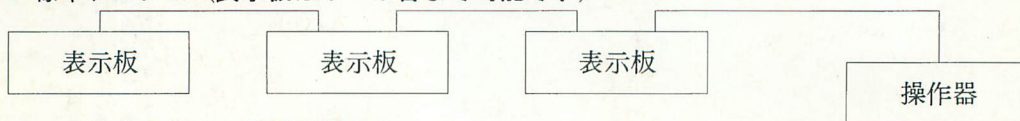
1. 操作器

- (1) 寸法 430mm×149mm×350mm
- (2) 標準プログラム内蔵
- (3) ムーブアップタイムおよびシューティングタイムが簡単に変更可能
- (4) マッチ戦対応機能付き

2. 表示板

- (1) 明るい所でも良く見える磁気反転式表示素子を使用
- (2) 屋外対応 (接続コネクタは、防水型を使用)
- (3) マッチ戦での射手表示付き

3. 標準システム (表示板は1~5台まで可能です)



* 表示板は、増設可能です。

4. 価格

- (1) 操作器 1台 310,000- (2) 表示板 1面 394,000- (3) ケーブル 50m 35,000-

製造・販売元

株式会社 啓明電装

問い合わせ 大阪市東住吉区桑津3丁目7番5号
 TEL (06) 719-4504
 FAX (06) 719-5073